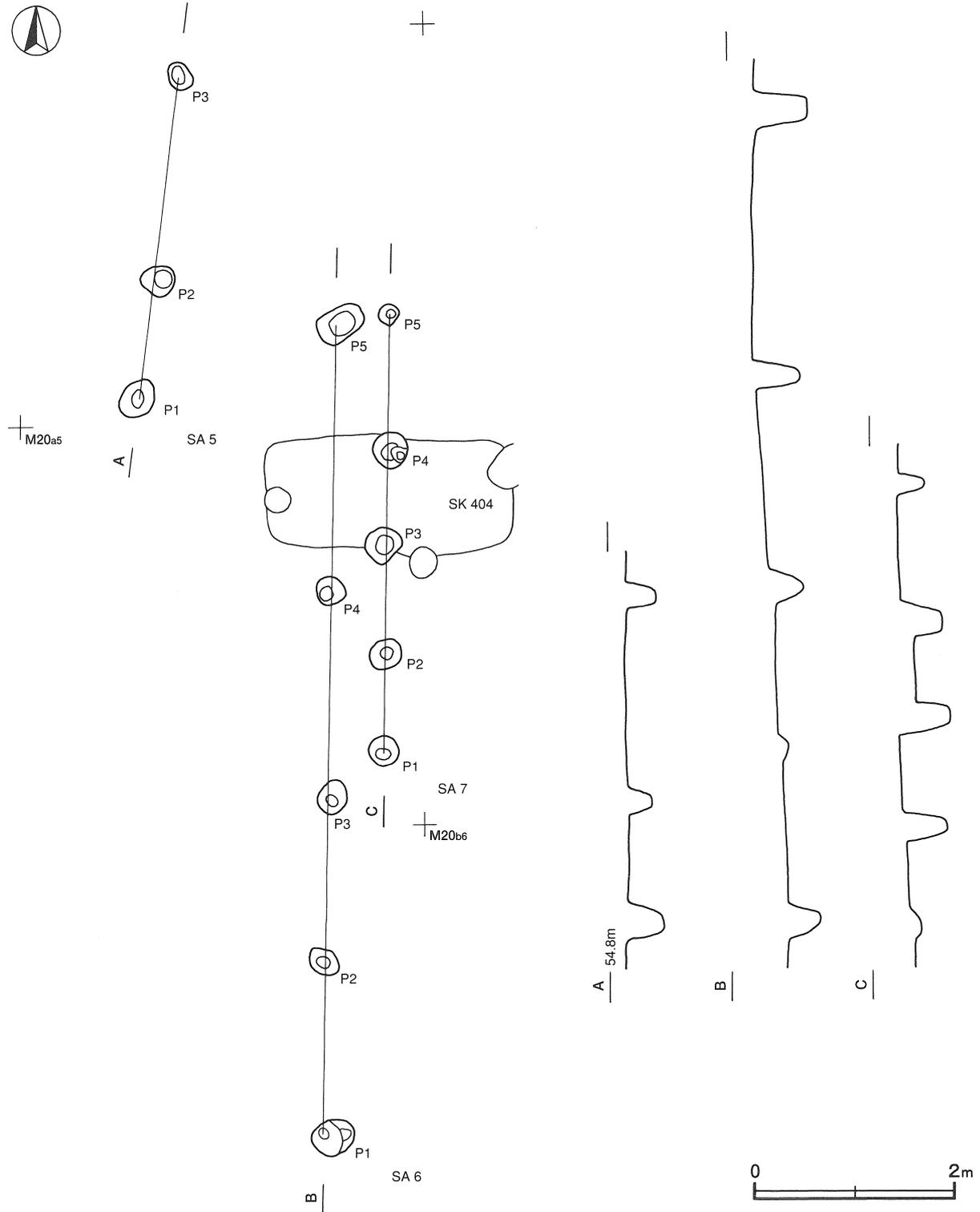


遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 時期は、第6号地下式墳を掘り込んでいることから、中世以降と考えられる。

### 第5号柵跡 (第389図)

位置 調査区東部のL20j5区に位置し、東に傾斜する斜面の裾部に立地している。



第389図 第5・6・7号柵跡実測図

**規模と形状** P1～P3が確認され、柱穴と考えられる。長さ3.3m、柱間は1.3～1.9mで、方向はN-7°-Eを指している。柱穴の規模は、長径0.28～0.42m、短径0.22～0.32mの楕円形である。断面形は逆台形で、深さは24～36cmである。底面は硬化しており、柱を設置した痕跡と考えられる。

**遺物出土状況** 遺物は出土していない。

**所見** 時期は、段切り遺構と方向がほぼ一致していることから、中世と推定される。

#### 第6号柵跡（第389図）

**位置** 調査区東部のM20a5区に位置し、東に傾斜する斜面の裾部に立地している。

**重複関係** 第404号土坑と重複している。

**規模と形状** P1～P5が確認され、柱穴と考えられる。長さ8m、柱間は1.6～2.6mで、方向はN-2°-Eを指している。柱穴の規模は、長径0.34～0.58m、短径0.24～0.36mの円形または楕円形である。断面形はU字形または逆台形で、深さは9～54cmである。

**遺物出土状況** 遺物は出土していない。

**所見** 時期は、第4号柵跡と方向がほぼ一致していることから、中世以降と推定される。

#### 第7号柵跡（第389図）

**位置** 調査区東部のM20a5区に位置し、東へ傾斜する斜面の裾部に立地している。

**重複関係** 第404号土坑と重複している。

**規模と形状** P1～P5が確認され、柱穴と考えられる。長さ4m、柱間は0.9～1.4mで、方向はN-2°-Eを指している。柱穴の規模は、長径0.22～0.38m、短径0.2～0.38mの円形である。断面形はU字形または逆台形で、深さは8～52cmである。

**遺物出土状況** 遺物は出土していない。

**所見** 第6号柵跡と前後関係は不明であるが、ほぼ平行して構築されていることから、両者は比較的近接した時期に構築されたものと考えられる。時期は、第6号柵跡と同じ理由から中世以降と推定される。

### (9) 道路跡

#### 第1号道路跡（第390図）

**位置** 調査区中央部のL17b7～L18b5区に位置し、東に傾斜する斜面に立地している。

**重複関係** 第99・118号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 東側は調査区域外に延び、全容は不明である。N-86°-Eの方向に延び、長さ36.8m、上幅0.8～2.9m、下幅0.2～1.1m、深さ12～17cmである。断面は浅いU字形で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。確認面付近で硬化面が見られ、この部分が路面と想定される。特に北側が硬化している。また、底面も踏み固められた痕跡があることから、路面は2面であったと想定される。

**覆土** 4層からなる。粘性・しまりが強く踏み固められた形跡があり、人為堆積と考えられる。

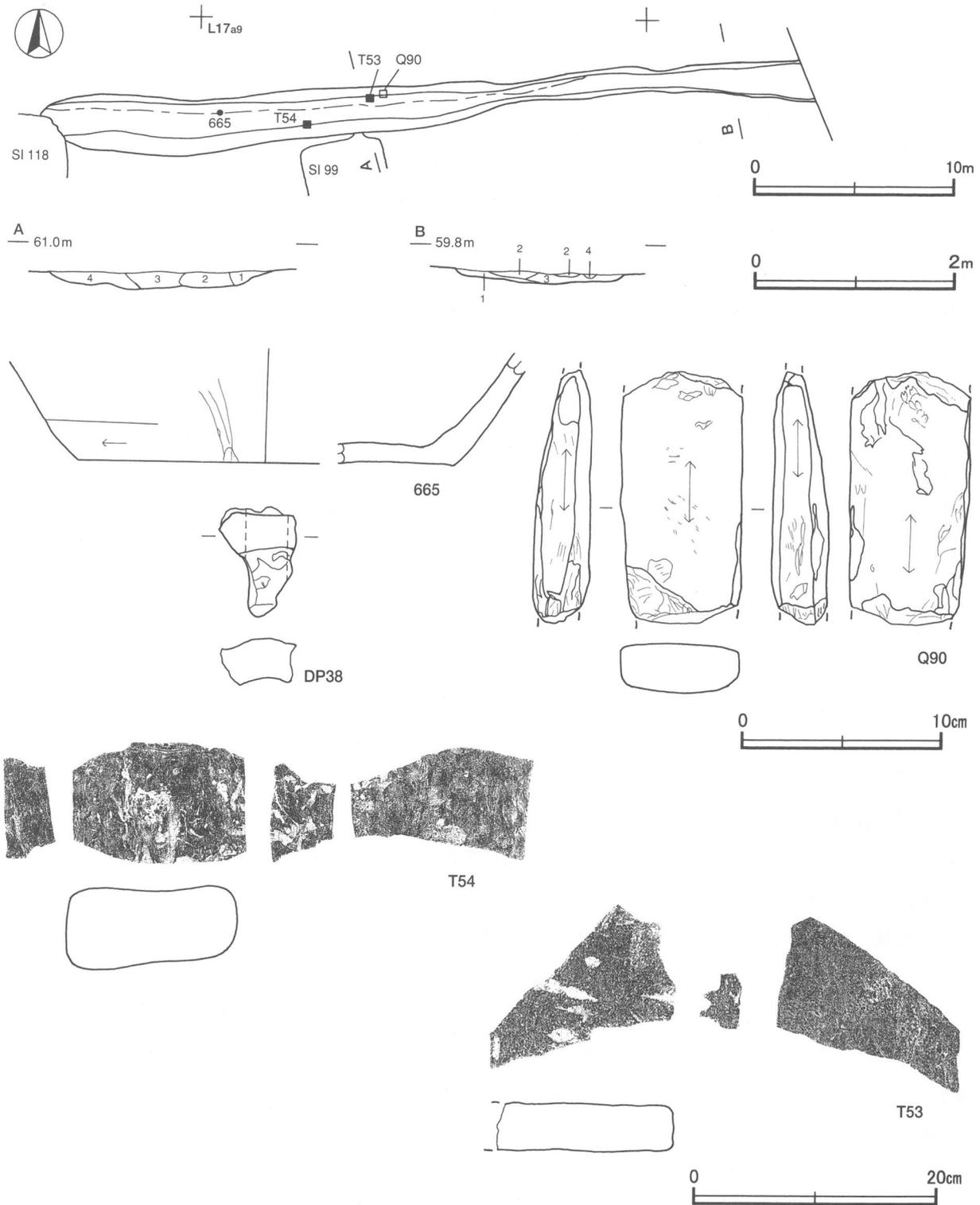
#### 土層解説

1 褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	3 褐色	ローム粒子多量
2 にぶい褐色	ローム粒子多量	4 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片11点、弥生土器片1点、土師器片273点（坏類89、甕類183、高坏1）、須恵器片69点（坏類27、甕類41、壺1）、土師質土器2点（鍋）、陶器片11点、瓦片5点、羽口片1点、石器9点（砥石）、

鉄滓23点が出土している。遺物はL17b9～L18b2区にかけて出土し、665・T53・T54・Q90は底面から覆土中層にかけて出土している。

所見 調査前の農道とほぼ一致しており、路面と見られる硬化面が確認されたことから、道路跡と判断した。地山を浅く溝状に掘り込んだ後、褐色土を主体とした地行を行い、踏み固めている。時期は、出土土器から中世以降と想定される。



第390図 第1号道路跡・出土遺物実測図

第1号道路跡出土遺物観察表（第390図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
665	須恵器	壺カ	-	(5.7)	[18.7]	石英・長石	灰黄	良	外面回転ヘラ削り	覆土中層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP38	羽口	(3.9)	(5.6)	[2.0]	(34.6)	土	被熱痕	覆土中	
Q90	砥石	(12.6)	6.1	2.8	(326.0)	粘板岩	砥面4面	覆土中層	
T53	甗	(10.1)	(14.6)	3.9	(870.0)	土	丁寧なナデ	底面	
T54	甗	(10.0)	14.0	6.7	(1190.0)	土	ナデ、角に丸みを帯びる、長石を含む	覆土下層	

(10) 土坑

第307号土坑（第391図）

位置 調査区東部のL19f2区に位置し、東に傾斜する斜面に立地している。

重複関係 第185号住居跡を掘り込み、第308号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.4m、短軸1.8mの西側に約0.4mの張り出しのある長方形で、深さは35cmである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。長軸方向はN-90°-Eである。

ピット 3か所。P1・P2は深さ65~80cm、P3は深さ5cmである。P1・P2は東西壁の中央に位置していることから、柱穴と考えられる。P3の性格は不明である。

覆土 6層からなる（第1~6層）。ロームブロックを含んでいる層が多いことから、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、粘性弱	4 黒褐色	ロームブロック微量
2 黒褐色	ロームブロック・粘土粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子中量、鹿沼バミス微量
3 黒褐色	ロームブロック・炭化物微量	6 極暗褐色	ローム粒子・鹿沼バミス微量

遺物出土状況 土師器片53点（坏類21、甕類32）、須恵器片2点（甕類）、鉄滓2点が出土しているが、堆積時の混入である。いずれも小片のため、図化できなかった。

所見 P1・P2の存在から、本跡の上部には小規模な屋根が設置されていた可能性がある。時期は、形態から中世以降と想定される。

第308号土坑（第391図）

位置 調査区東部のL19g2区に位置し、東に傾斜する斜面に立地している。

重複関係 第307号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.3m、短軸1.9mの不整長方形で、深さは36cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN-90°-Eである。

ピット 3か所。P1~P3は深さ40~50cmである。P1・P2は東西壁の中央に位置していることから、柱穴と考えられる。P3の性格は不明である。

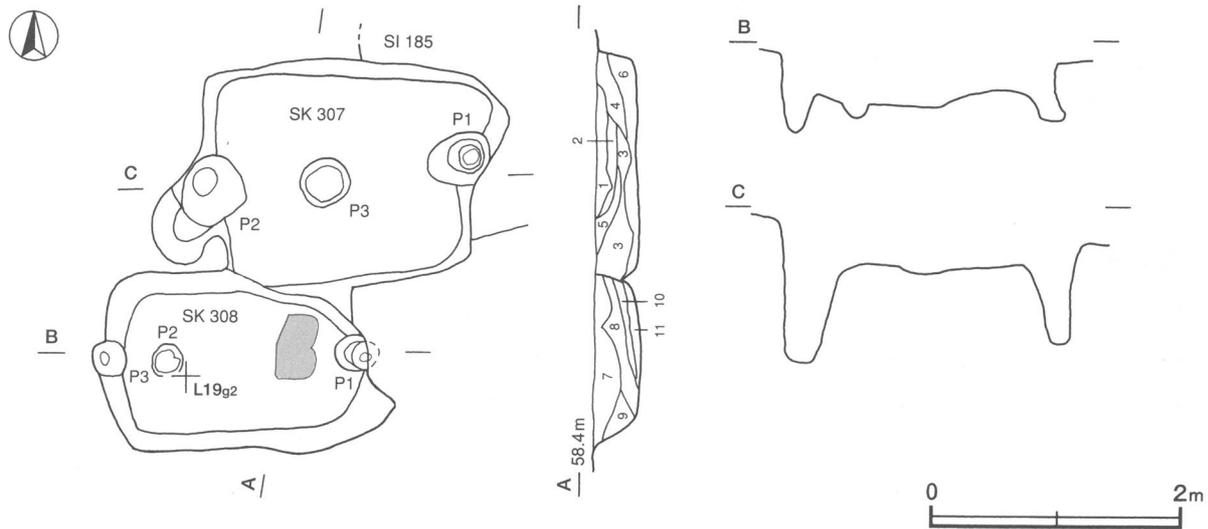
覆土 5層からなる（第7~11層）。ロームブロックを含んでいる層が多いことから、人為堆積と考えられる。東側を中心に炭化物が出土している。

土層解説

7 黒褐色	ロームブロック・炭化物微量	10 黒褐色	ロームブロック・炭化物微量
8 暗褐色	ロームブロック微量	11 褐色	ローム粒子少量、しまり強
9 暗褐色	ロームブロック少量		

**遺物出土状況** 土師器片12点（坏類10，甕類2），須恵器片2点（坏類1，甕類1），鉄滓2点が出土しているが堆積時の混入である。いずれも小片のため，図化できなかった。

**所見** 第307号土坑と同じく，上部には小規模な屋根が設置されていた可能性がある。炭化物を含んでいる層が認められるが，焼土や底面に熱を受けた痕跡は確認されていないことから，焼成などの行為は行われていない。時期は，形態から中世以降と想定される。



第391図 第307・308号土坑実測図

### 第309号土坑（第392図）

**位置** 調査区東部のL19g2区に位置し，東に傾斜する斜面に立地している。

**重複関係** 第184号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸2m，短軸1.7mの長方形で，深さは72cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN-78°-Eである。

**ピット** 4か所。P1・P3は深さ35~55cm，P2・P4は深さ18~20cmである。各ピットともそれぞれの壁の中央付近に位置し，P1・P3は掘り方がしっかりしていることから柱穴と考えられ，P2・P4は支柱穴と想定される。

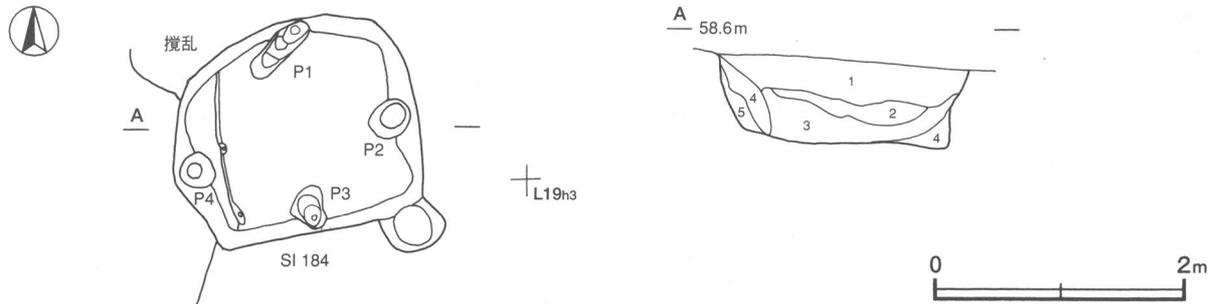
**覆土** 5層からなる。ロームブロックを含んでいる層があり，また，しまりの強い層も含まれていることから，人為堆積の可能性はある。

#### 土層解説

- |       |                 |       |              |
|-------|-----------------|-------|--------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量       | 4 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化物微量   | 5 褐色  | ローム粒子中量      |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化物微量 |       |              |

**遺物出土状況** 土師器片57点（坏類23，甕類34），須恵器片7点（甕類），鉄滓4点が出土しているが，堆積時の混入である。いずれも小片のため，図化できなかった。

**所見** 性格は明らかではないが，上部に小規模な屋根が設置されていた可能性がある。時期は，中世以降と考えられる。



第392図 第309号土坑実測図

### 第316号土坑 (第393図)

**位置** 調査区東部のM20a5区に位置し、東に傾斜する斜面の裾部に立地している。

**重複関係** 第317号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸1.9m、短軸1.8mの方形で、深さは38cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN-76°-Wである。

**ピット** 1か所 (P3)。P3は西壁中央に位置し、深さ25cmである。性格は不明である。

**覆土** 2層からなる (第13・14層)。ロームブロックを多く含むことから人為堆積と考えられる。

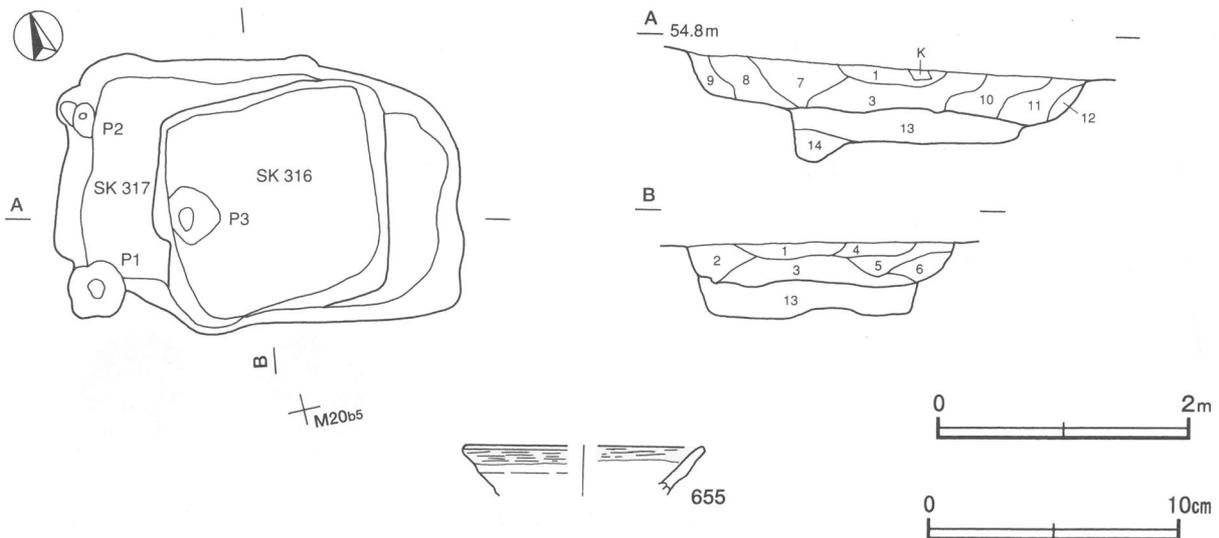
**土層解説**

13 暗褐色 ロームブロック多量

14 黒褐色 ロームブロック中量

**遺物出土状況** 土師器片6点 (坏類3, 甕類3), 須恵器片1点 (坏類) が出土している。いずれも小片のため、図化できなかった。

**所見** 覆土はほぼ単一層で、一時期に埋められたものと考えられる。時期は、重複関係から第317号土坑に先行する中世と考えられる。



第393図 第316・317号土坑・出土遺物実測図

### 第317号土坑 (第393図)

**位置** 調査区東部のM20a5区に位置し、東に傾斜する斜面の裾部に立地している。

**重複関係** 第316号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸3.1m，短軸2mの長方形で，深さは60cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN-72°-Wである。

**ピット** 2か所（P1・P2）。P1・P2は西壁に位置し，深さは7～35cmである。性格は不明である。

**覆土** 12層からなる（第1～12層）。ロームブロックを含む層が多いことから，人為堆積と考えられる。

**土層解説**

1 黒褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物微量
2 黒褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック少量，炭化物微量
4 暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子少量
5 暗褐色	ロームブロック少量，鹿沼パミス微量	11 暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗褐色	ローム粒子中量	12 黒褐色	ロームブロック少量，鹿沼ブロック微量

**遺物出土状況** 土師器片15点（坏類2，甕類13），須恵器片4点（坏類2・甕類2），陶器片1点（小皿）が出土している。655は覆土中から破片の状態で出土している。

**所見** 時期は，出土土器から15世紀頃と考えられる。

第317号土坑出土遺物観察表（第393図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
655	陶器	皿	[9.4]	(2.0)	-	黒色粒子	淡黄	良	ロクロナデ	覆土中	20% 鉄釉

第363号土坑（第394図）

**位置** 調査区東部のM20b1区に位置し，東に傾斜する斜面の裾部に立地している。

**規模と形状** 長軸0.9m，短軸0.5mの楕円形で，深さは76cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっており，北壁は途中角度を変えて緩やかに外傾して立ち上がっている。長軸方向はN-0°である。

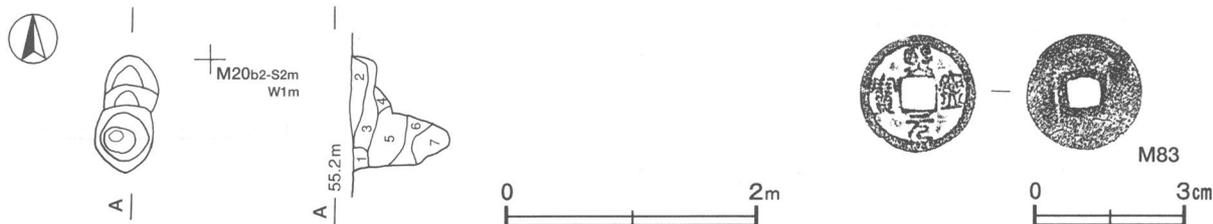
**覆土** 7層からなる。各層ともロームブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

**土層解説**

1 黒褐色	ロームブロック・鹿沼パミス微量	5 にぶい黄褐色	鹿沼パミス中量，ロームブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック少量，炭化物・鹿沼パミス微量	6 暗褐色	鹿沼パミス中量，ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック少量，炭化物・鹿沼パミス微量	7 黒褐色	ロームブロック少量，鹿沼パミス微量
4 暗褐色	ロームブロック微量		

**遺物出土状況** 土師器片3点（甕類），古銭1点（熙寧元寶）が出土している。M83は覆土中から出土している。

**所見** 時期は，出土遺物から中世と考えられる。



第394図 第363号土坑・出土遺物実測図

第363号土坑出土遺物観察表（第394図）

番号	銭名	計測値				材質	初鑄・鑄造年		特徴	備考
		銭径 (cm)	銭孔幅 (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)		年号	西暦		
M83	熙寧元寶	2.39	0.7×0.7	1.7	2.74	銅	熙寧元年	1068	鑄上がりやや不良	PL106

### 第404号土坑（第395図）

**位置** 調査区東部のM20a5区に位置し、東に傾斜する斜面の裾部に立地している。

**重複関係** 第405号土坑を掘り込み、第357号土坑に掘り込まれている。第6・7号柵跡、第1号ピット群と重複している。

**規模と形状** 長軸2.5m、短軸1.1mの長方形で、深さは16cmである。底面は若干凹凸があり、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。長軸方向はN-90°-Eである。

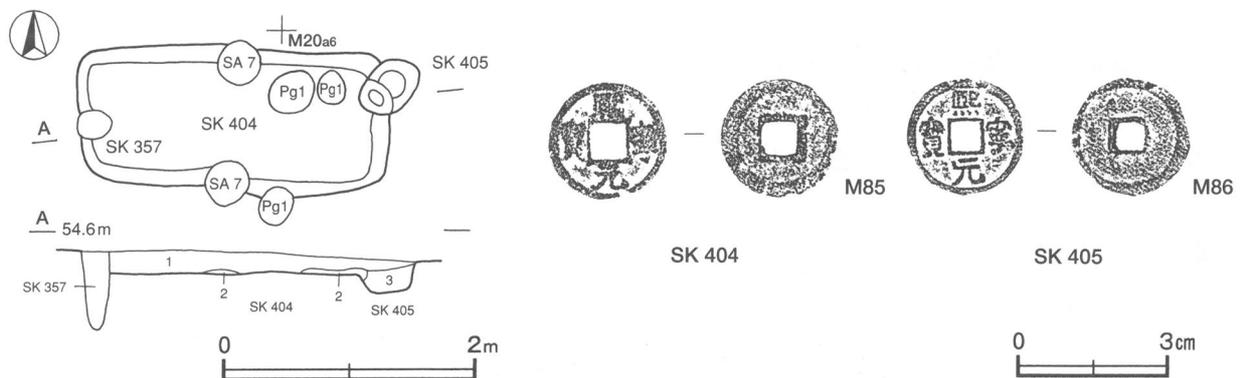
**覆土** 2層からなる（第1・2層）。ロームブロックを含んでいることから、人為堆積と考えられる。

**土層解説**

1 黒褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量      2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片3点（坏類）、古銭1点（熙寧元寶）が出土している。M85は覆土中層付近から出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から中世と考えられる。



第395図 第404・405号土坑・出土遺物実測図

### 第404号土坑出土遺物観察表（第395図）

番号	銭名	計測値					初鑄・鑄造年		特徴	備考
		銭径 (cm)	銭孔幅 (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)	材質	年号	西暦		
M85	熙寧元寶	2.44	0.7×0.7	1.7	2.78	銅	熙寧元年	1068	鑄上がり不良	PL106

### 第405号土坑（第395図）

**位置** 調査区東部のM20a6区に位置し、東に傾斜する斜面の裾部に立地している。

**重複関係** 第404号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸0.5m、短軸0.4mの楕円形で、深さは29cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN-41°-Eである。

**覆土** 単一層である（第3層）。ロームブロックを含んでいることから、人為堆積と考えられる。

**土層解説**

3 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片2点（甕類）、古銭1点（熙寧元寶）が出土している。M86は覆土中から出土している。

**所見** 時期は、重複関係と出土遺物から第404号土坑に先行する中世と考えられる。

第405号土坑出土遺物観察表（第395図）

番号	銭名	計測値					初鑄・鑄造年		特 徴	備 考
		銭径 (cm)	銭孔幅 (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)	材質	年号	西暦		
M86	熙寧元寶	2.44	0.7×0.7	1.7	2.96	銅	元豐元年	1068	枝の痕跡あり	PL106

第436号土坑（第396図）

位置 調査区東部のL19e4区に位置し、東に傾斜する斜面に立地している。

重複関係 第437号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北側を第437号土坑に掘り込まれており、全容は不明である。長軸0.6m、短軸0.5mの長方形と推定され、深さは21cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN-0°である。

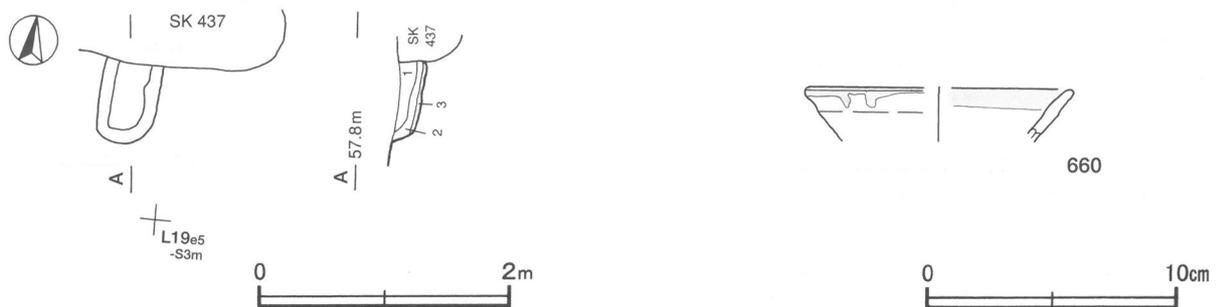
覆土 3層からなる。ロームブロックを含んでいる層が多いことから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |       |           |       |         |
|-------|-----------|-------|---------|
| 1 褐色  | ロームブロック中量 | 3 明褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 |       |         |

遺物出土状況 土師器片4点（坏類2，甕類2），土師質土器片1点（鍋），陶器片1点（小皿）が出土している。660は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀頃と考えられる。



第396図 第436号土坑・出土遺物実測図

第436号土坑出土遺物観察表（第396図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
660	陶器	皿	[10.5]	(2.2)	-	砂粒	にぶい黄橙	良	ロクロ整形	覆土中	10%

第454号土坑（第397図）

位置 調査区東部のL19e2区に位置し、東に傾斜する斜面に立地している。

重複関係 第183号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.9m、短径0.7mの楕円形で、深さは44cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN-74°-Wである。

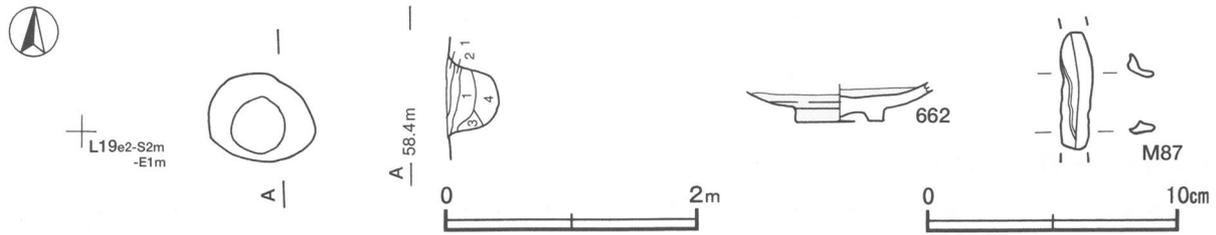
覆土 4層からなる。ロームブロックを含んでいる層が多いことから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                  |       |           |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量   | 3 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量   |

遺物出土状況 土師器片10点（坏類7，甕類3），須恵器片1点（坏類），陶器片1点（碗），鉄製品1点（不明）が出土している。662・M87は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中世末～近世と考えられる。



第397図 第454号土坑・出土遺物実測図

第454号土坑出土遺物観察表（第397図）

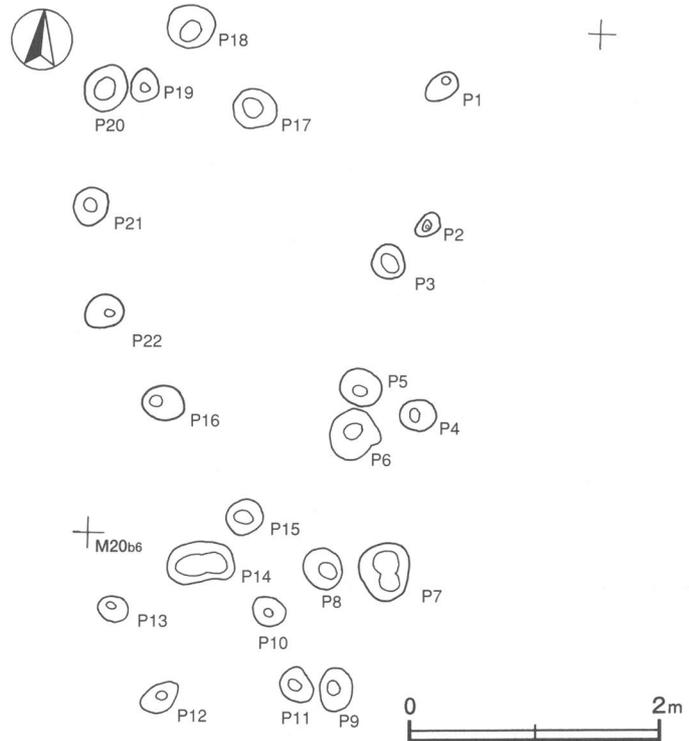
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
662	陶器	椀	-	(1.6)	3.5	長石	にぶい黄橙	良	ロクロ整形	覆土中	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M87	不明	4.7	1.3	0.5～1.0	8.7	鉄	縁金か	覆土中	

(11) ピット群

第1号ピット群（第398図）

調査区東部の第7号柵跡の東側に位置している。ピット群の範囲は東西3.1m、南北5.5mで、M20a6・M20b6区に広がる。配列は規則性がなく建物跡を想定できなかったため、ピット群とした。P7は第384号土坑・第2号火葬施設、P19・20は第404号土坑と重複している。時期は、段切り遺構の東側に位置していることから中世以降と想定される。



第398図 第1号ピット群実測図

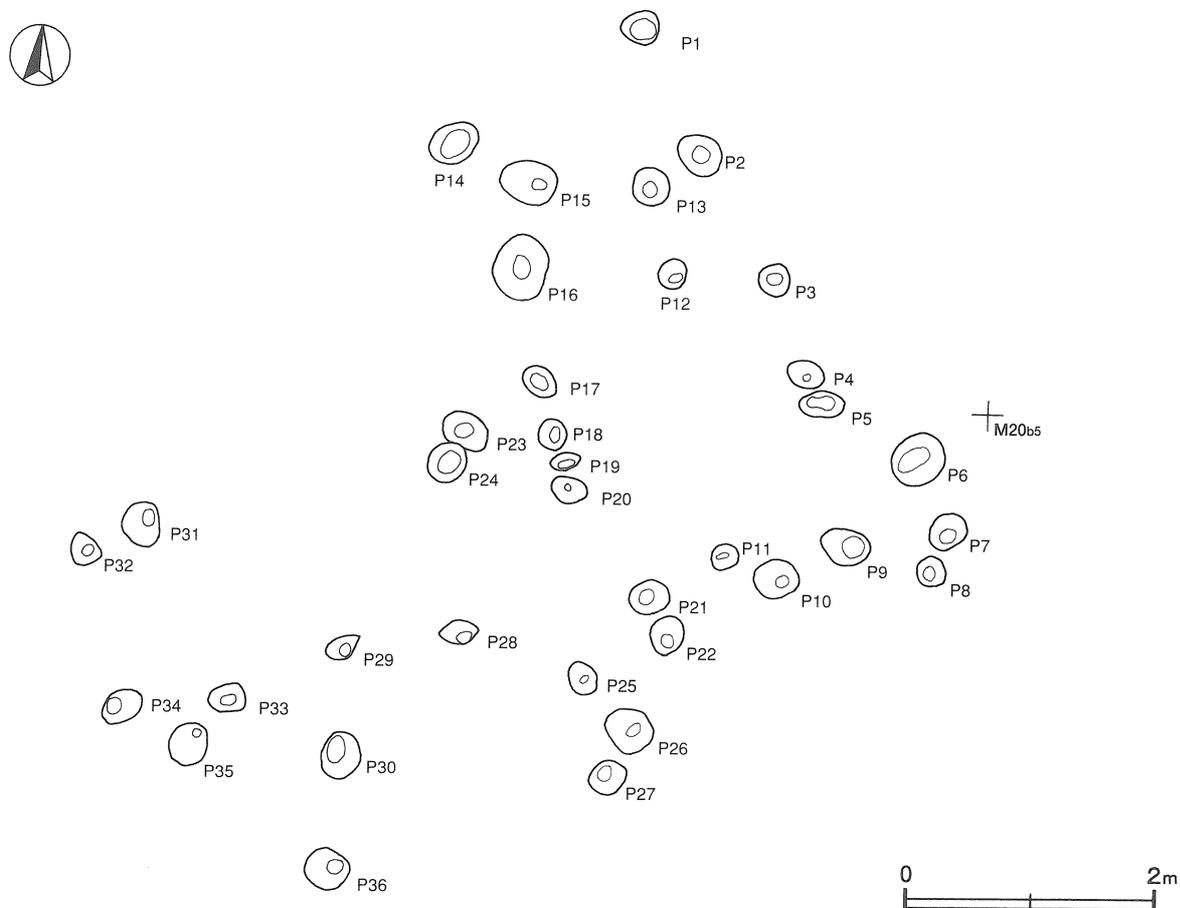
第1号ピット群計測表

番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
P1	28	19	67	P6	40	40	27	P11	30	28	34
P2	23	19	10	P7	41	38	35	P12	32	20	39
P3	28	19	7	P8	34	31	38	P13	25	20	13
P4	29	24	33	P9	33	25	39	P14	53	24	50
P5	33	30	21	P10	27	25	12	P15	30	23	8

番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
P 16	44	25	11	P 19	24	24	48	P 22	31	26	27
P 17	39	30	70	P 20	34	36	38				
P 18	40	34	27	P 21	30	24	17				

### 第2号ピット群 (第399図)

調査区東部の第7号柵跡の西側に位置している。ピット群の範囲は東西7.1m、南北6.8mで、M20a3・M20a4・M20b3・M20b4区に広がる。P 1・P 6・P 15・P 25の底面は硬化してしているが、配列に規則性がなく建物跡を想定できなかったため、ピット群とした。P 28・P 29は第345号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。時期は、段切り遺構の東側に位置していることから中世以降と想定される。



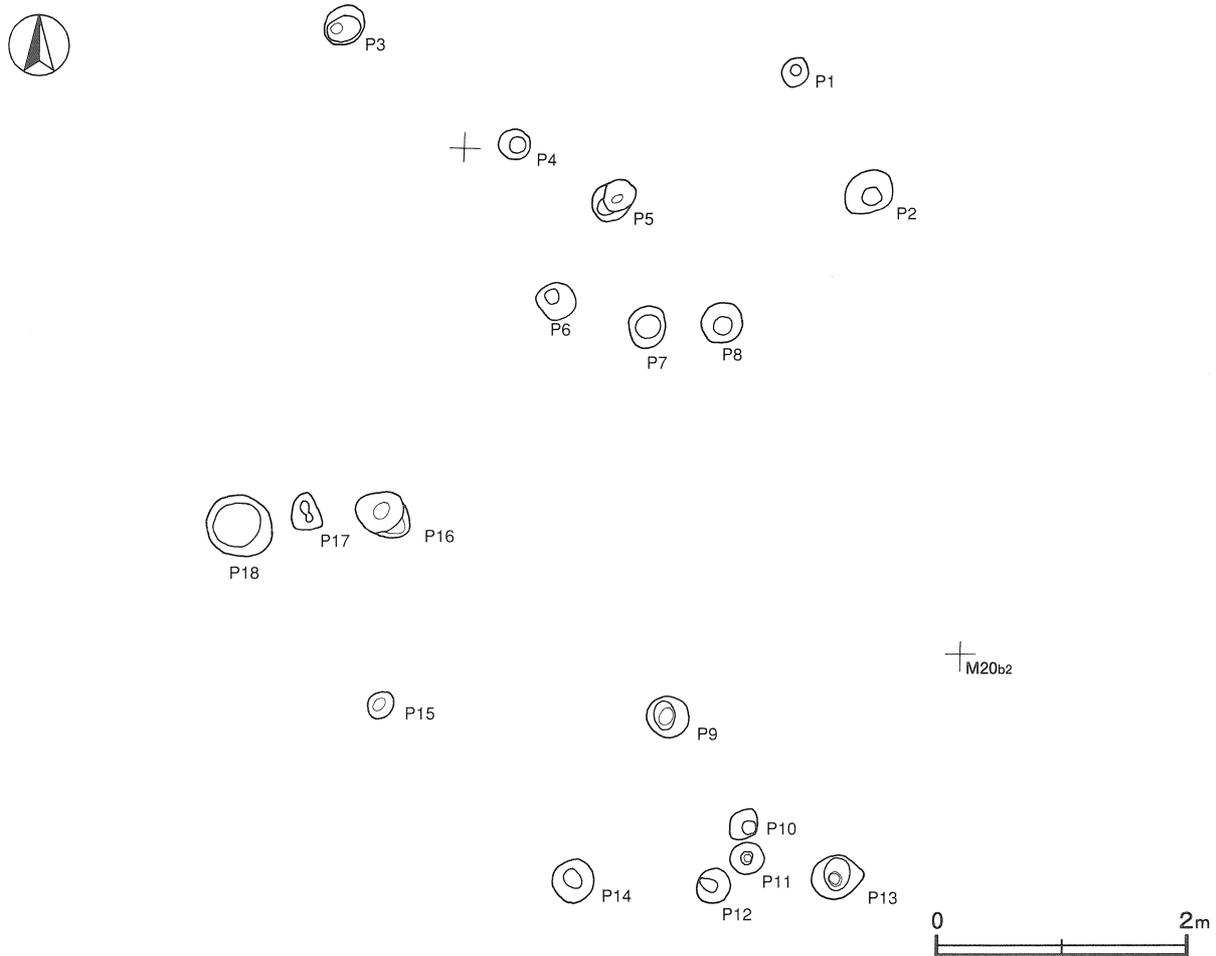
第399図 第2号ピット群実測図

### 第2号ピット群計測表

番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
P 1	30	30	31	P 13	30	30	37	P 25	30	22	23
P 2	36	30	45	P 14	40	30	36	P 26	40	34	54
P 3	23	23	22	P 15	45	35	42	P 27	30	24	40
P 4	31	29	19	P 16	51	37	65	P 28	30	18	46
P 5	33	18	16	P 17	31	20	27	P 29	30	16	45
P 6	44	40	24	P 18	28	23	26	P 30	40	30	57
P 7	30	27	41	P 19	25	15	27	P 31	30	30	26
P 8	24	20	27	P 20	30	20	41	P 32	24	30	26
P 9	40	28	39	P 21	30	26	14	P 33	30	20	37
P 10	40	30	24	P 22	28	25	25	P 34	38	22	55
P 11	20	20	13	P 23	38	26	46	P 35	33	26	24
P 12	24	23	17	P 24	30	30	80	P 36	38	34	45

### 第3号ピット群（第400図）

調査区東部の第4号柵跡の南東側に位置している。ピット群の範囲は東西4.6m、南北6.9mで、L19j0・M19a0・M19b0・L20j0・M20a1・M20b1区に広がる。配列は規則性がなく建物跡を想定できなかったため、ピット群とした。時期は、段切り遺構の東側に位置していることから中世以降と想定される。



第400図 第3号ピット群実測図

第3号ピット群計測表

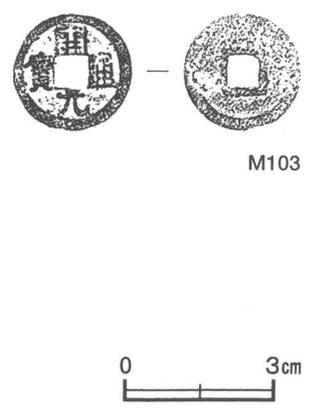
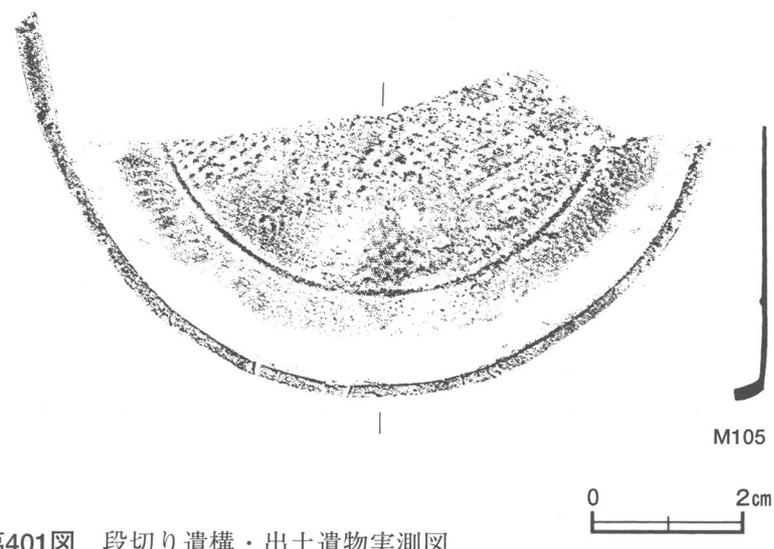
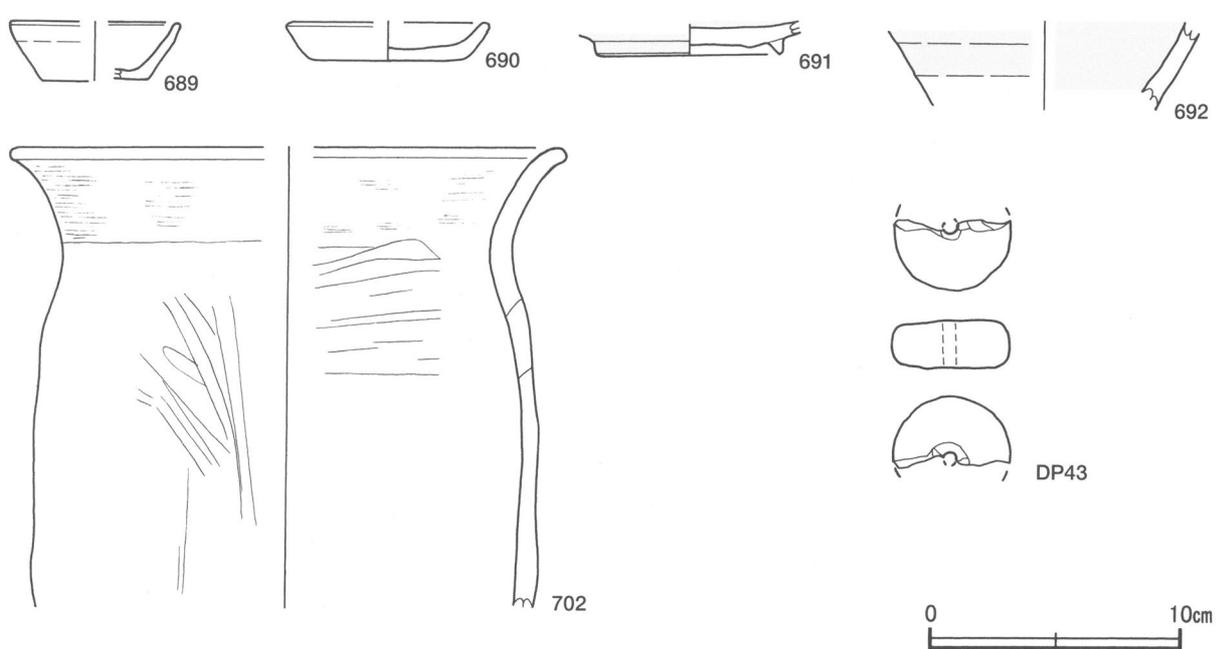
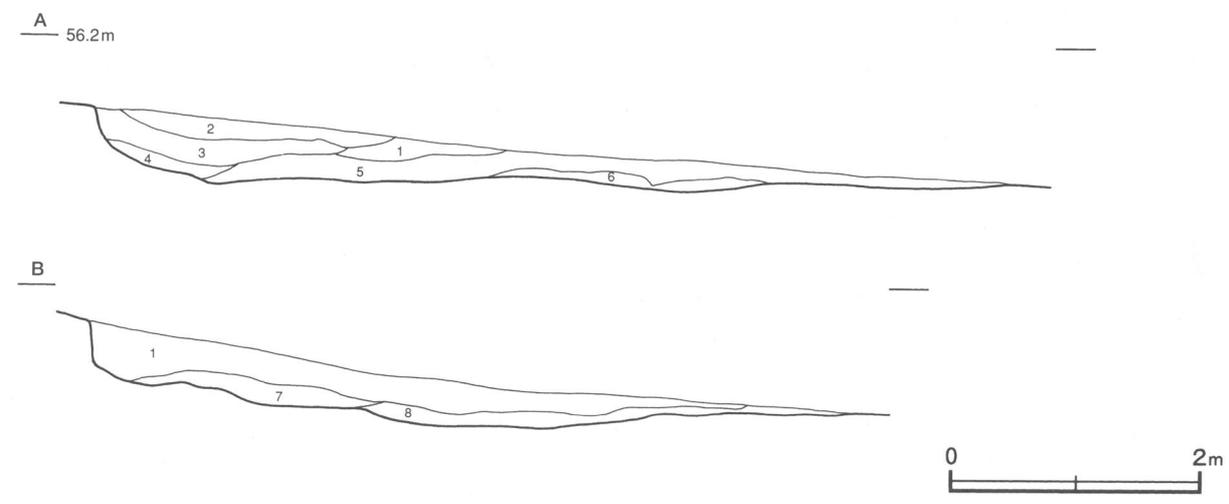
番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
P1	22	21	28	P7	30	30	25	P13	43	30	86
P2	40	32	73	P8	32	26	55	P14	33	32	23
P3	32	28	38	P9	39	32	40	P15	24	18	21
P4	24	22	53	P10	36	16	43	P16	42	36	38
P5	36	32	24	P11	26	26	43	P17	28	20	13
P6	34	33	44	P12	28	27	36	P18	54	48	102

#### (12) その他の遺構

調査区域の東部で、斜面を削平した箇所を確認した。以下、段切り遺構としてその概要を述べる。

#### 段切り遺構（第401図）

位置 調査区東部のL19i0～M19c0区に位置し、東に傾斜する斜面の裾部に立地している。



第401図 段切り遺構・出土遺物実測図

**重複関係** 第205号住居跡，第4・5・6・8号地下式壙，第461号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 南側は調査区域外に延び，全容は不明である。調査した規模は，南北20.8m，東西5.6mで，長軸方向はN-10°-Eである。深さ34~52mほど掘り込んでおり，東側に平坦な区画を設けている。

**覆土** 8層からなる。含有物を均等に含んでいることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**

1	黒褐色	ロームブロック微量	5	灰褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	6	褐色	ローム粒子微量
3	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	7	にぶい黄褐色	ローム粒子中量
4	暗褐色	ロームブロック微量	8	灰黄褐色	ロームブロック少量，炭化粒子・鹿沼バミス微量

**遺物出土状況** 縄文土器片1点，弥生土器片76点，土師器片1635点，須恵器片228点，灰釉陶器片8点，緑釉陶器片1点，常滑片1点，瓦片1点，石製品5点（石製模造品），鉄製品6点（釘1，刀子1，不明4），鉄滓192点，銅製品1点（鏡），古銭1点（開元通寶）が出土している。これらの遺物は埋没の過程で流れ込んだものと考えられる。689はM19d9区付近の，691・692はM19c0区付近の覆土中から出土している。M105はL19i9区の覆土中から，M103はM20a0区の底面付近から出土している。

**所見** 本跡の東側はほぼ平坦で，第1~3号井戸跡，第4~7号柵跡，第1・2号火葬施設などが位置している。これらの遺構を構築するための平坦面を造成するために，傾斜面を削平したものと考えられる。この工事は重複関係や流れ込んだ遺物などから，中世に行われたと考えられる。

段切り遺構出土遺物観察表（第401図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
689	土師質土器	かわらけ	[6.5]	2.3	[4.7]	赤色粒子・雲母	橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	20%
690	土師器	皿	[7.7]	1.6	[6.0]	石英・長石	橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	15%
691	土師質土器	かわらけ	-	1.6	[6.0]	石英・長石	橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	30%
692	緑釉陶器	皿	-	(3.4)	-	砂粒	黄橙	良		覆土中	15%
702	土師器	甕	[21.6]	(18.3)	-	石英・長石	にぶい黄橙	普通	体部外面へラナデ，一部棒状のナデ	覆土中	20%

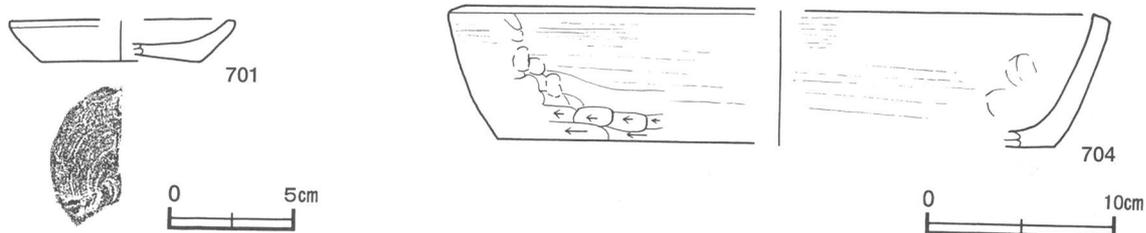
番号	器種	直径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP43	紡錘車	4.6	1.9	0.5	(23.7)	土	円筒形	覆土中	

番号	器種	直径	厚さ	縁厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M105	鏡	[8.0]	0.7	1.9	(13.2)	青銅	内区の下に松を配置，細縁外傾式	覆土中	PL106

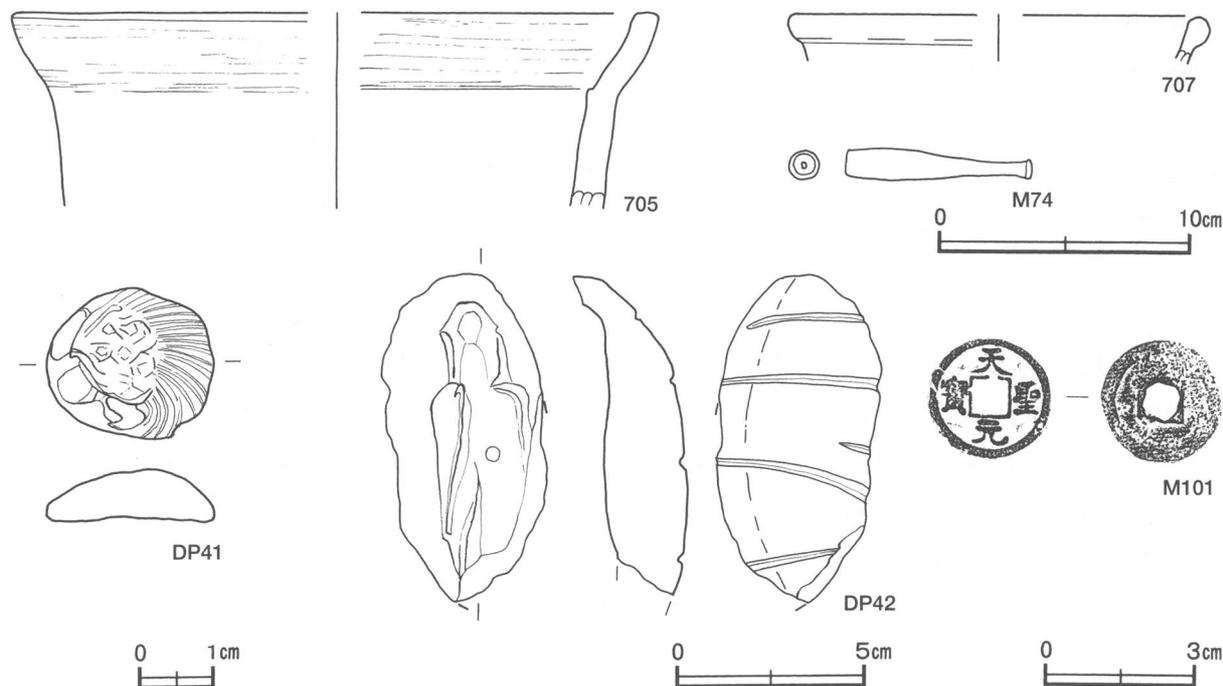
番号	銭名	計測値					初鑄・鑄造年		特徴	備考
		銭径 (cm)	銭孔幅 (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)	材質	年号	西暦		
M103	開元通寶	2.43	0.7×0.7	1.6	2.08	銅	武徳4年	624	一部欠け	PL106

(13) 遺構外出土遺物

遺構に伴わない中・近世の主な遺物について，観察表で記述する。



第402図 遺構外出土遺物実測図(1)



第403図 遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表 (第402・403図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
701	土師質土器	かわらけ	[8.9]	1.7	[6.2]	長石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	表採	20% 被熱痕
704	須恵器	鉢	[32.2]	7.0	[29.4]	石英・雲母	灰オリーブ	普通	ロクロナデ, 体部下端ヘラ削り	表採	10%
705	土師質土器	鍋	[25.6]	(7.8)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ, 口縁部内面に段	表採	5%
707	陶器	壺	[16.2]	(1.9)	-	石英	灰オリーブ	普通	内外面釉刷毛塗り	表採	5% 瀬戸カ

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP41	泥面子	2.0	1.2	0.7	2.46	土	芥子面, 亀の文様	表採	
DP42	鑄型	8.7	4.2	3.1	60.00	土	仏像鑄型後背部, 表面に7条の刻み	表採	PL103
M74	煙管	7.3	1.2	1.2	13.50	真鍮	吸口	SI-206覆土	

番号	銭名	計測値				材質	初鑄・鑄造年		特徴	備考
		銭径 (cm)	銭孔幅 (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)		年号	西暦		
M101	天聖元寶	2.51	0.7×0.7	1.8	3.36	銅	天聖元年	1023	鑄上がり良	PL106

## 6 その他の遺構と遺物

今回の調査では、時期不明の方形竪穴状遺構1基、溝跡1条、柵跡1条、土坑397基を検出した。また、1～5で記述した以外の時代や時期を特定できない遺物が出土している。以下、それらの遺構と遺物について記述する。

### (1) 方形竪穴状遺構

#### 第1号方形竪穴状遺構 (第404図)

**位置** 調査区東部のL19f6区に位置し、東へ傾斜する斜面部に立地している。

**規模と形状** 攪乱と削平のため全容は不明である。確認できたのは西壁3.5m、北壁1.9mで、方形または長方

形と推定され、西壁に合わせた主軸方向はN-3°-Wである。

床 床面は攪乱と削平のため確認できなかった。掘り方は、東へ傾斜して掘り込まれ、ローム土で埋め戻されている。

ピット P1は深さ15cmで、南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 確認できた層は、ローム土を多く含むことから2層とも掘り方の埋土であると考えられる。

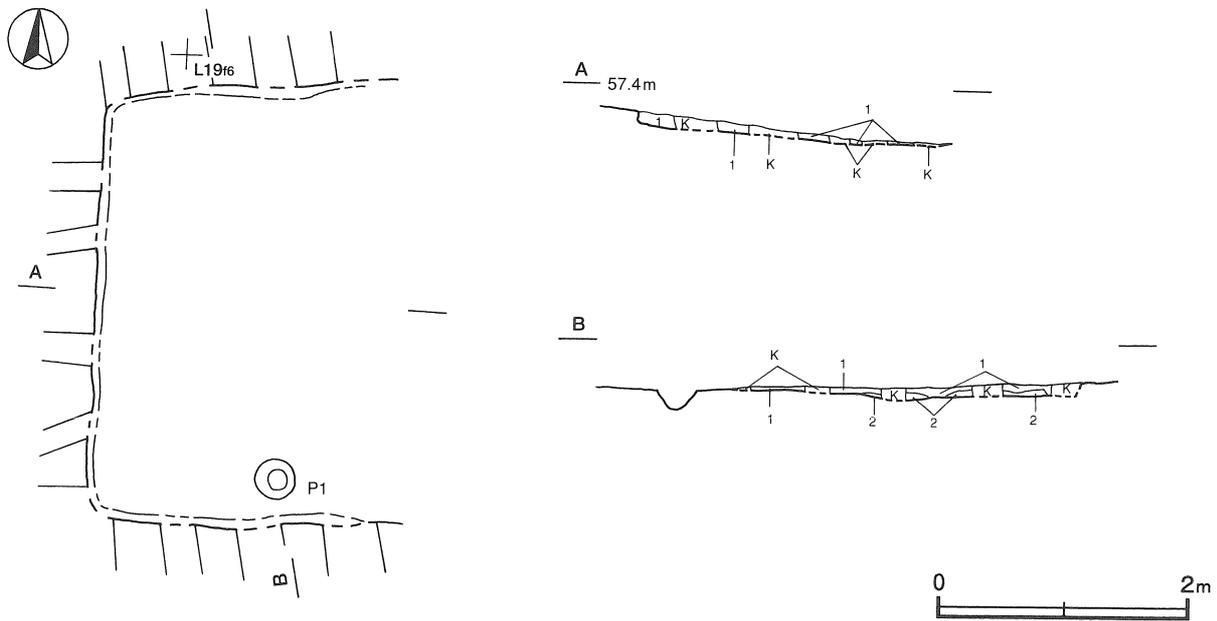
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

2 にぶい黄褐色 ローム粒子多量

遺物出土状況 遺物は確認できなかった。

所見 時期は不明である。



第404図 第1号方形竪穴状遺構実測図

(2) 溝跡

ここでは、時期不明の溝跡について記述するが、平面図は遺構全体図への記載で代える。

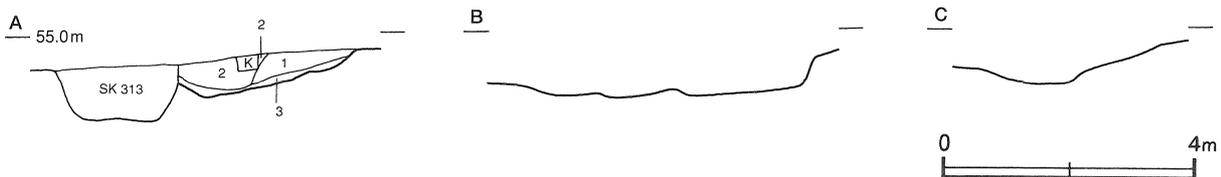
第17号溝 (第405図)

位置 調査区東部のL20h5~L20h7区に位置し、東に傾斜する斜面の裾部に立地している。

重複関係 第211号住居跡を掘り込み、第313・467号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東側は調査区域外に延びているため、全容は不明である。N-85°-Eの方向に直線的に延び、確認できたのは長さ7.4m、上幅124~144cm、下幅40~48cm、深さ14~20cmである。断面は浅い逆台形で、緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 3層からなる。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。



第405図 第17号溝跡実測図

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量  
2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

3 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 遺物は確認されなかった。

所見 時期・性格は不明である。

(3) 柵跡

第8号柵跡 (第406図)

位置 調査区西部のI15i3区に位置し, 尾根上の平坦部に立地している。

規模と形状 P1~P3が確認され柱穴と考えられる。長さ4m, 柱間は1.9~2.1mで, 主軸方向はN-90°-Eである。柱穴の規模は, 径0.40~0.44mの円形である。断面形は逆台形で, 深さ36~50cmである。P1・P3の底面には硬化した面が見られる。

覆土 4層からなる。柱痕が見られず土層にしまりがいいことから, 柱は抜き取られたものと考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量

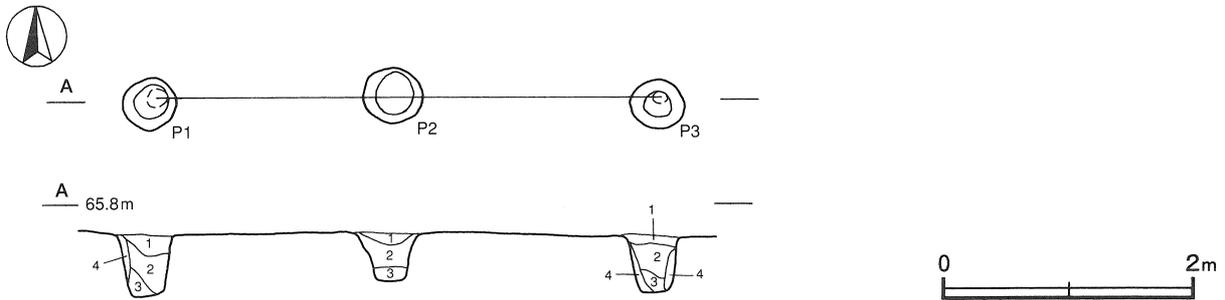
3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

4 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 遺物は確認されなかった。

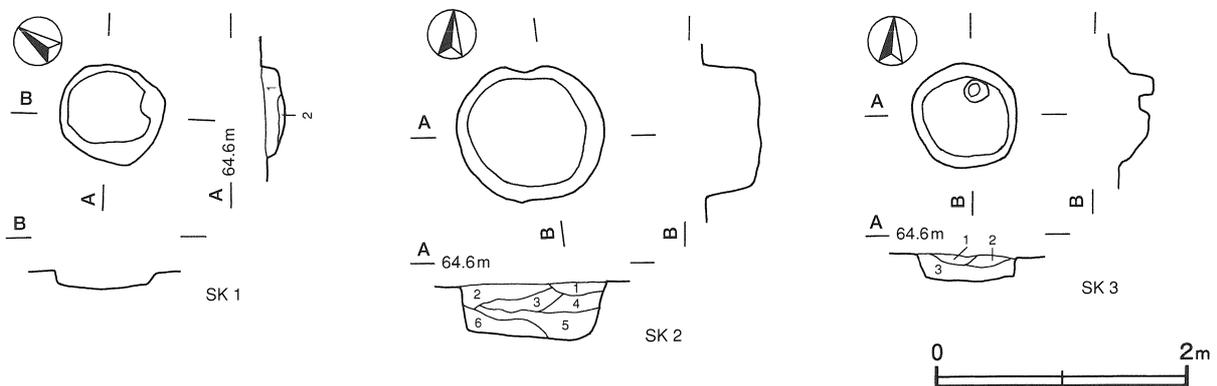
所見 東西方向に延びる柵と考えられるが, その他の柱穴は確認されなかった。時期は不明である。



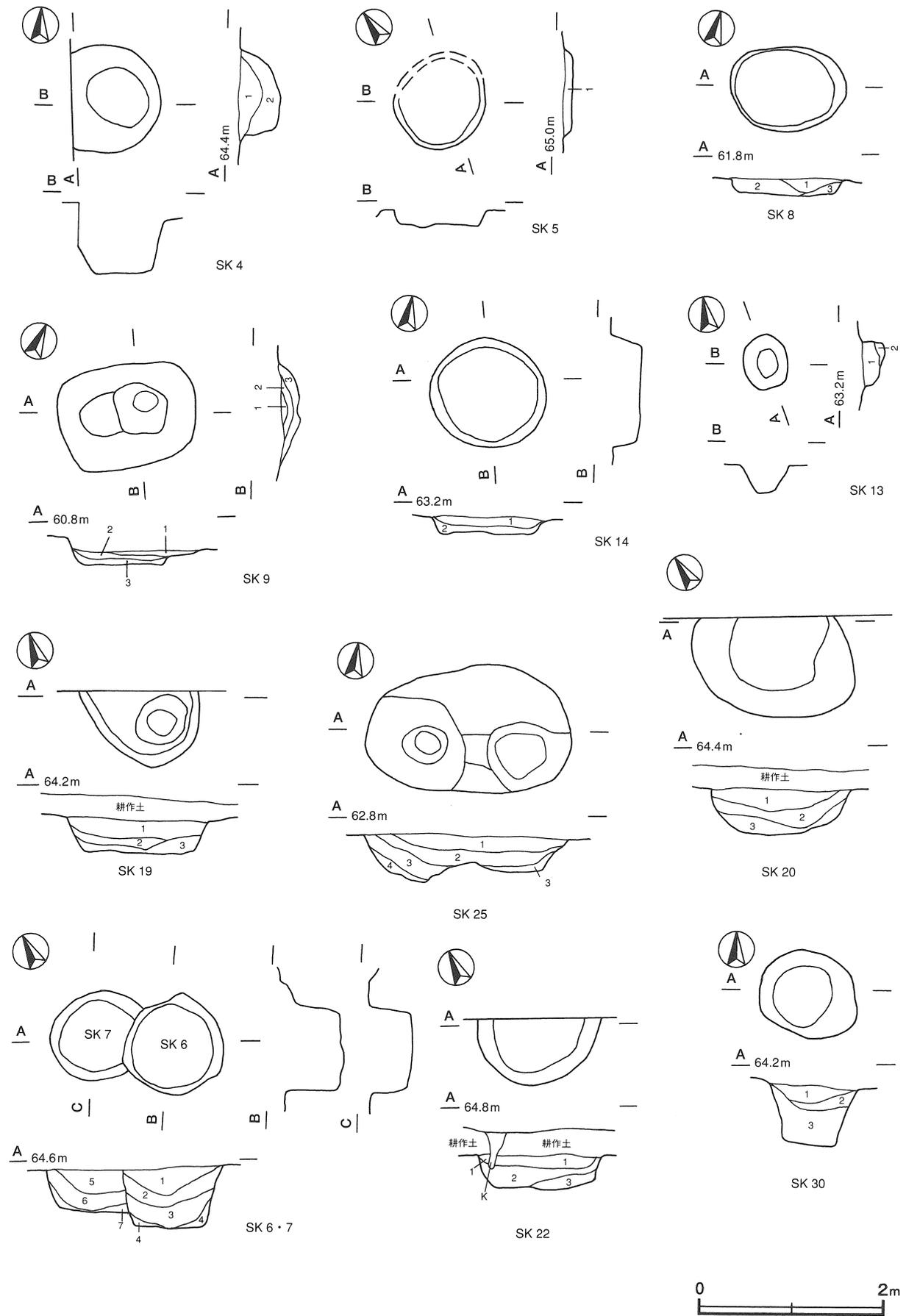
第406図 第8号柵跡実測図

(4) 土坑

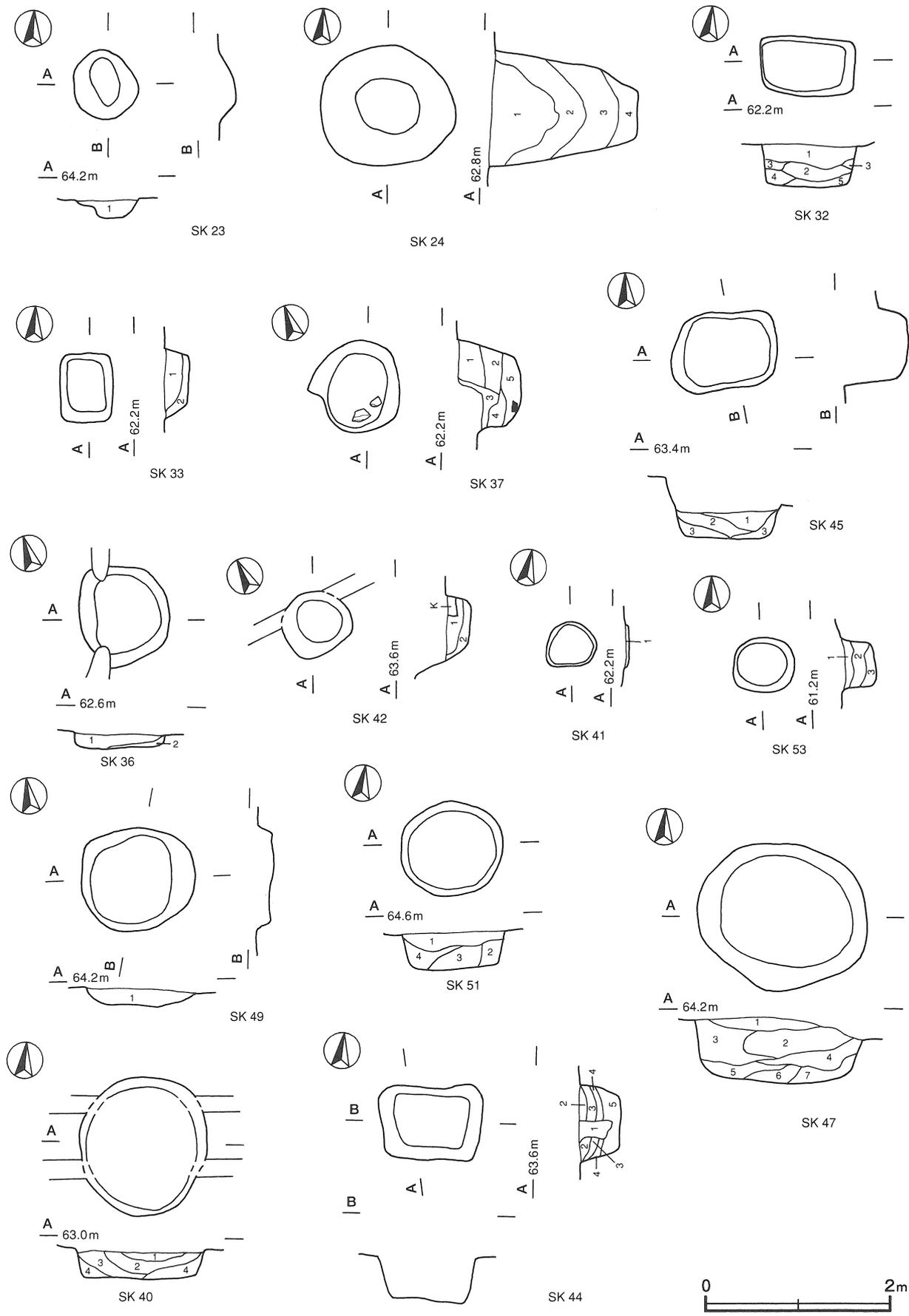
ここでは, 時期不明の土坑について実測図と土層解説で記述する。



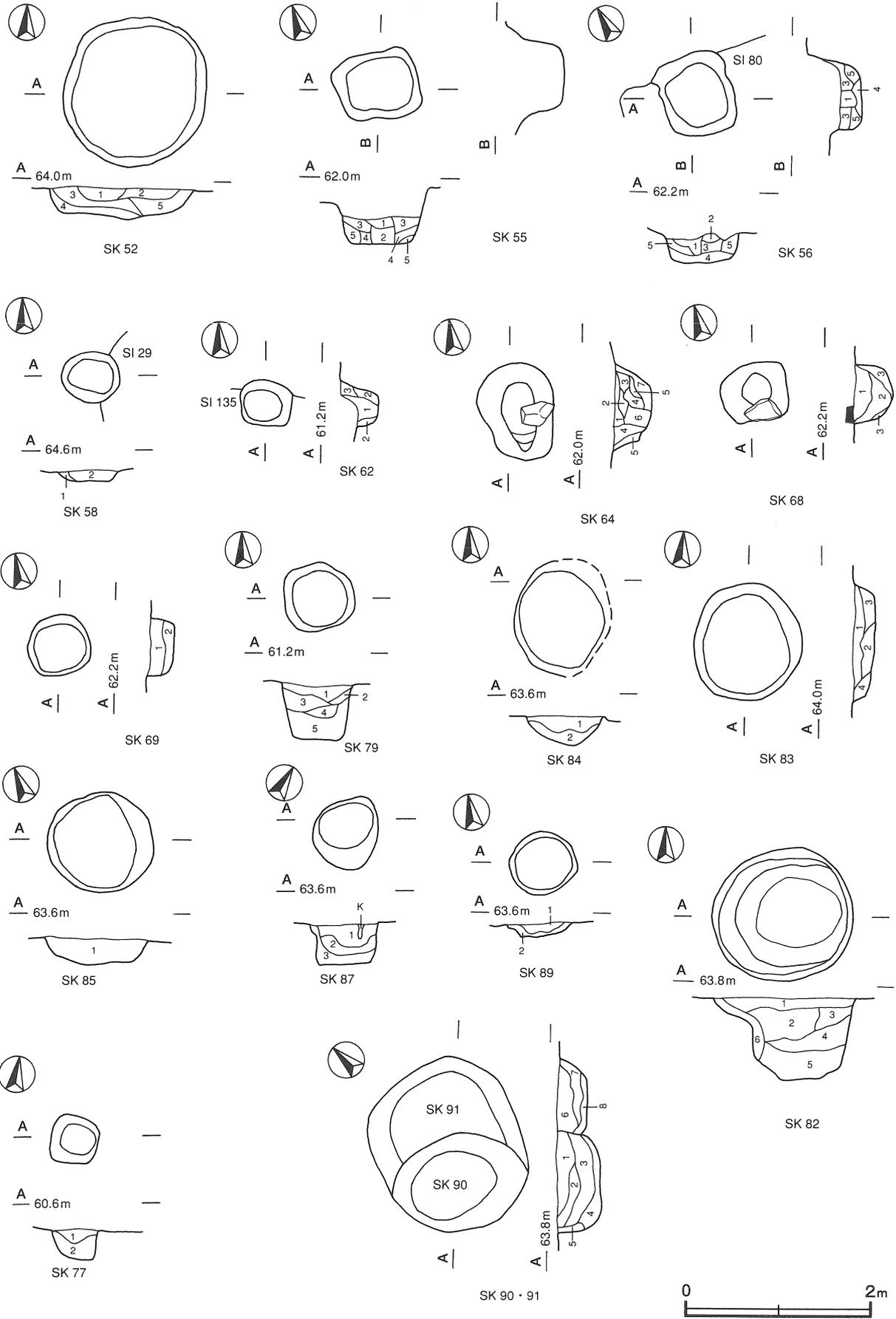
第407図 その他の土坑実測図(1)



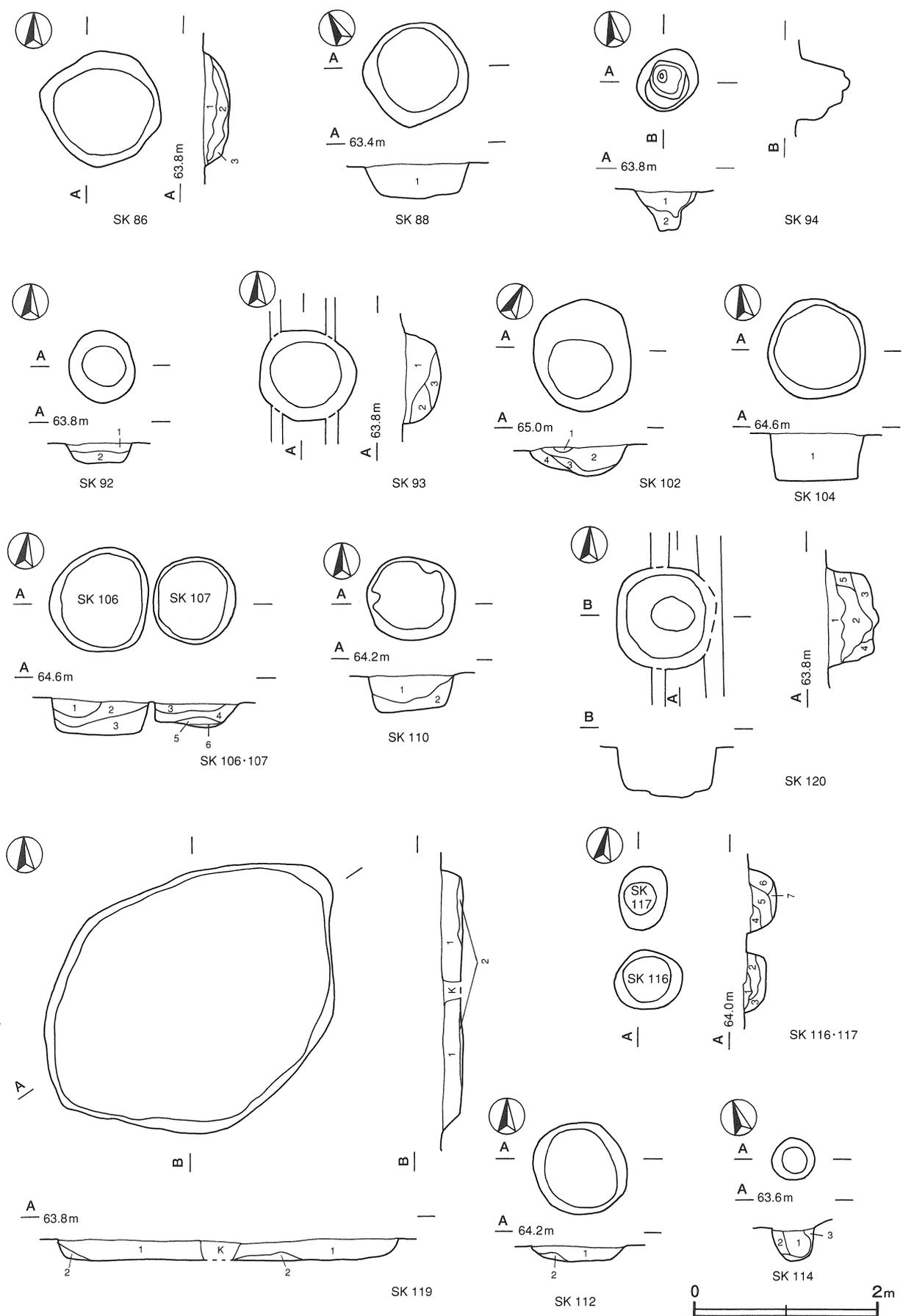
第408図 その他の土坑実測図(2)



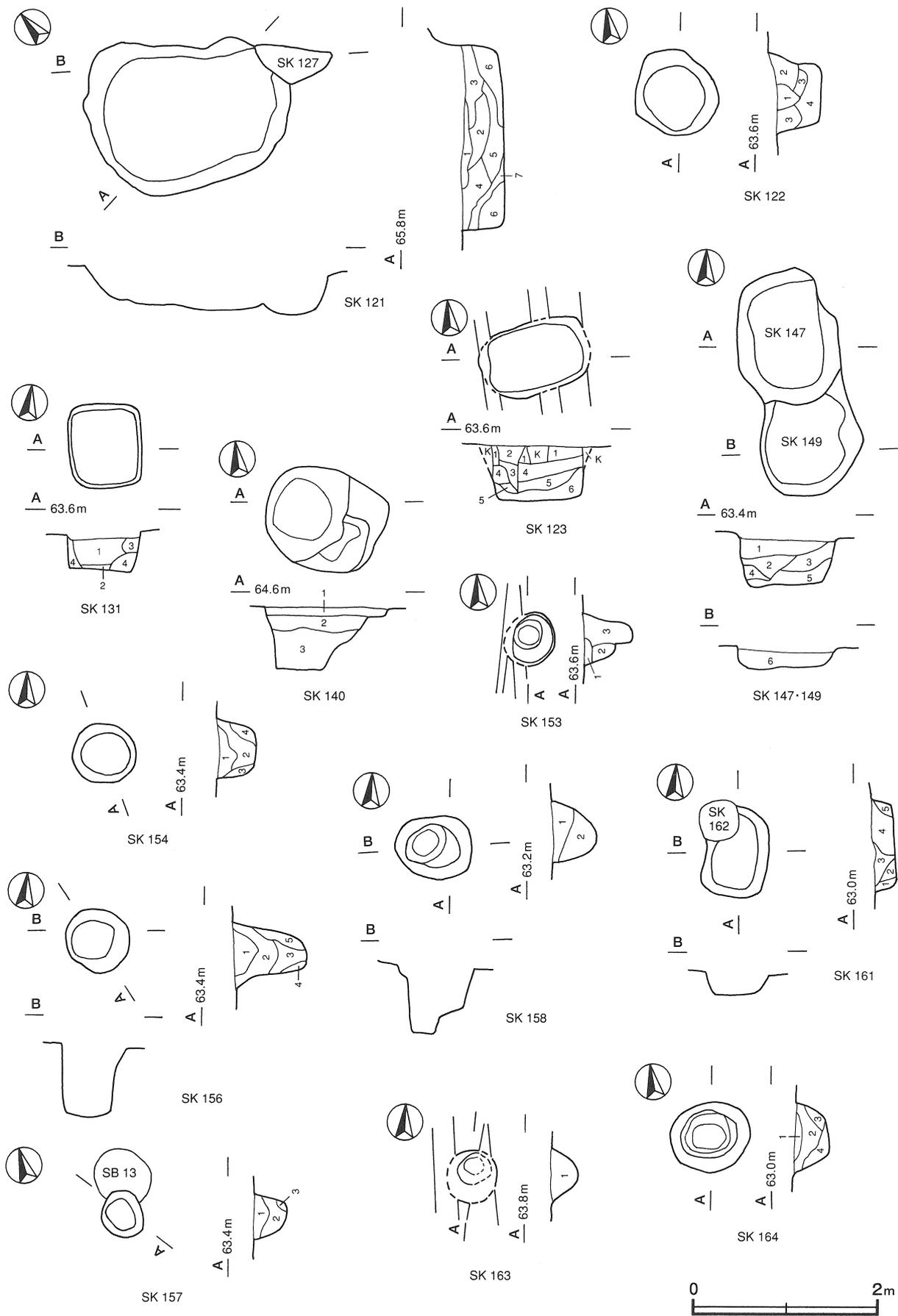
第409図 その他の土坑実測図(3)



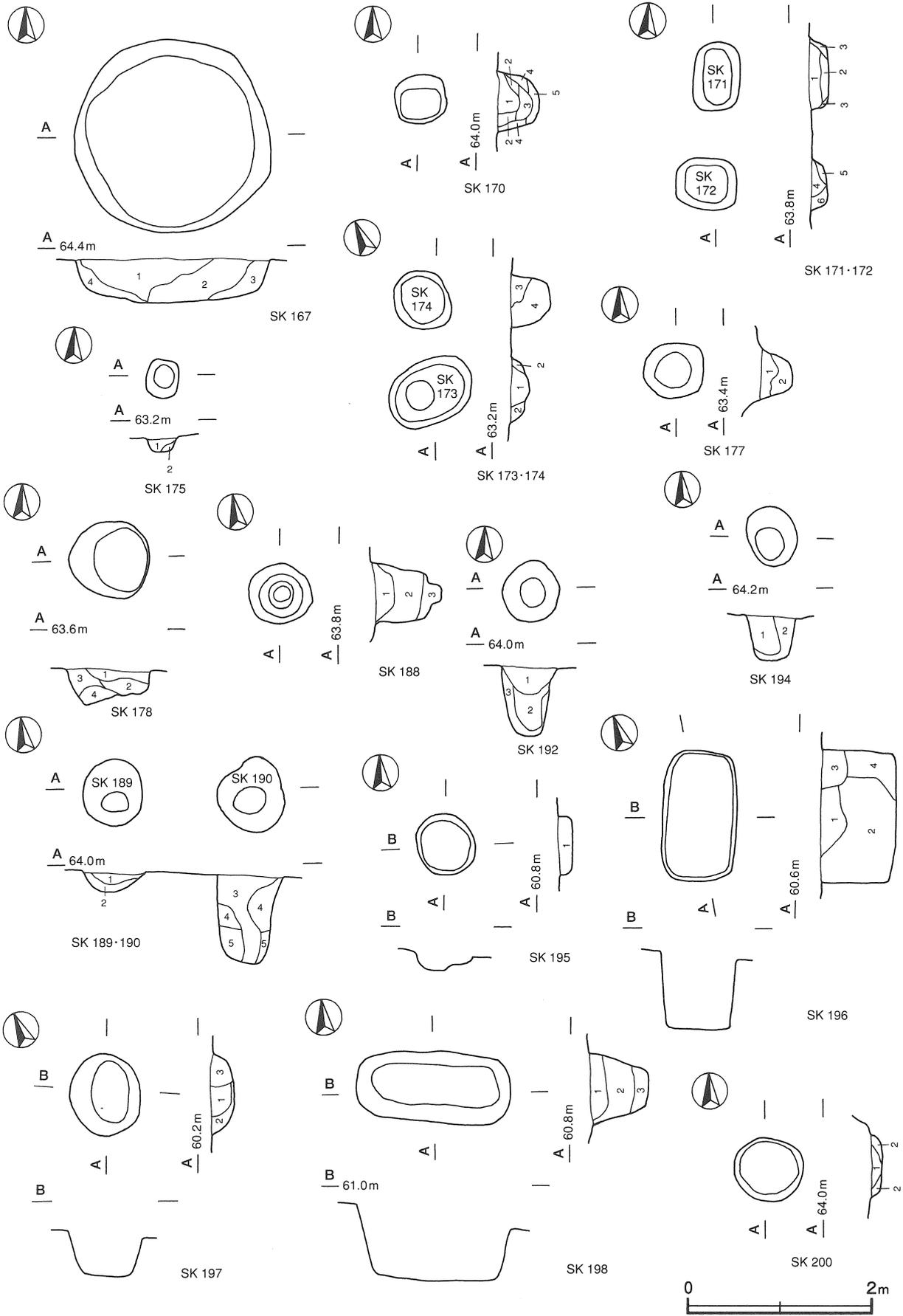
第410図 その他の土坑実測図(4)



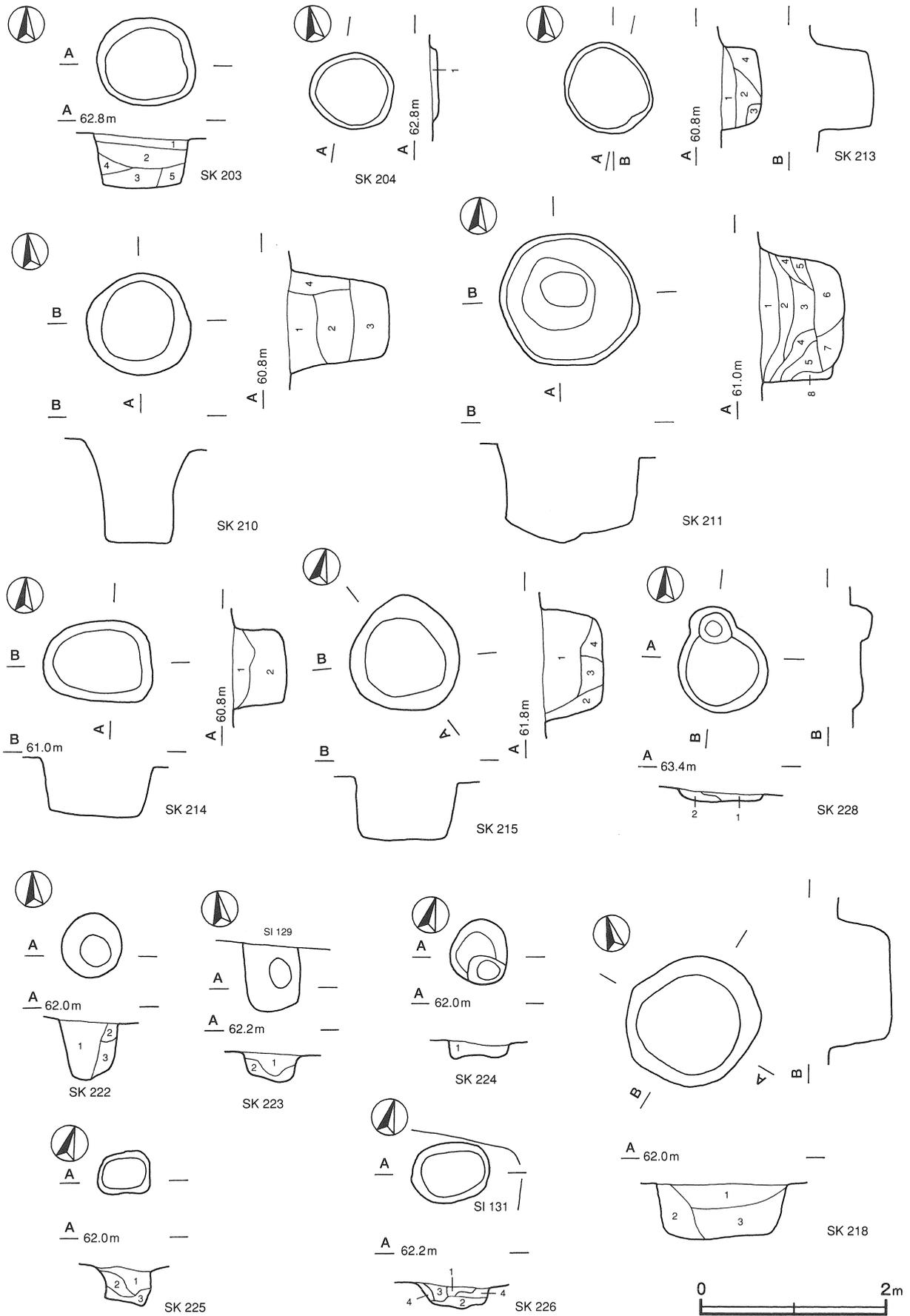
第411図 その他の土坑構実測図(5)



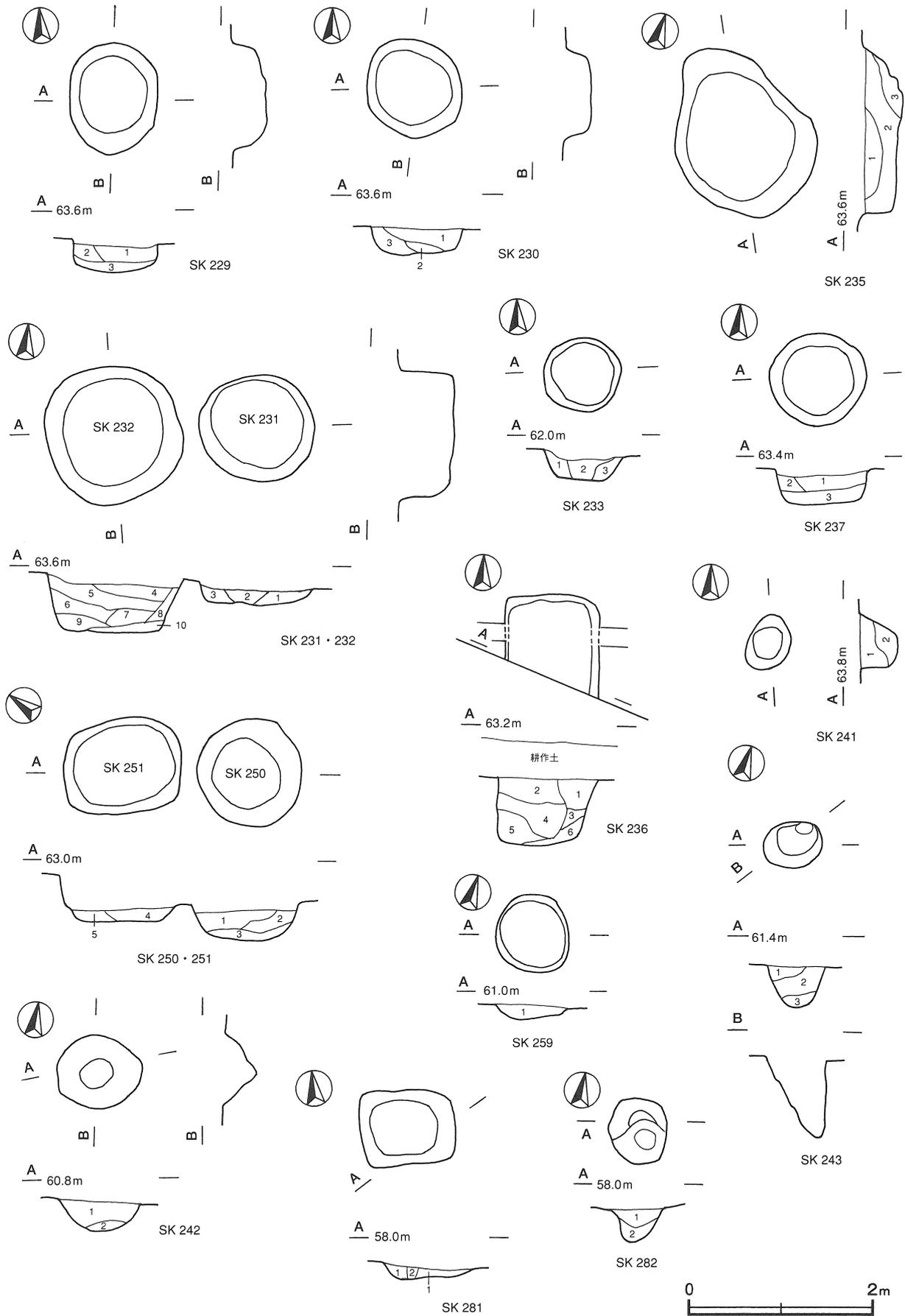
第412図 その他の土坑実測図(6)



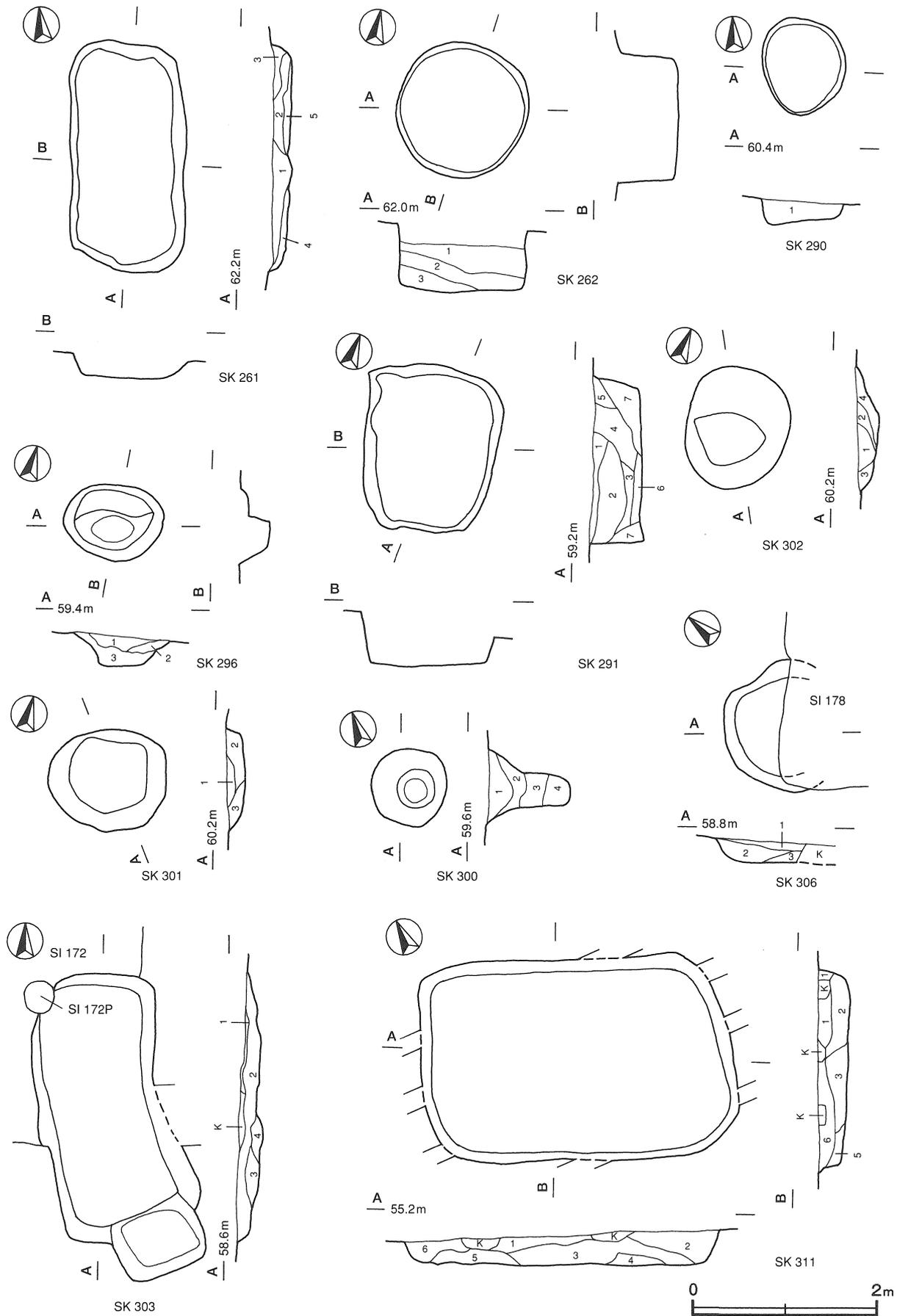
第413図 その他の土坑実測図(7)



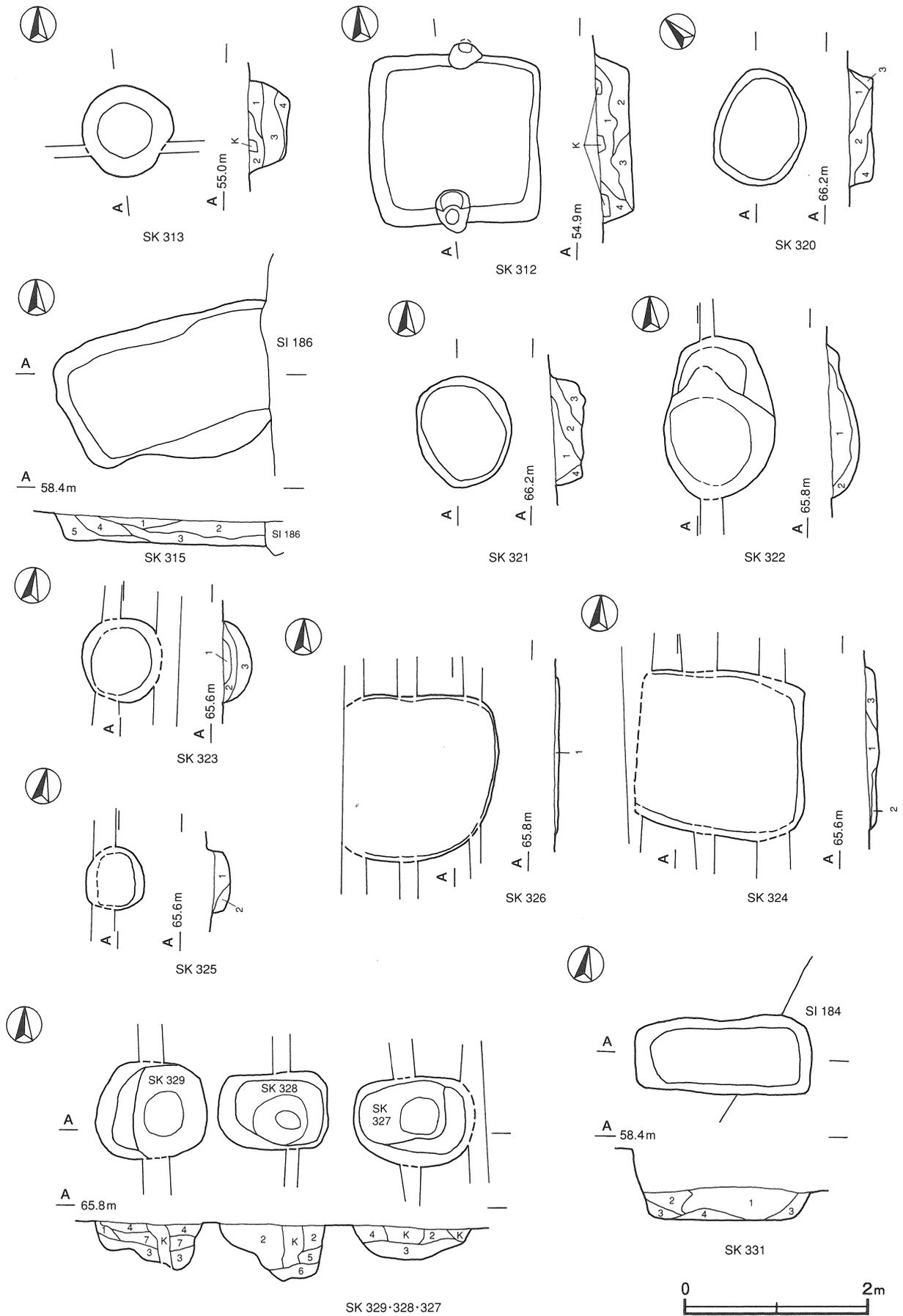
第414図 その他の土坑実測図(8)



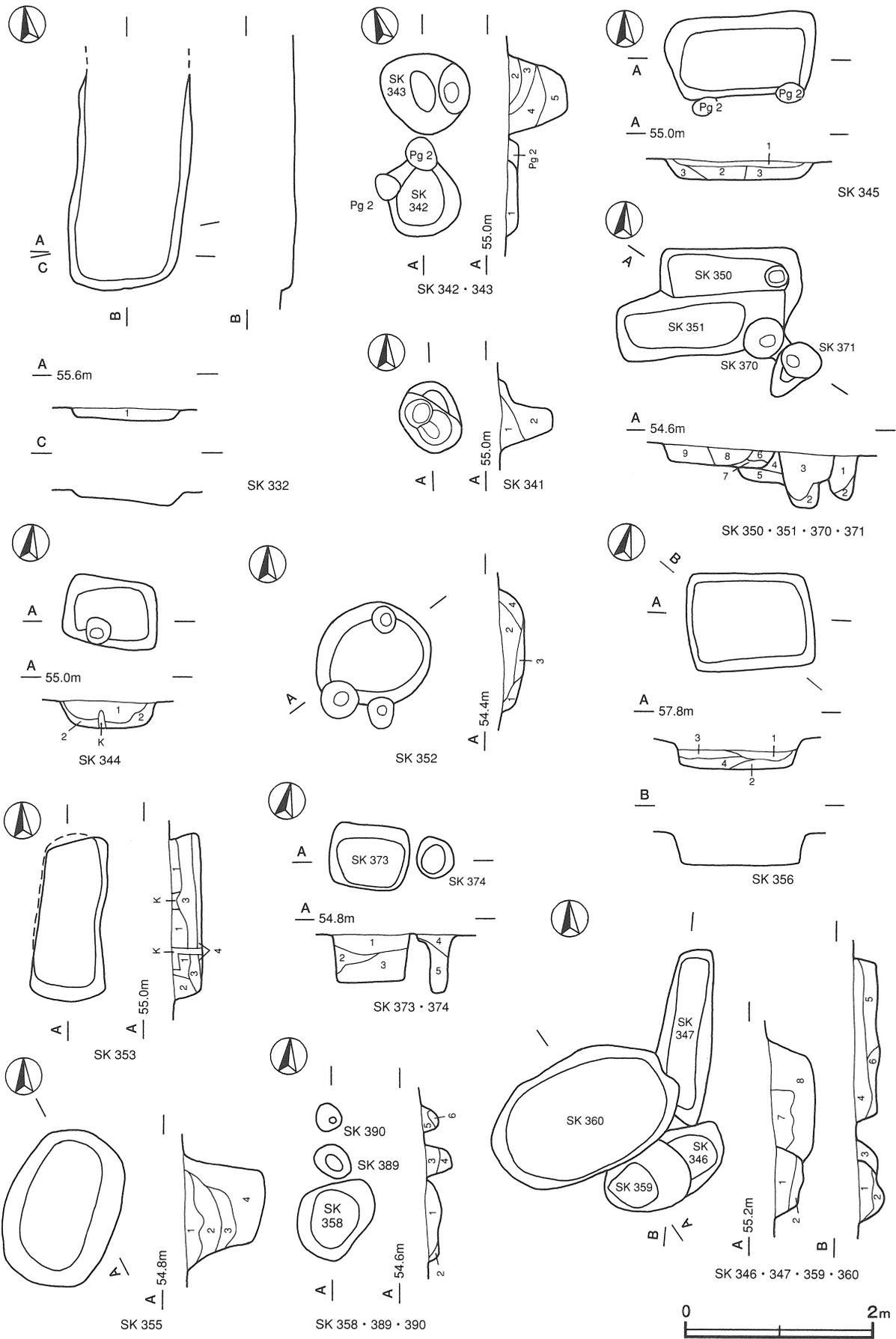
第415図 その他の土坑実測図(9)



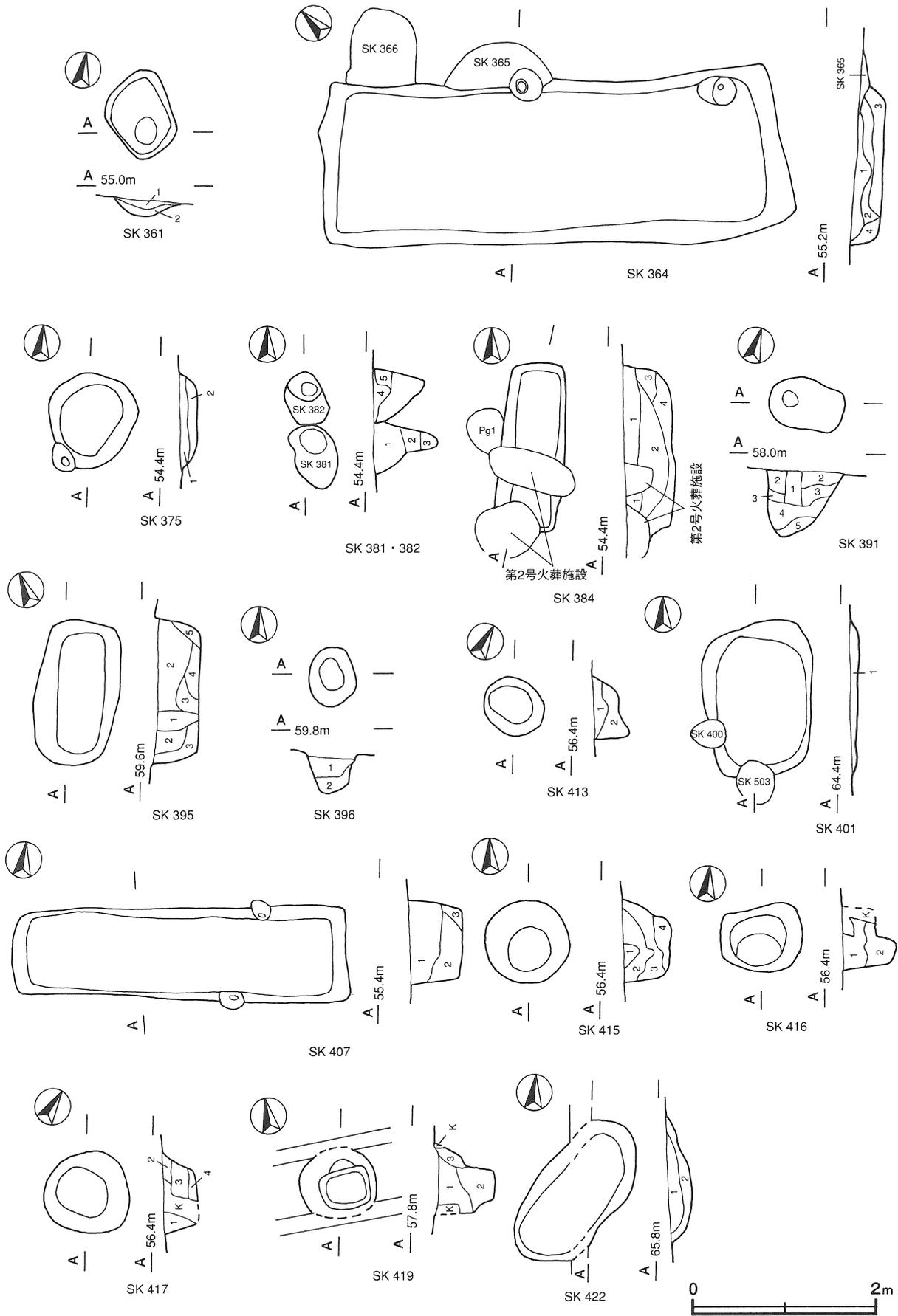
第416図 その他の土坑実測図(10)



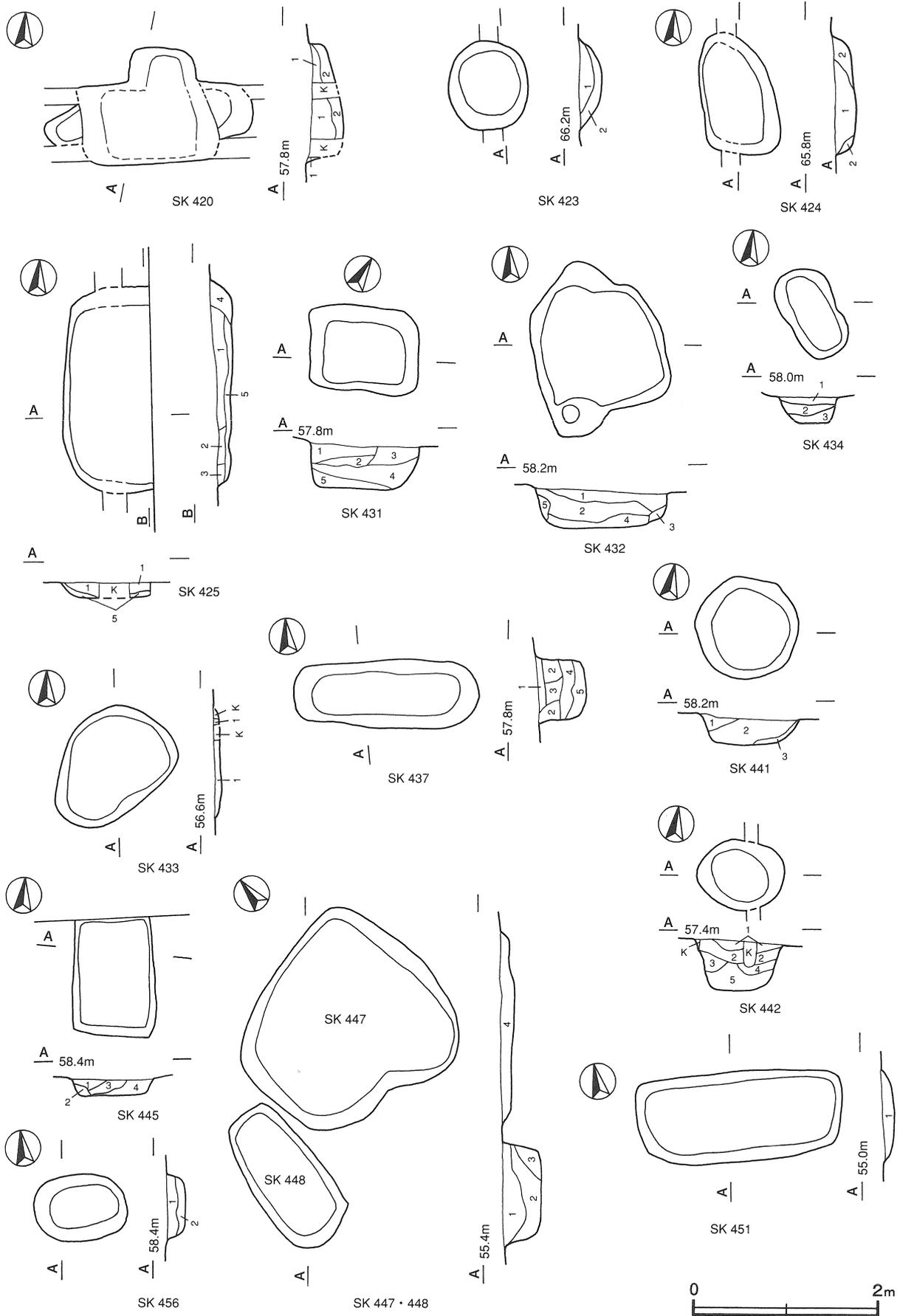
第417図 その他の土坑構実測図(11)



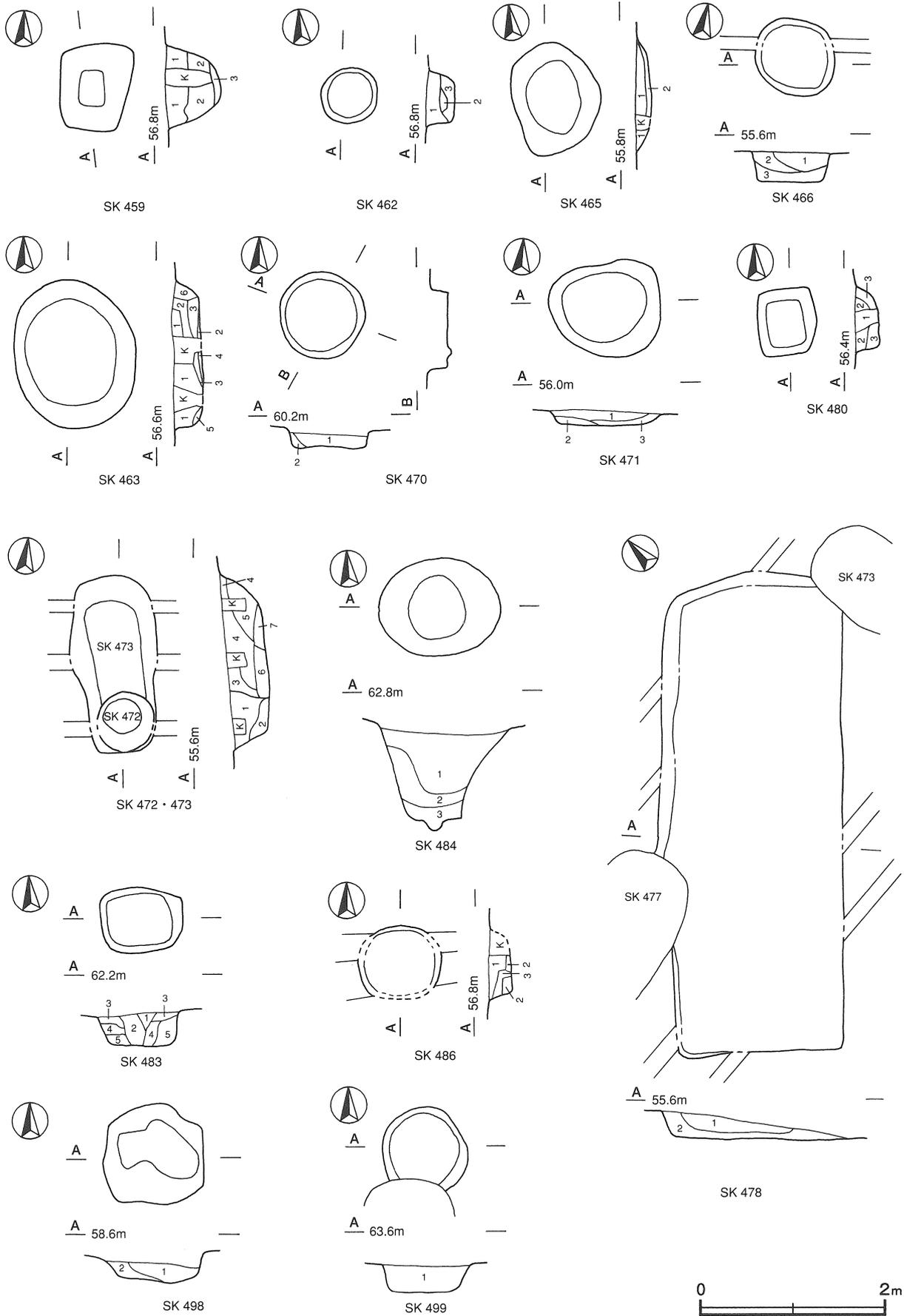
第418図 その他の土坑実測図(12)



第419図 その他の土坑実測図(13)



第420図 その他の土坑実測図(14)



第421図 その他の土坑実測図(15)

## その他の土坑土層解説

### 第1号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 明褐色 ローム粒子中量

### 第2号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

### 第3号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

### 第4号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

### 第5号土坑土層解説

- 1 褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量

### 第6・7号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

### 第8号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

### 第9号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

### 第13号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

### 第14号土坑土層解説

- 1 褐色 赤色粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

### 第19号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

### 第20号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

### 第22号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

### 第23号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量

### 第24号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミス微量

### 第25号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 明褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

### 第30号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック微量

### 第32号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 にぶい褐色 ローム粒子中量
- 4 極暗褐色 ローム粒子・赤色粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量

### 第33号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ローム粒子・赤色粒子微量

### 第36号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量

### 第37号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
- 4 灰褐色 砂質粘土粒子多量, ロームブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量

### 第40号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

### 第41号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

### 第42号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック微量
- 2 明褐色 ロームブロック・炭化物微量

### 第44号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量
- 5 褐色 ロームブロック少量

**第45号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 3 褐 色 ローム粒子少量

**第47号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 5 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 7 褐 色 ロームブロック微量

**第49号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

**第51号土坑土層解説**

- 1 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック微量

**第52号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 2 褐 色 ロームブロック微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量
- 4 褐 色 ローム粒子中量
- 5 暗 褐 色 ローム粒子微量

**第53号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 2 褐 色 ロームブロック中量
- 3 褐 色 ローム粒子中量

**第55号土坑土層解説**

- 1 明 褐 色 ローム粒子多量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 4 極暗褐色 粘土粒子多量, ロームブロック微量
- 5 褐 色 ローム粒子多量

**第56号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 2 褐 灰 色 粘土粒子中量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 5 褐 色 ロームブロック少量

**第58号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量

**第62号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック中量

**第64号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ローム粒子中量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 4 極暗褐色 ローム粒子少量
- 5 褐 色 ロームブロック少量
- 6 褐 色 ロームブロック微量
- 7 暗 褐 色 ローム粒子少量

**第68号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 3 褐 色 ローム粒子中量

**第69号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 炭化粒子少量, ローム粒子微量

**第77号土坑土層解説**

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子中量

**第79号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗 赤 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 4 褐 灰 色 粘土粒子中量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック中量

**第82号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

**第83号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

**第84号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

**第85号土坑土層解説**

- 1 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量

**第86号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

**第87号土坑土層解説**

- 1 褐 色 粘土粒子多量, ローム粒子少量, 炭化物微量
- 2 暗 褐 色 炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 3 明 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

**第88号土坑土層解説**

- 1 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量

**第89号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

**第90・91号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐 色 ローム粒子多量
- 6 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量

- 7 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 8 褐 色 ロームブロック中量

**第92号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

**第93号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック微量

**第94号土坑土層解説**

- 1 灰 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
- 2 褐 色 ロームブロック少量

**第102号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 炭化物中量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量

**第104号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物微量

**第106・107号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック中量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 5 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 6 褐 色 ローム粒子中量

**第110号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量

**第112号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

**第114号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 褐 色 ロームブロック微量

**第116・117号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック微量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 5 褐 色 ロームブロック少量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 7 黒 褐 色 ロームブロック微量

**第119号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量

**第120号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック微量

**第121号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 5 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 6 褐 色 ローム粒子微量
- 7 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

**第122号土坑土層解説**

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐 色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 4 褐 色 ローム粒子中量

**第123号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック中量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック微量, 粘性強
- 4 にぶい黄褐色 ロームブロック微量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック少量

**第131号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 4 黒 褐 色 ローム粒子少量

**第140号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化物微量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

**第147・149号土坑土層解説**

- 1 灰 褐 色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・粘土粒子微量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック微量

**第153号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

**第154号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 3 褐 色 ローム粒子少量
- 4 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

**第156号土坑土層解説**

- 1 褐 色 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 明 褐 色 ローム粒子中量
- 5 褐 色 ロームブロック少量

**第157号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第158号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量

第161号土坑土層解説

- 1 褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 明褐色 ローム粒子中量
- 5 褐色 ロームブロック少量

第163号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第164号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量

第167号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量

第170号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量
- 5 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

第171・172号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量
- 5 褐色 ロームブロック微量
- 6 褐色 ローム粒子多量

第173・174号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 暗褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量

第175号土坑土層解説

- 1 褐色 炭化物少量, ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・炭化物微量

第177号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量

第178号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 極暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量

第188号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子微量

第189・190号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子微量

第192号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック微量

第194号土坑土層解説

- 1 明褐色 ローム粒子多量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第195号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第196号土坑土層解説

- 1 黒褐色 鹿沼パミス中量, ロームブロック少量
- 2 暗褐色 鹿沼パミス多量, ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック・鹿沼パミス中量

第197号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第198号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミス微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 鹿沼パミス少量, ローム粒子微量

第200号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第203号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 にぶい黄褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子微量

第204号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第210号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 鹿沼パミス微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

第211号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 5 褐色 ローム粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 6 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 7 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 8 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第213号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

- 2 暗 褐 色    ロームブロック少量
- 3 黒 褐 色    ロームブロック少量
- 4 暗 褐 色    ローム粒子微量

**第214号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色    ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 褐        色    ロームブロック・鹿沼バミス少量

**第215号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色    ロームブロック中量
- 2 黒 褐 色    ロームブロック微量
- 3 黒 褐 色    ロームブロック少量
- 4 暗 褐 色    ロームブロック少量

**第218号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色    ロームブロック中量
- 2 暗 褐 色    ロームブロック少量
- 3 黒 褐 色    ロームブロック中量

**第222号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色    ロームブロック・赤色粒子微量
- 2 暗 褐 色    ロームブロック微量
- 3 褐        色    ロームブロック少量

**第223号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色    ロームブロック微量
- 2 褐        色    ローム粒子多量

**第224号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色    ロームブロック微量

**第225号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色    ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色    ロームブロック少量
- 3 褐        色    ローム粒子中量

**第226号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色    ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 明 褐 色    ローム粒子多量
- 3 暗 褐 色    ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐        色    ローム粒子中量

**第228号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色    ローム粒子微量
- 2 褐        色    ローム粒子少量

**第229号土坑土層解説**

- 1 にぶい黄褐色    ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色    ロームブロック微量
- 3 黒 褐 色    ロームブロック微量

**第230号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色    ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色    ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 褐        色    ロームブロック微量

**第231・232号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色    ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色    ローム粒子微量
- 3 黒 褐 色    ロームブロック微量
- 4 暗 褐 色    ロームブロック微量
- 5 暗 褐 色    ロームブロック少量
- 6 暗 褐 色    ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 7 黒 褐 色    ロームブロック微量
- 8 黒 褐 色    ロームブロック少量
- 9 にぶい黄褐色    ロームブロック中量
- 10 褐        色    ローム粒子中量

**第233号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色    ローム粒子中量
- 2 暗 褐 色    ローム粒子微量
- 3 褐        色    ローム粒子微量

**第235号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色    ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色    ローム粒子少量
- 3 明 褐 色    ローム粒子中量

**第236号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色    ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
- 2 黒 褐 色    ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色    ロームブロック・炭化物微量
- 4 黒 褐 色    ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 黒 褐 色    ロームブロック少量
- 6 暗 褐 色    ロームブロック微量

**第237号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色    ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色    ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐        色    ロームブロック微量

**第241号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色    ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐        色    ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

**第242号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色    ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色    ロームブロック微量

**第243号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色    ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色    ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 3 黒 褐 色    ロームブロック中量

**第250・251号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色    ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 2 黒 褐 色    焼土ブロック多量, 炭化物微量
- 3 黒 褐 色    ロームブロック少量
- 4 黒 褐 色    ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 5 黒 褐 色    ロームブロック微量

**第259号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色    ローム粒子中量

**第261号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色    ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色    ロームブロック微量
- 3 黒 褐 色    ロームブロック少量
- 4 にぶい黄褐色    ロームブロック中量
- 5 暗 褐 色    ロームブロック少量

**第262号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色    ロームブロック多量
- 2 黒 褐 色    ロームブロック少量
- 3 明 褐 色    ロームブロック多量

**第281号土坑土層解説**

- 1 褐        色    ローム粒子多量
- 2 褐        色    ロームブロック・炭化粒子微量

**第282号土坑土層解説**

- 1 褐        色    ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色    ロームブロック微量

第290号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

第291号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量
- 6 褐色 ロームブロック少量
- 7 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第296号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第300号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 鹿沼バミス微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・鹿沼バミス微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・鹿沼バミス微量

第301号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第302号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック少量

第303号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子少量, 炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第306号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第311号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 にぶい黄褐色 ロームブロック微量
- 5 にぶい褐色 ローム粒子多量
- 6 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

第312号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

第313号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第315号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック微量

第320号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック微量

第321号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第322号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第323号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

第324号土坑土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第325号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量

第326号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量

第327・328・329号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 4 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 6 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 7 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化物微量

第331号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック少量

第332号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第341号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量, 炭化物微量

第342・343号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量, 炭化物微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量

- 4 黒褐色 ロームブロック・鹿沼パミス少量, 焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量, 鹿沼パミス少量

**第344号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック中量, 鹿沼パミス・炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

**第345号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

**第346・347・359・360号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 5 褐色 ローム粒子多量, 炭化物微量
- 6 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 7 褐色 ロームブロック中量
- 8 暗褐色 ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量

**第350・351・370・371号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・鹿沼パミス微量
- 5 灰褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ロームブロック微量
- 9 暗褐色 ロームブロック少量

**第352号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量

**第353号土坑土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 明褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量

**第355号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 炭化粒子少量

**第356号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量

**第358・389・390号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 5 褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

**第361号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミス少量
- 2 暗褐色 鹿沼パミス少量, ロームブロック微量

**第364号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 炭化粒子中量

**第373・374号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミス微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 鹿沼パミス微量
- 4 にぶい黄褐色 ロームブロック・鹿沼パミス微量
- 5 褐色 鹿沼パミス少量, ローム粒子少量

**第375号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

**第381・382号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 6 黒褐色 ロームブロック中量

**第384号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子微量, しまり強

**第391号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 炭化粒子少量
- 5 褐色 炭化粒子少量

**第395号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 にぶい褐色 ローム粒子中量

**第396号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量

**第401号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量

**第407号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量

**第413号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 灰褐色 ロームブロック中量

**第415号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

**第416号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 2 褐色 ロームブロック多量

**第417号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 4 褐色 ロームブロック中量

**第419号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 明褐色 ローム粒子多量

**第420号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

**第422号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

**第423号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

**第424号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック微量

**第425号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量

**第431号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・粘土粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 炭化粒子少量
- 5 黒褐色 ロームブロック微量

**第432号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ロームブロック微量

**第433号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物微量

**第434号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

**第437号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量
- 5 明褐色 ローム粒子多量

**第441号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

**第442号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量

**第445号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量

**第447・448号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 鹿沼パミス微量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量

**第451号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック中量

**第456号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

**第459号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, 粘土ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量

**第462号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 黒褐色 焼土ブロック・炭化物少量, ローム粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子中量

**第463号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 炭化粒子多量
- 6 暗褐色 炭化粒子微量

**第465号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

**第466号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量

第470号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第471号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量

第472・473号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 黒褐色 ロームブロック中量

第478号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第480号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第483号土坑土層解説

- 1 褐灰色 粘土粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量

第484号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子微量

第486号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量

第498号土坑土層解説

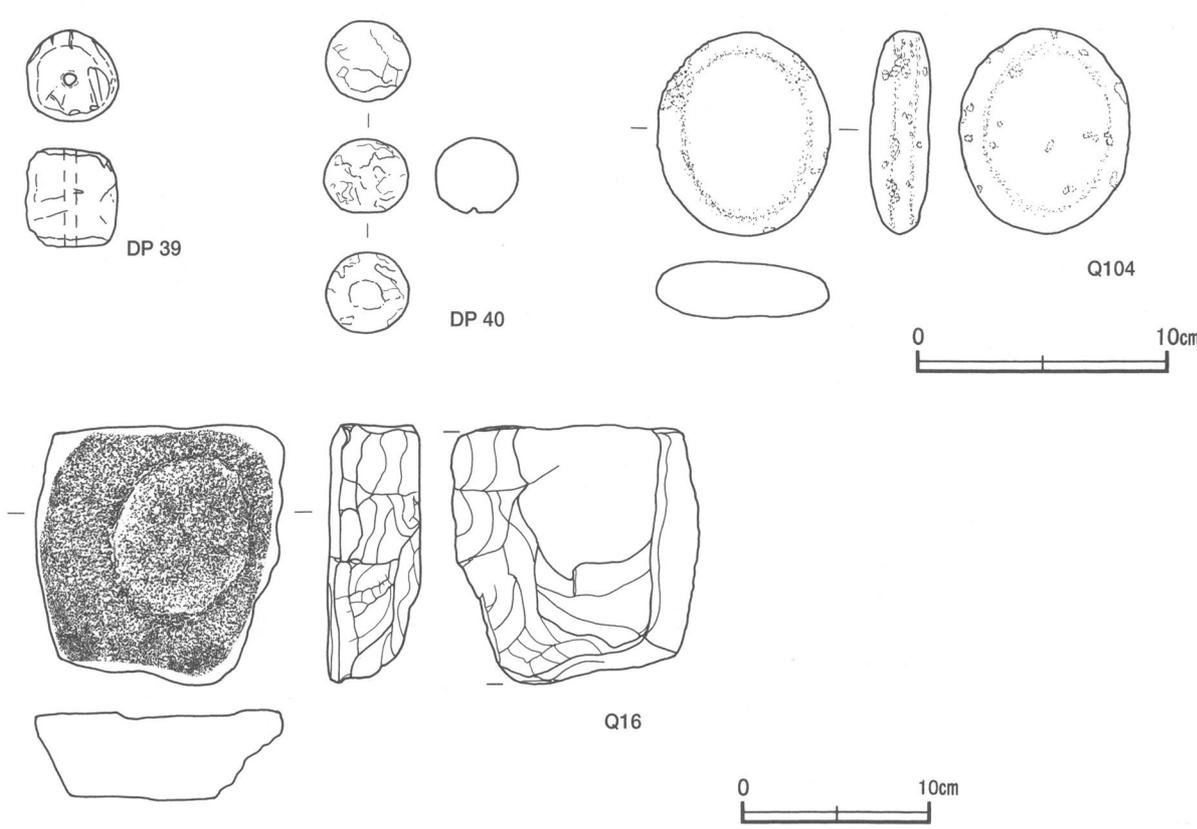
- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量

第499号土坑土層解説

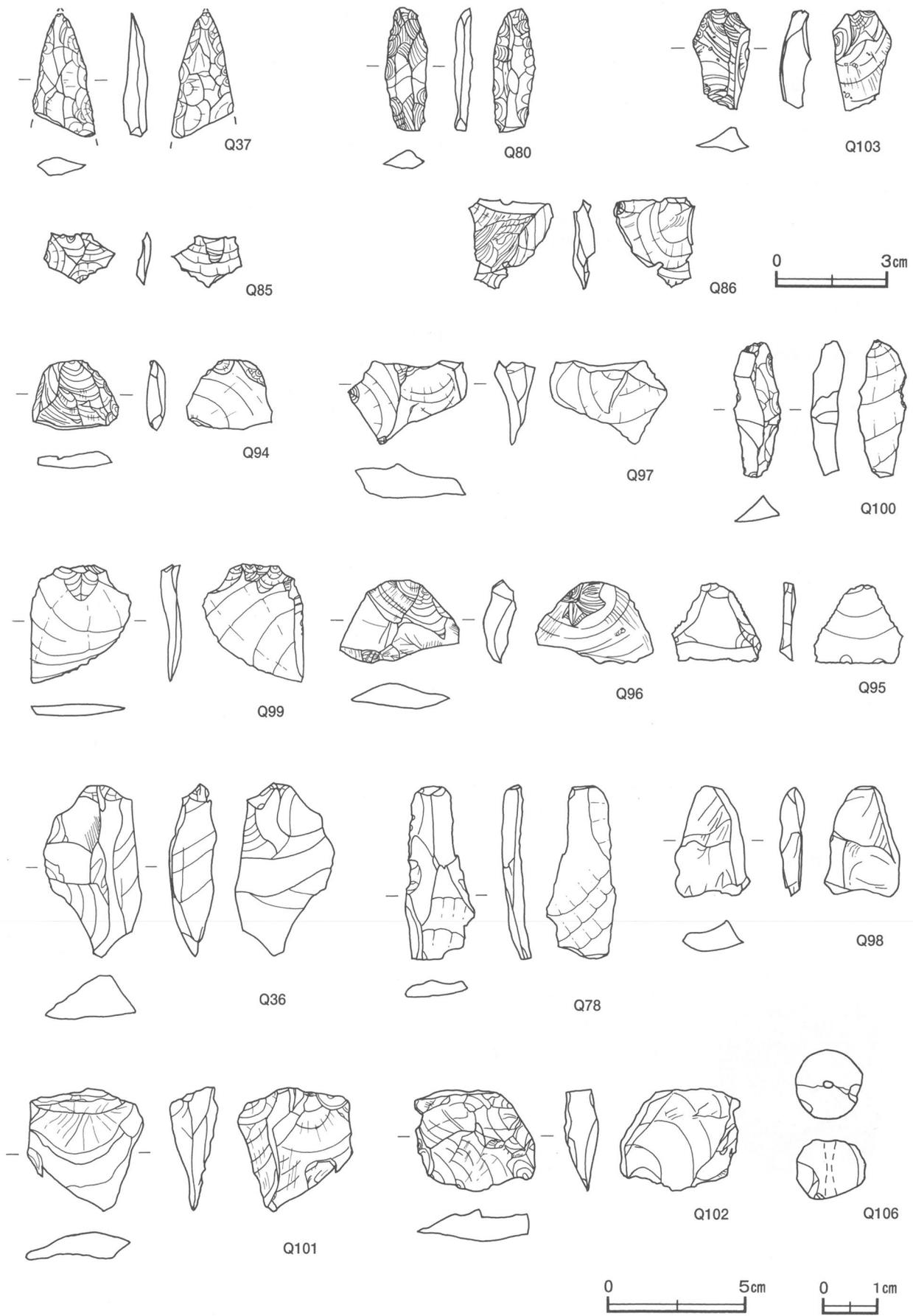
- 1 暗褐色 炭化物少量, ローム粒子微量

(5) 遺構外出土遺物

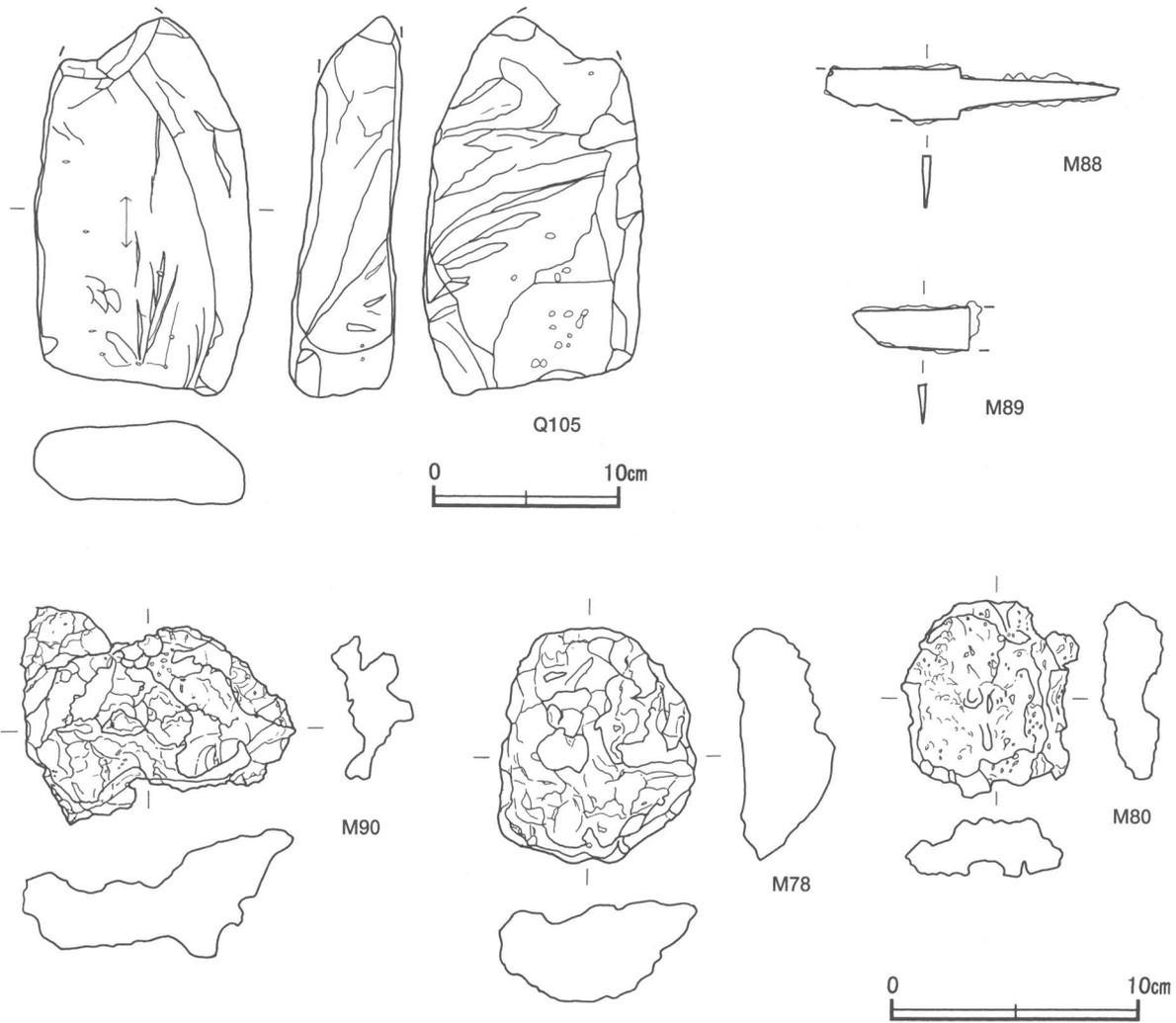
ここでは、その他の時代や時期を特定できない遺物について、観察表で記述する。



第422図 その他の遺構外出土遺物実測図(1)



第423図 その他の遺構外出土遺物実測図(2)



第424図 その他の遺構外出土遺物実測図

その他の遺構外出土遺物観察表 (第422~424図)

番号	器種	直径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP39	土錘	3.6	3.9	0.5	60.7	土	円筒形, 孔内にらせん状の刻み	表採	PL103
DP40	土玉	3.3	-	-	31.4	土	穿孔無し, 丁寧なナデ	表採	PL103

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q16	不明	13.7	(12.9)	4.80	(1330.00)	安山岩	平坦面に楕円形のくぼみ	表採	
Q36	剥片	6.2	3.5	1.70	26.10	メノウ	縦長剥片	SI-18覆土	PL104
Q37	尖頭器	(3.4)	(1.7)	0.70	(2.58)	安山岩	両面調整, 柳葉形カ	SI-23覆土	
Q78	剥片	6.3	2.5	0.90	9.80	安山岩	縦長剥片	SK-16覆土	PL104
Q80	尖頭器	3.3	1.1	0.45	2.18	チャート	両面調整	SK-119覆土	PL104
Q85	剥片	1.8	1.9	0.40	0.47	黒曜石	横長剥片	SK-360覆土	
Q86	剥片	2.4	2.2	0.40	1.90	黒曜石	横長剥片	SK-407覆土	
Q94	剥片	3.1	2.5	0.60	5.05	灰色チャート	横長剥片	SI-37覆土	
Q95	剥片	2.8	3.2	0.50	4.78	チャート	縦長剥片	SB-16覆土	
Q96	剥片	3.9	5.0	1.20	8.50	黒曜石	横長剥片	表採	
Q97	剥片	3.0	4.3	1.40	10.25	黄玉岩カ	横長剥片	SI-170覆土	益子産カ
Q98	剥片	4.0	2.6	0.89	7.95	流紋岩	縦長剥片	表採	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q99	剥片	4.3	3.6	0.7	6.70	硬質頁岩	縦長剥片	表採	
Q100	石刃カ	4.9	1.7	1.1	5.95	メノウ	とさか状稜	表採	
Q101	剥片	4.4	4.1	1.80	18.20	赤色チャート	横長剥片	表採	
Q102	剥片	3.7	4.3	1.2	17.90	灰色チャート	横長剥片	表採	
Q103	剥片	2.7	1.6	0.8	2.28	黒曜石	縦長剥片	SI-29覆土	
Q104	磨石	8.1	6.8	2.4	177.20	安山岩	表面摩耗	表採	
Q105	砥石	(20.5)	11.6	5.8	(1760.0)	安山岩	砥面1面, 砥面に3条・裏面に6条の刻み	表採	

番号	器種	直径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q106	ガラス玉	1.2	1.1	0.2	2.22	-	緑色	表採	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M78	椀状滓	9.6	7.9	4.1	310.00	砂鉄他	着磁性強, 焼土付着	SK-124覆土	PL105
M80	鉄滓	8.0	7.1	2.5	146.70	砂鉄他	着磁性弱	SK-319覆土	PL105
M88	刀子	(11.9)	2.2	0.2~0.4	(261.00)	鉄	刀身断面三角形, 茎断面長方形, 先端部欠損	SK-463覆土	
M89	刀子	(4.8)	(1.9)	0.3	(7.90)	鉄	刀身断面三角形, 茎部欠損	SK-463覆土	
M90	椀状滓	11.0	9.35	5.2	320.00	砂鉄他	着磁性弱, 窯壁付着	SK-474覆土	

表2 竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設						覆土	主な出土遺物	時期	備考 (IH→新)
								主柱穴	出入口	ピット	炉	竈	貯蔵				
1	J15g9	N-12°-E	方形	3.2×3.0	10~13	平坦	一部	-	-	-	竈	(1)	自然	土師器(高台付椀, 甑) 砥石	10世紀前半		
2	J15b9	N-22°-E	長方形	3.6×3.0	15~28	平坦	-	4	-	-	竈	-	自然	須恵器(坏, 蓋)	9世紀前半	本跡→SD-1, SK-5	
3	J15e8	N-90°-E	長方形	3.2×2.8	10~16	平坦	-	-	-	-	竈	(1)	自然	土師器(坏, 甕) 刀子	9末~10前葉	本跡→SD-1	
4	J15g7	N-5°-E	[長方形]	2.7×(2.3)	8~16	平坦	-	1	-	-	竈	-	自然	土師器(高台付椀, 甕) 鏃	10世紀		
5	K17g1	N-95°-E	長方形	4.3×3.7	10~18	平坦	一部	1	-	1	竈	-	人為	土師器(坏, 高台付椀, 皿) 磨石	11世紀前半	SI-137・145, SB-2→本跡	
6	J15h0	N-2°-W	長方形	4.6×3.8	35~47	平坦	全周	4	1	-	竈	-	人為	須恵器(坏) 土製紡錘車	8世紀前葉		
7	J15i9	N-92°-E	長方形	3.7×2.9	20~28	平坦	-	-	1	2	竈	-	人為	土師器(坏, 甕) 砥石	9世紀	本跡→SD-1, SK-30・510	
8	K15b8	N-2°-E	[方形または長方形]	3.1×(1.6)	22~28	平坦	一部	-	-	-	竈	-	人為	土師器(甕)	9後葉~10前葉		
9	K15a0	N-87°-E	長方形	3.2×2.9	19~26	平坦	-	-	-	-	竈	-	人為	土師器(甕) 鏃	10世紀後半	SI-10→本跡 SK-108と重複	
10	K15b0	N-4°-W	方形	4.9×4.6	42~64	平坦	全周	4	1	-	竈	-	人為	土師器(坏) 須恵器(坏)	8世紀前葉	本跡→SI-9, SK-10, SK-112	
11	K15c9	N-2°-W	方形	2.2×2.1	4~14	平坦	-	-	-	-	竈	-	自然	土師器(坏, 高台付椀)	10世紀前半	本跡→SD-1, SK-116, SK-117	
12	K16c1	N-90°-E	方形	2.7×2.6	9~14	凹凸	-	-	-	-	竈	-	人為	土師器(坏, 高台付椀, 甕) 砥石	10世紀後半		
13	K15d9	N-78°-W	方形	3.7×3.6	10~20	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器片 須恵器片	平安時代		
14	K15e0	N-96°-E	長方形	3.5×3.0	2~24	平坦	-	-	-	-	竈	-	自然	土師器(高台付椀, 皿, 甕) 鏃	10世紀後半	本跡→SK-81, 94, 103	
15	K15g8	N-90°-E	[長方形]	3.0×(2.1)	15~20	平坦	-	-	-	1	竈	-	自然	土師器(坏, 甕)	10世紀	SI-108→本跡	
16	K15g9	N-4°-W	[長方形]	4.2×(3.3)	20~24	凹凸	-	-	-	-	竈	-	自然	須恵器(坏, 高台付坏, 蓋, 盤) 砥石 刀子 瓦	9世紀前葉	SI-140, SK-180→本跡→ SI-17・18, SD-2	
17	K15g0	N-0°	[方形または長方形]	(2.6)×不明	6~18	平坦	-	-	-	-	竈2	-	自然	土師器(高台付椀, 皿, 灰釉(甗))	10前半	SI-16・140, SK-180→本跡→SI-18	
18	K15h0	N-3°-E	[方形]	3.3×[3.0]	12~18	凹凸	-	-	-	-	竈	-	人為	土師器(坏, 皿, 甕) 須恵器(鏃, 転用硯)	10世紀後半	SI-16・17・140, SK-180→本跡→SK-84	
19	K15j0	N-4°-W	[方形または長方形]	(4.1)×(1.8)	22~45	凹凸	一部	-	-	-	竈	-	人為	土師器(甕) 須恵器(坏, 蓋, 高甗)	8世紀後葉	SI-112と重複	
20	J16d4	N-20°-W	方形	3.8×3.7	10~15	平坦	-	-	-	-	竈	-	自然	土師器(坏, 椀)	6世紀前半		
21	J16e2	N-85°-E	長方形	3.3×3.0	2~6	平坦	-	-	-	-	竈	-	自然	須恵器(盤)	9世紀前半	本跡→SI-22, SK-511	
22	J16e2	N-91°-E	長方形	3.8×2.8	12~25	平坦	-	3	1	-	竈	-	自然	土師器(皿, 甕)	10世紀前半	SI-21→本跡	

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 (旧→新)
								主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵				
23	J16e5	N-3°-E	方形	5.4 × 5.2	28~34	平坦	一部	4	2	-	竈	-	自然	土師器(甕) 須恵器(坏, 蓋, 甕, 壺) 砥石 帶金具	8世紀前葉	SI-24→本跡
24	J16f4	N-4°-E	[方形または長方形]	3.0 × (2.8)	8~14	平坦	-	-	-	-	竈	-	人為	磨石	8世紀	本跡→SI-23・139
25	J16f3	N-0°	[方形]	4.7 × 4.3	21~31	平坦	全周	5	2	-	竈	-	自然	土師器(坏, 甕, 高坏) 須恵器(甕, 提瓶)	6世紀中葉	
26	J16f1	N-3°-E	方形	3.2 × 3.0	36~42	平坦	一部	-	-	-	竈	-	自然	土師器(甕) 須恵器(短頸壺)	9世紀	
27	J16g4	N-8°-E	長方形	2.8 × 2.5	8~12	平坦	-	2	-	-	竈	-	自然	土師器(高台付椀) 須恵器(転用硯) 土製紡錘車 砥石 瓦	9後葉~10前半	SK-140→本跡
28	J16h3	N-81°-E	長方形	3.8 × 3.0	12~26	凹凸	-	-	-	2	竈	-	自然	土師器(皿, 甕)	10世紀後半	SI-30・150→本跡
29	J16h2	N-91°-E	長方形	3.0 × 2.6	15~23	平坦	一部	1	-	2	竈	-	自然	土師器(甕) 土製紡錘車	10世紀後半	SI-30→本跡→SK-58
30	J16h3	N-11°-W	[方形]	5.3 × (5.2)	8~10	平坦	-	-	-	2	竈	-	人為	土師器(坏, 埴) 須恵器(壺) 石製紡錘車 砥石	6世紀中葉	SK-208→本跡→SI-28・29・31・150
31	J16i3	N-90°-E	長方形	4.0 × 3.3	20~25	凹凸	一部	1	1	-	竈2	-	自然	土師器(高台付椀, 皿)	10世紀後半	SI-30・32→本跡
32	J16j3	N-5°-W	方形	4.0 × 3.9	31~42	平坦	全周	4	1	1	竈	-	自然	土師器(甕) 須恵器(坏) 土製紡錘車	8世紀後葉	本跡→SI-31
33	K16a2	N-3°-W	方形	3.8 × 3.7	17~33	平坦	-	-	-	-	竈	-	人為	土師器(高台付椀) 須恵器(坏, 転用硯)	10世紀末	SI-34・79・83・90→本跡
34	K16a2	N-1°-W	方形	3.6 × 3.6	28~30	平坦	-	-	1	1	竈	-	人為	土師器(高台付椀) 須恵器(坏) 石製紡錘車 刀子	9世紀中葉	SI-90→本跡→SI-33・79・83
35	K16a3	N-87°-E	方形	3.3 × 3.3	14~18	平坦	-	-	1	-	竈,	-	自然	土師器(高台付椀) 引手 椀状滓	10世紀後半	
36	K16b4	N-0°	方形	5.8 × 5.6	20~35	平坦	一部	4	1	7	竈	1	自然	土師器(椀, 甕, 甌) 土製勾玉 土製支脚	6世紀中葉	本跡→SD-5, SK-47
37	K16e5	N-12°-E	方形	6.6 × 6.3	28~58	平坦	全周	4	1	7	竈	-	人為	土師器(坏, 甕, 高坏) 須恵器(坏) 磨石	7世紀前葉	
38	K16f4	N-8°-E	長方形	3.5 × 2.7	20~29	平坦	-	-	-	-	竈	-	自然	土師器(坏, 皿, 甕) 灰釉(甌) 刀子	10世紀前半	本跡→SK-93・113
39	K16g3	N-0°	長方形	2.8 × 2.1	12~15	凹凸	-	-	-	-	-	-	自然	土師器(高台付椀) 砥石 瓦	10世紀後半	SI-146→本跡
40	K16h2	N-90°-E	[方形または長方形]	(3.9 × 3.6)	23~32	平坦	-	-	-	-	竈	-	人為	土師器(坏) 須恵器(蓋) 砥石	8世紀中葉	SK-181→本跡→SI-134, SK-124・129
41	K16j2	N-6°-E	[長方形]	3.9 × 3.2	30~34	平坦	-	-	-	-	竈	-	自然	土師器(高台付椀, 皿, 甕) 羽口 砥石 鍬 埴	11世紀前半	SI-115→本跡→SK-142
42	K17h5	N-93°-E	長方形	5.3 × 3.4	13~21	平坦	一部	-	-	3	竈	-	自然	須恵器(甕)	9世紀後葉~	SI-91→本跡
43A	J16h7	N-16°-E	方形	8.6 × 8.0	35~63	平坦	全周	4	2	9	竈	-	自然	土師器(坏, 甕, 甌) 須恵器(坏, 蓋, 壺) 土製紡錘車 石製紡錘車 丸玉 鍬	7世紀前半	SI-43B→本跡→SD-4
43B	J16h7	N-16°-E	方形	6.0 × 5.9	-	平坦	全周	4	2	-	-	-	人為	銅釧	7世紀前半	本跡→SI-43A
44	K17d8	N-95°-E	[長方形]	(3.1) × 2.8	1~13	平坦	-	-	-	-	竈	-	自然	土師器(高台付椀)	10世紀前半	SB-9・10→本跡
45	K16f3	N-0°	長方形	2.9 × 2.6	9~14	凹凸	-	-	-	-	-	-	自然	土師器(坏)	10世紀前葉	SI-142→本跡
46	J16f5	N-94°-E	長方形	2.8 × 1.8	10~19	凹凸	-	1	-	-	竈 (1)	自然	土師器(甕, 甌)	10世紀前半		
47	K16d7	N-107°-E	[長方形]	4.3 × 3.1	17~34	凹凸	-	1	-	-	竈	-	自然	土師器(坏, 高台付椀, 甕)	11世紀前半	SI-49→本跡→SK-122・123
48	K16c7	N-90°-W	長方形	4.4 × 3.1	29~36	平坦	-	-	-	-	竈	-	自然	土師器(坏, 高台付皿) 管状土錘 瓦	10世紀後半	本跡→SK-170・188・200
49	K16d8	N-98°-E	長方形	4.0 × 2.5	11~20	凹凸	-	1	-	-	竈	-	自然	土師器(坏) 砥石	10世紀	SI-97→本跡→SI-47 SK-28・29と重複
50	J16f9	N-78°-E	[方形または長方形]	(2.7 × 2.3)	23~62	平坦	一部	-	-	-	-	-	自然	土師器(坏, 手捏土器)	6世紀中葉	本跡→SI-65, SK-23
51	J16i0	N-86°-E	[長方形]	4.2 × (3.6)	18~26	平坦	一部	-	-	-	-	-	自然	土師器(高台付椀) 灰釉(皿) 瓦	10世紀後半	SI-52→本跡→SI-152
52	J16j0	N-10°-W	方形	6.0 × 5.5	24~34	平坦	一部	2	2	8	-	-	自然	土師器(坏, 椀) 耳環	6世紀後葉	本跡→SI-51・152, SB-11, SK-241
53	J17h2	N-13°-W	方形	6.4 × 5.6	34~57	平坦	全周	4	1	2	竈	-	人為	土師器(坏, 椀, 甕) 鍬	7世紀中葉	本跡→SI-54・56
54	J17i1	N-90°-E	[長方形]	4.1 × 3.7	12	平坦	一部	-	-	-	竈 (1)	自然	須恵器(甕, 転用硯) 瓦	9世紀	SI-53, SB-11, SK-279→本跡	
55	J17i3	N-100°-E	長方形	3.4 × 3.0	12~25	平坦	一部	-	-	2	竈	-	自然	土師器(坏, 高台付椀, 皿)	10世紀後半	SI-56, SB-13→本跡 SK-13と重複
56	J17h3	N-7°-E	長方形	4.3 × 3.3	13~17	平坦	全周	1	-	1	竈	-	自然	須恵器(転用硯)	9後半~10前半	SI-53, SB-13→本跡→SI-55
57	J17j3	N-11°-E	[方形または長方形]	3.1 × (2.8)	10~14	平坦	-	-	-	-	-	-	自然	土師器(坏, 皿) 須恵器(転用硯) 砥石	10世紀後半	本跡→SI-74, SK-177
58	K17a3	N-85°-E	長方形	3.9 × 2.6	29~32	平坦	一部	1	1	2	竈	-	自然	土師器(高台付皿) 瓦	11世紀前半	SI-59→本跡
59	K17a3	N-81°-E	長方形	3.9 × (2.2)	21~25	平坦	一部	3	-	-	竈	-	自然	土師器(高台付椀) 瓦	10世紀後半	SI-60・62→本跡→SI-58
60	K17a4	N-98°-E	長方形	3.4 × 3.0	16~21	平坦	-	-	-	-	竈	-	人為	土師器(坏, 高台付椀, 羽釜) 瓦	9末~10前半	本跡→SI-59
61	J17j4	N-93°-E	長方形	3.8 × 3.4	10~19	平坦	-	-	2	1	竈	-	人為	土師器(高台付椀) 須恵器(転用硯)	9世紀後半	SI-62→本跡→SI-60, SB-7, SK-73
62	K17a4	N-7°-E	方形	6.0 × 5.9	25~35	平坦	全周	3	1	5	竈	-	人為	土師器(坏, 甕, 甌, 高坏) 瓦	6世紀後葉	本跡→SI-59・60・61, SK-515・516

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 (旧→新)
								主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵				
63	K17c4	N-10°-W	[方形]	4.0 × 3.7	20~24	平坦	一部	-	1	1	竈	-	人為	土師器 (坏, 皿, 甕) 須恵器 (坏, 高台付皿) 紡錘車 瓦	9世紀後葉	本跡→SD-3, SK-284
64	K17c5	N-90°-E	方形	3.3 × 3.2	16~28	平坦	全周	2	-	-	竈	-	自然	土師器 (坏)	9世紀後葉	SI-71→本跡
65	J16f0	N-82°-W	[方形または長方形]	2.1 × 0.9	53~70	平坦	-	-	-	-	竈	-	自然	土師器 (皿)	10後半~11前半	SI-50→本跡
66	K17f1	N-103°-E	方形	3.5 × 3.3	25~30	平坦	-	1	-	-	竈	-	自然	土師器 (坏, 高台付椀, 甕)	10世紀前葉	SI-145, SB-2, SK-66→本跡→SK-72
67	K17f2	N-16°-E	方形	4.3 × 4.2	8~15	凹凸	-	1	-	6	竈	1	自然	土師器 (皿)	10世紀後半~	SI-145→本跡
68	K17g3	N-18°-E	長方形	5.4 × 4.6	18~29	平坦	一部	-	-	1	竈	-	自然	土師器 (坏, 甕, 羽釜)	9世紀後葉	本跡→SK-250・251
69	K17d6	N-4°-E	[方形または長方形]	5.2 × (3.2)	5~7	平坦	一部	1	-	1	-	-	人為	土師器 (坏)	8世紀	本跡→SI-70・72, SB-3
70	K17d5	N-8°-W	[方形または長方形]	4.7 × (2.6)	17~26	平坦	一部	-	-	-	-	-	人為		9世紀	SI-69・71→本跡→SI-72, SD-3
71	K17c5	N-15°-W	[方形または長方形]	3.1 × [3.0]	25	平坦	一部	2	-	-	-	-	人為		平安時代	本跡→SI-64・70・72, SD-3
72	K17d6	N-90°-E	[長方形]	[4.3] × [3.3]	6~15	凹凸	-	2	1	2	竈	-	人為	土師器 (坏, 高台付椀) 鉄滓	10後半~11前半	SI-69・70・71→本跡→SD-3
73	K17a6	N-90°-E	長方形	4.2 × 3.6	11~17	平坦	全周	1	-	1	竈	(1)	自然	土師器 (坏, 高台付椀) 瓦	11世紀	
74	J17j3	N-98°-W	長方形	3.4 × 3.0	18~26	平坦	一部	-	1	2	竈	-	人為	土師器 (坏, 高台付椀, 皿) 砥石 鉄滓	11世紀	SI-57・60→本跡→SK-276
75	J17j7	-	不明	(1.7 × 1.1)	-	凹凸	-	-	-	-	竈	-	-		奈良時代カ	SI-78と重複
76	K17a9	N-11°-E	長方形	3.8 × 2.7	10~12	平坦	-	-	-	1	竈	-	人為	土師器 (皿, 甕)	11世紀前半	SI-78→本跡→SK-50
77	L17e6	N-16°-E	[方形または長方形]	3.8 × (0.9)	20~35	平坦	-	1	-	-	竈	-	人為	土師器 (高台付椀, 皿)	10世紀後半	
78	K17b8	N-10°-W	方形	7.0 × 6.7	10~60	平坦	全周	4	-	2	炉	-	自然	土師器 (坏, 甕) 須恵器 (坏, 高台付坏, 蓋, 転用碗) 刀子 簾 鉄滓	8世紀中葉	SA-1→本跡→SI-76, SB-10, SK-275, SI-75と重複
79	K16a2	N-3°-W	[方形または長方形]	3.3 × (0.6)	14~16	平坦	-	-	-	-	竈	-	自然	紡錘車	9~10世紀	SI-34・90→本跡→SI-33
80	K17f8	N-90°-E	長方形	4.3 × 3.5	15~20	凹凸	一部	1	-	-	竈	-	人為	土師器 (高台付椀) 刀子 椀状滓	11世紀前半	SB-8・12・14→本跡→SK-55・56・115
81	K17a0	N-23°-W	[方形または長方形]	3.9 × [3.8]	7~19	凹凸	-	-	-	-	竈	-	人為	土師器 (坏) 須恵器 (高坏)	6世紀後葉	本跡→SI-82
82	K17b0	N-9°-E	[方形または長方形]	(3.9) × 2.9	12~22	平坦	一部	-	-	-	-	-	自然	土師器 (甕) 磨石	10世紀	SI-81, SA-1→本跡
83	K16a1	N-89°-E	方形	2.6 × 2.5	17~28	凹凸	-	-	-	-	竈	-	自然	須恵器 (盤) 砥石	9世紀中~後葉	SI-34・90→本跡→SI-33
84	K17c9	N-0°	[方形または長方形]	[4.3] × (3.0)	15	平坦	-	-	-	-	竈	-	不明	土師器 (坏, 甕) 須恵器 (平瓶)	7世紀中葉	本跡→SB-9・10
85	K17c0	N-7°-W	長方形	3.0 × 1.1	4	凹凸	-	-	-	-	-	-	不明	土師器 (坏) 鎌	9世紀後葉	
86	K17e9	N-14°-W	[方形または長方形]	(2.9) × 2.8	4~11	凹凸	-	1	1	1	竈	-	自然		平安時代	
87	K17f0	N-3°-E	方形	5.0 × 4.6	20~35	平坦	全周	2	-	1	竈	-	人為	土師器 (坏, 高台付坏) 瓦	9世紀前~中葉	SK-507→本跡→SI-88・135
88	K17g0	N-2°-E	長方形	4.4 × 3.9	16~39	凹凸	一部	-	-	2	竈	-	自然	土師器 (坏, 高台付皿, 甕) 須恵器 (坏) 土製紡錘車 逆方瓦	9世紀中葉	SI-87・89, SK-60・80→本跡
89	K17h0	N-0°	長方形	5.4 × 4.6	9~18	凹凸	一部	-	-	1	竈	-	人為	土師器 (坏) 須恵器 (転用碗) 土銘カ 刀子	8~9世紀前葉	本跡→SI-88, SK-79・80
90	K16a2	N-2°-W	長方形	5.2 × 4.3	22~30	平坦	-	2	-	1	竈	-	人為	土師器 (坏, 甕, 甌, 高坏)	6世紀後葉	本跡→SI-33・34・79・83
91	K17h5	N-12°-E	方形	5.2 × 4.8	20~29	平坦	全周	4	1	2	竈	-	自然	土師器 (坏, 甕, 甌)	8世紀	SK-35→本跡→SI-42, SK-34・36
92	K17g7	N-10°-E	方形	3.7 × 3.4	20~55	平坦	-	-	1	-	竈2	-	自然	土師器 (坏, 高台付椀, 甕) 須恵器 (転用碗) 常滑 砥石 瓦	9後葉~10前半	SB-6・8・12→本跡
93	K16f9	N-37°-W	[長方形]	6.3 × 4.5	2~10	平坦	-	-	-	-	炉	-	-	弥生土器 (壺)	弥生後期後半	本跡→SI-138, SK-246・247・248・249
94	L16b6	N-85°-E	長方形	4.0 × 2.4	28~39	平坦	-	-	-	1	竈	-	自然	灰釉 (高台付皿)	10世紀前半	SK-44→本跡→SK-42
95	K16j0	N-95°-E	長方形	3.2 × 2.5	24~40	凹凸	-	2	-	-	竈	-	自然	土師器 (高台付椀, 皿, 鉢, 甕) 砥石 鎌	10世紀後半	SI-136→本跡→SK-45・46・54
96	L17e5	-	不明	(1.6 × 0.8)	20~34	平坦	-	(1)	-	-	-	-	自然		平安時代	SI-104→本跡
97	K16d9	N-94°-E	長方形	3.5 × 3.1	6~14	平坦	-	-	-	2	竈	-	自然	土師器 (甕)	9世紀	本跡→SI-49, SK-171・172
98	K17i2	N-3°-E	長方形	6.2 × 5.5	26~47	平坦	全周	4	1	-	竈	-	自然	土師器 (坏, 甕) 砥石	7世紀中葉	本跡→SI-121, SK-178・502
99	L18c1	N-17°-W	[方形]	3.5 × [3.5]	18~54	平坦	全周	4	2	-	竈	-	自然	土師器 (坏) 須恵器 (坏, 高台付坏, 蓋, 鉢, 甕, 円面碗) 砥石 薬玉 刀子	8世紀中葉	本跡→SF-1, SK-9
100	L17c8	N-3°-E	長方形	4.0 × 3.2	3~14	凹凸	一部	-	-	1	竈	-	自然	土師器 (坏, 高台付椀, 甕, 甌) 土製紡錘車 磨石	9世紀後葉	本跡→SK-8
101	L17c7	N-5°-W	[方形または長方形]	2.8 × (1.2)	10~16	凹凸	-	-	-	-	-	-	人為		平安時代	SK-219→本跡→SI-103
102	L17d7	N-80°-E	長方形	3.2 × 2.8	6~8	凹凸	-	-	-	-	竈	-	人為	土師器 (高台付椀, 皿, 甕)	11世紀前半	SI-103・133, SK-224・225→本跡

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 (旧→新)
								柱穴	出入口	ピット	炉	貯蔵				
103	L17d7	N-78°-E	長方形	4.2×2.8	10~14	凹凸	-	-	-	-	竈	-	自然	土師器 (坏, 高台付碗, 皿)	10末~11前半	SI-101→本跡→SI-102,SK-224・225
104	L17e4	N-3°-W	[方形または長方形]	4.0×(2.7)	17~23	平坦	-	-	-	1	竈	-	自然	土師器 (高台付碗) 須恵器 (甕) 罎	10世紀後半	本跡→SI-96・132
105	L17d3	N-16°-E	[方形または長方形]	3.4×(1.3)	20~30	平坦	-	-	-	-	竈	-	自然	土師器 (甕) 瓦	9後葉~10前半	
106	L18f3	N-8°-W	[長方形]	3.0×(2.5)	22~51	平坦	-	-	-	-	竈	-	人為	土師器 (高台付碗) 釵具 瓦	10世紀後半	SI-160, SB-18, SK-78→本跡→SK-77
107	L18e3	N-30°-W	[方形または長方形]	3.5×3.2	5	平坦	-	-	-	-	竈	-	自然	土師器 (坏, 甕)	7世紀中葉	SI-109→本跡→SI-110,SB-18,SK-213
108	K15f8	N-3°-W	[方形または長方形]	(1.3×1.3)	8~14	凹凸	-	-	-	-	竈	-	人為	土師器 (高台付碗, 甕) 瓦	9世紀後葉	本跡→SI-15
109	L18f2	N-89°-W	方形	4.6×4.5	14~16	平坦	-	4	-	3	炉	-	自然	土師器 (坏, 高坏, 甕, 甗)	5世紀末	SK-221→本跡→SI-107・110・111,SB-18
110	L18e2	N-2°-E	[長方形]	4.3×(3.3)	28	平坦	-	-	-	2	竈	-	自然	土師器 (坏, 甕) 刀子	10世紀後半	SI-107・109・111, SB-18→本跡
111	L18e1	N-8°-E	[長方形]	(6.5×5.7)	11~40	平坦	一部	3	1	1	竈	-	人為	土師器 (坏, 高坏, 甕) 砥石 石製模造品	6末~7初	SI-109,SK-221→本跡→SI-110,SK-206
112	K16j1	N-90°-E	[方形または長方形]	(2.6×2.4)	4	平坦	-	-	-	-	竈	-	-	瓦	9~10世紀	SI-19, SK-87と重複
113	L17a4	N-3°-E	長方形	6.3×5.5	4~29	凹凸	一部	4	1	-	竈	-	人為	須恵器 (坏, 蓋, 甕) 土製紡錘車	8世紀後葉	SI-114→本跡
114	L17a3	N-5°-E	[方形または長方形]	5.1×(4.4)	28~44	凹凸	一部	2	1	-	竈	-	自然	土師器 (坏, 甕) 須恵器 (高坏) 敲石	8世紀中葉	本跡→SI-113
115	K16j2	N-0°	[方形または長方形]	5.3×(2.6)	69~72	凹凸	-	-	-	1	竈	-	人為	土師器 (高台付碗, 甕) 須恵器 (坏, 壺) 磨石	8末~9前葉	本跡→SI-41
116	K18b2	N-3°-W	[方形または長方形]	3.3×[3.2]	27	凹凸	一部	-	-	-	[竈]	-	自然	須恵器 (坏, 甕) 刀子	9世紀中葉	SI-117→本跡
117	K18c1	N-16°-W	[方形または長方形]	4.0×(1.9)	12	凹凸	-	3	-	-	-	-	人為		平安時代	本跡→SI-116
118	L17b7	N-3°-W	[方形または長方形]	3.7×(2.2)	10~12	凹凸	-	-	-	1	-	-	人為		平安時代	SK-223→本跡→SI-129,SK-64, SF-1
119	K18f3	N-3°-W	[長方形]	[5.8×4.1]	10	凹凸	-	10	-	5	-	-	人為	須恵器 (甕) 砥石	中世	UP-2→本跡
120	L17e5	N-88°-E	[方形または長方形]	3.1×(0.9)	6~10	平坦	-	-	1	-	竈	-	不明	土師器 (碗, 甕)	9世紀	本跡→SI-132・133, SK-68
121	K17h1	N-6°-W	長方形	5.3×4.0	25~45	平坦	-	-	1	1	竈	-	自然	土師器 (高台付碗, 甕) 鏝	9世紀後葉	SI-98, SK-205→本跡→SK-203・204・499
122	L16a8	N-86°-E	長方形	4.1×(2.8)	20	凹凸	-	-	-	1	竈	-	自然	土師器 (甕) 敲石	9世紀	本跡→SK-12
123	L16b9	N-101°-E	[方形または長方形]	(3.3×3.1)	10~21	凹凸	-	-	-	-	竈	(1)	自然		10世紀	本跡→SK-14・40
124	L17b2	N-4°-W	方形	7.0×6.7	16~45	凹凸	一部	4	-	-	竈	-	自然	土師器 (甕) 須恵器 (蓋, 鉢) 砥石 罎	8前葉~中葉	本跡→SI-126
125	L17c2	N-10°-W	長方形	4.0×3.1	38~40	凹凸	一部	-	-	-	竈	-	人為	土師器 (坏, 甕) 須恵器 (高台付坏, 甕)	8世紀前葉	本跡→SI-126
126	L17c3	N-87°-E	長方形	9.3×3.0	19~30	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器 (坏)	9世紀前葉	SI-124・125,SK-38・39→本跡→SK-41
128	L17d1	N-30°-W	[方形または長方形]	(3.3×2.9)	20	平坦	-	1	-	-	竈	-	自然	土師器 (坏, 甕, 甗) 支脚	6世紀中葉	本跡→SK-236
129	L17b6	N-100°-E	方形	3.7×3.7	14~27	凹凸	一部	-	-	-	竈	-	自然	土師器 (高台付碗, 甕) 砥石 鎌 鉄滓	11世紀前半	SI-118・130, SK-10・64・222→本跡
130	L17c5	N-1°-W	[長方形]	3.4×3.1	14	平坦	-	-	-	-	-	-	自然	土師器 (高台付碗) 灰釉 (瓶)	10世紀後半	本跡→SI-129・131, SK-193
131	L17c5	N-8°-W	[方形または長方形]	4.2×(3.5)	18~30	平坦	-	-	-	-	竈	-	自然	土師器 (小皿) 瓦	10末~11初	SI-130, SK-226→本跡→SI-132, SK-37・169・227
132	L17d5	N-86°-E	長方形	4.3×2.8	20~25	平坦	-	-	-	-	竈	-	自然	土師器 (高台付碗) 刀子	11世紀前半	SI-104・120・131・133,SK-32・33→本跡→SK-37
133	L17d6	N-84°-E	[方形または長方形]	3.5×(2.1)	10~15	平坦	-	-	-	-	竈	-	人為	土師器 (坏, 甕)	10世紀後半	SI-120→本跡→SI-102・132, SK-37・68・69
134	K16h3	N-90°-E	[方形または長方形]	(3.4×3.3)	22~25	平坦	-	-	-	-	竈	-	自然	土師器 (坏, 甕) 刀子 瓦	10世紀後半	SI-40,SK-125→本跡
135	K18f1	N-97°-E	長方形	3.1×2.7	8~25	平坦	-	-	-	-	竈	-	自然	土師器 (高台付碗, 甕) 土製紡錘車	10世紀末	SI-87,SK-53・61・62・507→本跡
136	K16i0	N-5°-W	[方形または長方形]	[2.6×2.5]	12~20	平坦	-	-	-	-	竈	-	自然	土師器 (坏)	9世紀後半	SK-131・132→本跡→SI-95, SK-118
137	K16g0	N-4°-E	[方形または長方形]	4.2×(2.6)	19~34	凹凸	-	-	-	-	-	-	人為	土師器 (碗, 高台付碗)	10世紀前半	SB-2→本跡→SI-5, SK-126
138	K16f9	N-84°-W	[方形]	[3.4]×3.3	7~20	平坦	-	-	-	-	竈	-	不明	土師器 (甕)	10世紀	SI-93,SB-2→本跡
139	J16f4	N-3°-W	方形	2.3×2.1	14	平坦	-	-	-	-	竈	-	人為	土師器 (高台付皿, 甕)	10世紀後半	SI-24→本跡
140	K15h0	N-5°-E	長方形	4.4×3.9	24~34	平坦	-	-	-	-	竈	-	人為	須恵器 (坏)	8世紀後葉	本跡→SI-16・17・18,SK-84, 180
142	K16f2	N-90°-E	[長方形]	(3.0)×2.4	17~29	平坦	-	-	-	-	竈	-	自然	土師器 (皿, 甕)	10世紀前半	本跡→SI-45
145	K17f2	N-1°-E	[長方形]	5.0×(4.6)	11~17	平坦	-	1	1	-	-	-	自然	土師器片 須恵器片	9世紀前~中葉	本跡→SI-5・66・67

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設						覆土	主な出土遺物	時期	備考 (旧→新)
								主柱穴	出入口	ピット	炉	竈	貯蔵				
146	K16g4	N-0°	長方形	5.0×3.7	15~25	平坦	-	-	-	-	炉	-	自然	弥生土器 (壺)	弥生後期後半	本跡→SI-39	
147	J16h5	-	不明	-	-	平坦	-	-	-	-	竈	-	不明	土師器片	10世紀		
150	J16h4	N-12°-E	[方形または長方形]	(2.1×1.3)	4	平坦	-	-	-	-	竈	-	不明		10後半以前	SI-30→本跡→SI-28	
151	L18i9	N-22°-W	長方形	2.5×2.1	10	凹凸	一部	-	-	2	-	-	不明	土師器 (碗)	10世紀	SI-169→本跡→SK-26・27	
152	J16j0	N-90°-E	長方形	3.9×3.5	22~36	平坦	-	-	-	2	竈	-	自然	土師器 (高台付椀、蓋) 甕	10末~11初	SI-51・52→本跡→SK-59	
160	L18g4	N-18°-W	長方形	6.5×5.8	5~15	平坦	-	4	1	-	竈	-	不明	土師器 (坏、高坏、甕) 土玉 磨石 砥石	5末~6初	本跡→SI-106,SB-18,SK-77・293・295・301・302	
161	L18h7	N-3°-W	[隅丸長方形]	(4.0×3.8)	10~12	平坦	-	6	-	1	炉	-	自然	弥生土器 (壺) 砥石	弥生後期後半	本跡→SI-167・168	
162	L18f5	N-10°-W	[方形または長方形]	3.4×3.2	15~21	平坦	-	-	1	-	竈	-	自然	土師器 (坏、甕)	7世紀中葉	本跡→SI-163・164	
163	L18e5	N-77°-E	方形	3.5×3.5	12~22	平坦	全周	2	1	-	竈	-	自然	須恵器 (蓋)	8世紀中葉	SI-162→本跡→SI-164	
164	L18f5	N-0°	長方形	6.7×3.2	25~42	平坦	一部	-	1	-	炉2	-	人為	土師器 (坏、高台付椀、皿) 須恵器 (坏、転用碗) 砥石	11世紀初め	SI-162・163・165,SK-292・310→本跡→SK-290	
165	L18h5	N-5°-E	長方形	2.2×1.9	40	凹凸	-	-	-	-	-	-	人為	土師器 (皿)	10世紀末	SI-167→本跡→SI-164	
166	M19c8	N-12°-W	[方形または長方形]	(1.2)×不明	4~8	平坦	-	1	-	-	竈	-	不明	須恵器 (坏)	8世紀中葉	SI-202→本跡	
167	L18h5	N-13°-W	[方形または長方形]	(7.6×4.8)	35~50	平坦	一部	1	-	-	竈	-	人為	土師器 (坏、高坏、甕)	5末~6初	SI-161→本跡→SI-165,SK-300	
168	L18i8	N-5°-W	[方形または長方形]	(5.5×0.8)	7~20	平坦	-	1	-	-	竈	-	自然	土師器 (坏)	6世紀後葉	SI-161→本跡→SD-12,SK-296	
169	L18i9	N-21°-W	[隅丸長方形]	4.8×(3.8)	12	平坦	-	3	-	8	炉	-	自然	弥生土器 (壺)	弥生後期後半	本跡→SI-151・170,SK-26・27	
170	L18h0	N-41°-W	長方形	4.3×3.8	15~30	平坦	全周	4	-	9	炉	1	自然	土師器 (坏、椀、高坏、甕、甗、ミニチュア) 砥石	5世紀後葉	SI-169→本跡→SI-173	
171	L18g9	N-86°-E	方形	4.1×3.9	15~20	平坦	全周	2	1	3	竈	-	人為	土師器 (甕) 刀子	8世紀後葉	本跡→SK-291	
172	L18f0	N-3°-W	方形	4.8×4.8	20~30	平坦	全周	4	1	1	竈	1	人為	土師器 (坏、埴、甕)	5世紀後半	本跡→SK-303	
173	L19h1	N-12°-W	長方形	4.7×3.8	20~32	平坦	全周	4	-	1	竈	-	自然	土師器 (坏、甕、壺) 窯壁 椀状滓	8世紀後半	SI-170・174,SK-493→本跡→SK-498	
174	L19h1	N-20°-W	[方形または長方形]	(4.2×2.2)	18~22	平坦	一部	3	-	5	-	-	自然	土師器 (坏)	6世紀後葉	本跡→SI-173,SK-498	
175	L18j0	N-15°-W	[方形または長方形]	(4.5×4.0)	10~40	平坦	-	-	-	-	竈	-	自然	土師器 (甕)	6世紀後葉		
176	L19i2	N-40°-W	方形	4.6×4.5	10~25	平坦	一部	4	-	1	竈	1	自然	土師器 (坏) 土製支脚	6世紀中葉	SI-178,SK-446→本跡→SB-16	
178	L19i1	N-50°-W	長方形	4.3×3.6	16~23	平坦	一部	2	-	1	-	-	自然	土師器 (甕)	5世紀中葉	本跡→SI-176,SK-306	
183	L19e2	N-0°	[方形または長方形]	(3.8×2.5)	22	平坦	全周	-	-	2	竈	-	不明		7世紀後半	SI-185→本跡→SK-445・454・456	
184	L19g3	N-18°-W	[方形]	(7.1×7.0)	14~30	平坦	一部	4	2	6	-	-	人為	土師器 (椀、埴、甕、高坏、壺、ミニチュア) 砥石 石製模造品	5世紀中葉	本跡→SI-186・188,SK-309・331・348・391・393・429,UP3	
185	L19f2	N-6°-W	[方形または長方形]	4.5×(3.5)	5~19	平坦	一部	2	-	-	竈	-	人為	土師器 (坏、椀、ミニチュア) 石製錘	7世紀中葉	本跡→SI-183・186,SK-307・315・456	
186	L19f3	N-2°-E	[方形または長方形]	(4.6×2.5)	17~30	平坦	一部	3	-	1	-	-	人為	土師器 (転用碗) 須恵器 (甕、甗) 埴輪 砥石 椀状滓	8世紀前半	SI-184・185,SK-315→本跡→SI-188,SK-305他	
188	L19g4	N-8°-E	方形	4.8×4.8	10~28	凹凸	全周	4	2	4	竈	-	自然	土師器 (高台付椀) 須恵器 (坏) 埴	8世紀後葉	SI-184・186→本跡→SK-356	
190	L19h4	N-29°-W	[方形または長方形]	(3.7×1.5)	5~13	平坦	-	3	-	4	-	-	不明	土師器 (高台付椀) 砥石	10世紀末		
191	M19a9	N-0°	[方形または長方形]	(2.9×1.1)	11	平坦	-	-	-	-	-	-	自然	土師器片 須恵器片	平安時代	本跡→UP-5	
192	M19a2	N-14°-E	[方形または長方形]	(1.8×1.6)	38	平坦	-	-	-	-	-	-	不明	土師器 (椀、高坏)	5末~6初	本跡→SI-193,SB-16	
193	M19a3	N-7°-E	[方形または長方形]	(3.7×3.5)	28~38	凹凸	-	-	-	-	-	-	人為	土師器 (高台付椀)	10世紀後半	SI-192・198→本跡→SB-16	
195	L19j3	N-0°	[長方形]	(3.4)×2.5	7~18	平坦	-	-	-	-	竈	-	不明	土師器 (甕) 鉄滓	10世紀前半	本跡→SB-16	
196	L19h6	N-5°-W	[方形または長方形]	5.1×(2.0)	9~19	平坦	-	-	-	-	[炉]	-	人為	土師器 (高台付椀)	11世紀初め		
197	M19c6	N-42°-W	[方形または長方形]	(3.3×1.6)	20	不明	-	2	-	-	竈	-	不明	土師器 (坏、椀、甕)	6世紀後葉	SI-200→本跡	
198	M19b4	N-22°-W	[方形または長方形]	(4.6)×不明	10~14	不明	-	-	-	3	竈	-	不明	土師器 (甗)	6世紀後半	SK-410→本跡→SI-193・199,SK-403・409	
199	M19a5	N-0°	[方形または長方形]	(2.6×1.3)	6~14	平坦	-	1	3	-	[竈]	-	不明	土師器 (甕) 瓦	10世紀前半	SI-198→本跡→SK-442	
200	M19a6	N-5°-E	[方形]	5.6×(5.2)	14~21	平坦	-	4	-	-	炉	-	自然	土師器 (高坏、甕、甗)	5世紀後半	本跡→SI-197,SK-402・408・411・435・438	
201	L19j6	N-20°-W	長方形	3.5×3.0	12~24	平坦	-	-	-	-	竈	-	自然	土師器 (高坏、甕、甗)	6世紀後葉		
202	M19c7	-	不明	-	-	平坦	-	-	-	3	-	-	不明	弥生土器 (高坏、壺) 土製紡錘車 砥石	弥生後期後半	本跡→SI-166,SK-491	

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 (旧→新)
								主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵				
204	L19j9	N-4°-W	[方形または長方形]	(4.7×2.6)	15	平坦	-	-	-	-	-	自然	土師器片	10世紀	本跡→SB-17, SK-416・504	
205	L19i0	N-2°-W	方形	3.4×3.1	22	凹凸	一部	-	-	-	竈	自然	羽口 磁石	9世紀		
206	L19g8	N-7°-W	長方形	3.9×3.1	8~10	凹凸	-	-	-	-	竈	自然	羽口 腕状滓	9世紀		
207	L20f3	N-6°-W	方形	4.5×4.4	2~16	不明	-	-	-	[炉]	-	不明	土師器 (高坏, 甕, 壺) 羽口	5世紀後半		
210	M19d0	N-5°-W	長方形	4.5×2.5	20	平坦	-	-	-	1 炉 2	-	人為	土師器 (ミニチュア) 須惠器 (壺) 石製模造品	7世紀	本跡→SK-452	
211	L20h4	N-50°-W	[方形]	(3.7×3.6)	10~20	凹凸	-	-	-	-	-	自然		古墳中~後期	本跡→SD-17	
212	L20g5	N-0°	[方形または長方形]	(2.6×2.1)	5~11	平坦	-	-	-	-	-	不明	土師器 (坏) 磨石 石製勾玉	古墳後期		
213	L20i6	N-6°-W	方形	3.6×3.5	-	平坦	-	2	1	5	竈	不明	土師器片 須惠器片	10世紀		
214	M20a8	N-7°-E	長方形	4.6×3.3	26	平坦	一部	4	1	4	竈	人為	土師器 (高坏) 土錘 鏝	5世紀後葉	本跡→SE-1・2	
215	J15b3	N-26°-W	方形	4.9×4.9	21~36	平坦	全周	4	-	-	竈 (1)	人為	土師器 (坏, 碗, 甕, ミニチュア)	7世紀前半		
216	J15c2	N-0°	[方形または長方形]	3.2×(1.5)	15~26	平坦	一部	-	-	-	竈	人為	土師器 (高台付碗, 甕)	10世紀後半		
217	J15b2	N-83°-E	[長方形]	(3.3)×2.9	18~24	凹凸	-	-	-	4	竈	自然	土師器 (鉢, 甕)	10世紀後半		
218	J15a2	N-115°-E	長方形	3.2×2.6	14~26	平坦	-	2	-	-	竈	自然	土師器片 須惠器片	10世紀		
219	I15h2	N-6°-W	[方形または長方形]	3.6×(2.8)	4~10	凹凸	-	-	-	-	竈	自然	土師器 (坏, 甕)	9世紀後半	本跡→SK-422	

表3 方形竪穴状遺構一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 (旧→新)
								主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵				
1	L19f6	N-3°-W	[方形または長方形]	3.5×(1.9)	-	不明	-	-	1	-	-	-	-		不明	

表4 掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	規模 (長さの単位はすべてm)					構造	柱 穴 (長さの単位はすべてcm)					時代	備考 (旧→新)			
			桁行 (平均)	桁行柱間	梁行 (平均)	梁行柱間	面積 (m <sup>2</sup> )		本数	平面形	長径(軸)	短径(軸)	深さ			柱寸法		
1	J15j8	N-8°-W	4	7.45	1.72~1.92	(1)	(2.24)	(2.16~2.24)	(16.69)	側柱	(7)	円形	39~49	36~37	16~28	-	中世	
2	K16f0	N-7°-W	3	5.36	1.69~1.95	2	3.68	1.67~2.00	19.72	総柱	12	隅丸長方形, 隅丸方形	88~137	74~118	36~74	20~30	8世紀	本跡→SI-5・66・137・138, SK-66
3	K17e6	N-0°	2	3.10	1.30~1.80	2	3.10	1.36~1.80	9.61	側柱	15	円形, 楕円形	30~73	34~62	21~72	15~30	8世紀	SI-69→本跡
4	K17c2	N-5°-W	3	6.90	2.00~2.54	2	4.82	2.00~2.69	33.26	側柱	10	楕円形, 隅丸方形	130~178	112~160	32~74	-	8世紀	本跡→SB-5, SD-3, SK-146・147・183・267, SK-149と重複
5	K17c2	N-87°-E	2	4.77	2.00~2.50	2	4.60	2.07~2.42	21.94	側柱	8	円形, 楕円形	39~105	34~81	46~96	18~25	8世紀	SB-4→本跡→SD-3, SK-146・147・183, SK-149と重複
6	K17g6	N-87°-W	2	5.02	2.20~2.85	2	4.60	2.03~2.35	23.09	側柱	6	円形, 楕円形	78~126	61~124	26~58	14~26	8後葉~9前葉	本跡→SI-92, SB-8・12・14と重複
7	J17j5	N-83°-E	4	6.90	1.23~1.95	2	3.85	1.75~2.09	26.57	側柱	12	円形, 楕円形	63~121	51~81	29~81	10~20	9世紀後半	SI-61, SK-160・161→本跡→SK-73
8	K17g6	N-82°-W	5	10.52	1.94~2.44	2	5.20	2.28~2.70	54.70	側柱	14	正方形, 長方形	104~140	84~124	123~144	20~40	8世紀	本跡→SI-80・92, SB-12・14, SB-6, SA-3と重複
9	K17c7	N-88°-W	(6)	(13.14)	2.00~2.40	2	4.50	2.20~2.30	(59.15)	側柱	(14)	隅丸長方形, 楕円形	98~149	84~136	45~91	20~22	8世紀前葉	SI-84→本跡→SI-44, SB-10, SD-3
10	K17c7	N-81°-E	3	8.58	2.76~3.00	2	5.28	2.50~2.60	(45.30)	側柱	(9)	楕円形, 隅丸方形	74~132	61~119	51~144	11~22	8中~後葉	SI-78・84, SB-9→本跡→SI-44, SD-3
11	J16j1	N-7°-W	3	4.71	1.48~1.91	2	3.81	1.79~2.02	17.95	総柱	12	楕円形, 隅丸方形	72~120	60~86	41~85	15~20	8世紀	SI-52→本跡→SI-54, SK-278と重複
12	K17f7	N-90°-E	3	6.48	2.00~2.18	2	4.46	2.22~2.62	28.90	側柱	10	方形, 長方形	132~162	128~142	58~88	30	9前葉以前	SB-8・14→本跡→SI-80・92, SB-6, SA-3と重複
13	J17f4	N-88°-E	3	5.67	1.45~2.42	(2)	3.02	1.32~1.70	(17.12)	総柱	(8)	円形, 楕円形	45~75	40~71	9~49	12~22	9中葉以前	SK-156・157・173→本跡→SI-55・56
14	K17f8	N-7°-W	3	7.44	2.34~2.70	2	3.94	1.85~2.08	29.31	側柱	10	隅丸長方形, 楕円形	90~130	90~100	10~50	18	8世紀	SB-8→本跡→SI-80, SB-12, SB-6, SA-2と重複
15	L18c5	N-87°-E	(7)	15.20	2.00~2.40	2	4.80	2.50~2.40	(71.44)	側柱	(19)	隅丸長方形, 隅丸方形	68~80	50~80	42~92	13~35	8世紀	SK-430→本跡

番号	位置	桁行方向	規模 (長さの単位はすべてm)						面積 (m <sup>2</sup> )	構造	柱 穴 (長さの単位はすべてcm)					時代	備考 (旧→新)	
			桁行(平均)	桁行柱間	梁行(平均)	梁行柱間	本数	平面形			長径(軸)	短径(軸)	深さ	柱寸法				
16	L19j3	N-6°-E	3	5.80	1.60~2.10	2	4.06	1.80~2.30	23.55	総柱	12	隅丸方形, 楕円形	121~180	94~145	41~100	11~28	10末~11世紀	SI-176・192・193・194・195→本跡
17	L19i8	N-8°-E	3	7.46	2.10~2.70	2	5.88	2.90~2.96	43.86	側柱	10	隅丸長方形, 楕円形	84~102	82~94	36~68	20	10末~11世紀	SI-204, SK-418・485→本跡
18	K18f2	N-12°-E	2	4.80	2.10~2.51	2	3.26	2.31~2.40	(32.71)	側柱	(6)	長方形, 隅丸長方形	74~110	50~100	34~90	24~28	8~9世紀	SI-107・109・160→本跡→SI-106・110, SK-77
19	M19a8	N-8°-E	3	7.16	2.34~2.40	1	2.98	2.98~	(21.33)	側柱	(5)	楕円形, 隅丸方形	94~107	82~98	26~64	-	10末~11世紀	

表5 地下式竈一覧表

番号	位置	方向	規模						覆土	出土遺物	時代	備考 (旧→新)
			竈		主室		平面形	深さ(cm)				
			長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)	長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)						
1	K18c3	N-9°-E	2.14×1.94	44・64	長方形	3.01×2.50	124	隅丸方形	崩落	土師質土器(内耳鍋) 磨石	中世	
2	K18f3	N-5°-E	1.36×0.96	14	楕円形	2.88×1.14	40	長方形	崩落	土師器片 須恵器片	中世	本跡→SI-119
3	L19h4	N-5°-E	0.94×0.65	34	楕円形	2.90×1.65	88	長方形	自然	土師質土器(播鉢) 管状土錘 砥石	中世	SI-184→本跡 SK-429と重複
4	L19j0	N-74°-W	1.12×0.9	62	長方形	1.95×1.29	106	長方形	崩落	土師器片	中世	本跡→段切り遺構
5	M19a9	N-87°-W	1.31×0.62	69	台形	4.01×2.60	128	楕円形	崩落	土師器片 須恵器片 瓦	中世	SI-191, UP-6→本跡→段切り遺構
6	M19a0	N-47°-W	1.20×0.74	44	長楕円形	2.22×1.66	48	楕円形	自然	土師器片 須恵器片	中世	本跡→UP-5, SA-4, 段切り遺構 Pg.3と重複
7	K18d4	N-9°-E	-	-	-	3.20×1.80	87	長方形	崩落	土師器片 須恵器片 陶器片 瓦	中世	
8	M19b9	N-10°-E	-	-	-	3.10×2.47	50	隅丸長方形	自然		中世	本跡→段切り遺構

表6 火葬施設一覧表

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m)		深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (旧→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ(cm)						
1	L20j5	N-81°-E	(隅丸長方形)	(1.4×0.5)	20	緩斜	平坦	人為			本跡→SK-355 中世~
2	M20b6	N-29°-E	[T字形]	[1.2×1.0]	54	外傾	平坦	人為	古銭(祥符元寶)		SK-384→本跡 Pg.1と重複 中世

表7 墓壙一覧表

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m)		深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (旧→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ(cm)						
1	J15d7	N-0°	隅丸長方形	1.3×1.2	84	垂直	平坦	人為	古銭(寛永通宝) 釘人骨		江戸時代 (17世紀~)

表8 溝跡一覧表

番号	位置	方向	断面形	規模				壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時代	備考 (旧→新)
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)						
1	J15a8~K15b4	N-0°	U字形	45.90	55~88	37~64	14~20	外傾	皿状	自然	旧石器(尖頭器)	中近世	SI-2・3・7・11,
2	K15d9~K15i8	N-4°-W	逆台形	19.30	84~121	60~94	28~32	外傾	平坦	自然	土師器片 須恵器片	中近世	SI-16→本跡
3	K16c0~K17c7	N-86°-W N-81°-E	逆台形	34.40	55~120	35~97	24~32	外傾	平坦	自然	土師器片 須恵器片	平安時代	SI-63・70~72, SB-4・5・9・10, SK-284→本跡
4	J16e7~J16a9	N-5°-W N-11°-W	逆台形	27.90	46~71	16~58	8~20	外傾	平坦	自然	土師器片 須恵器片 砥石 磨石	平安時代	SI-43A→本跡
5	K16d2~K16b7	N-85°-E	U字形	23.70	46~71	20.00	20.00	外傾	皿状	自然	土師器片 鉄滓	中近世	SI-36→本跡
6	K15e0~K16d4	N-79°-E	逆台形	17.00	50~80	39~63	20.00	外傾	平坦	自然	土師器片	中近世	

番号	位置	方向	断面形	規模				壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時代	備考 (旧→新)
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)						
12	L17b7~L18b5	N-5°-W	U字形	17.70	44~94	12~48	14~39	外傾	皿状	人為	土師器片	中近世	SI-168→本跡
13	I14f1~I15i1	N-5°-W	U字形	12.70	64~96	20~52	48~52	外傾	皿状	人為		中近世	SD-18→本跡
14	I14e8~I14h8	N-7°-W	U字形	11.10	66~104	18~50	24~32	外傾	皿状	人為	土師器片 須 惠器片	中近世	
15	I14e7~I14h8	N-7°-W	逆台形	11.30	102~124	22~36	46~50	外傾	平坦	人為	土師器片 須 陶器片 須 惠器片 鉄滓	中近世	SD-16→本跡
16	I14e7~I14h8	N-10°-W	逆台形	9.70	36~84	21~74	5~9	外傾	平坦	人為	土師器片 須 惠器片 鉄器	中近世	本跡→SD-15
17	L20h5~L20h7	N-85°-E	逆台形	(7.40)	124~144	40~48	14~20	外傾	平坦	自然		不明	SI-211→本跡→ SK-313・467
18	I14i0~I15i1	N-84°-E	逆台形	5.80	56~74	24~54	12	垂直	平坦	人為	土師器片	中近世	本跡→SD-13

表9 井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	形態	規模			壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時代	備考 (旧→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)	平面形						
1	M20a9	N-5°-W	円筒形	2.16×1.84	(78)	楕円形	外傾	-	人為	土師器片 須 惠器片 瓦片	13世紀	SI-214→本跡
2	L20j8	N-46°-W	円筒形	2.23×1.85	(82)	楕円形	外傾	-	人為	須惠器(壺) 常滑	13世紀	SI-214→本跡
3	L20i7	N-58°-E	円筒形	1.17×1.10	(90)	円形	外傾	-	人為		13世紀	

表10 柵跡一覧表

番号	位置	方向	規模				柱穴				時代	備考 (旧→新)
			長さ(m)	間	柱間(m)	本数	平面形	長径(m)	短径(m)	深さ(cm)		
1	K17b9	N-87°-W	4.4	2	2.0~2.3	3	長方形 または 隅丸長方形	1.16~1.62	0.90~1.18	68~72	平安時代	本跡→SI-78・82
2	K17g9	N-2°-W N-83°-E N-4°-E	12.6	6	1.7~2.9	7	円形または 楕円形	0.32~0.52	0.32~0.50	14~32	平安時代	SB-8・14と重複
3	K17h6	N-6°-W N-89°-E	8.5	4	0.3~2.5	6	楕円形 または 隅丸長方形	0.38~0.54	0.28~0.54	18~54	平安時代	SB-8・12と重複
4	L19j0	N-2°-W N-86°-E	14.2	5	1.4~3.8	6	円形	0.28~0.54	0.28~0.48	10~92	中世~	UP-6→本跡
5	L20j5	N-7°-E	3.3	2	1.3~1.9	3	楕円形	0.28~0.42	0.22~0.32	24~36	中世	
6	M20a5	N-2°-E	8.1	4	1.6~2.7	5	円形または 楕円形	0.34~0.58	0.24~0.36	8~54	中世~	SK-404と重複
7	M20a5	N-2°-E	4.4	4	1.4~1.9	5	円形	0.22~0.38	0.20~0.38	8~52	中世~	SK-404と重複
8	I15i3	N-90°-E	4.0	2	1.9~2.1	3	円形	0.40~0.44	-	36~50	不明	

表11 道路跡一覧表

番号	位置	方向	断面形	規模				壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時代	備考 (旧→新)
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)						
1	L17b7~L18b5	N-86°-E	U字形	36.80	80~290	20~110	12~17	外傾	平坦	人為	土師器(皿) 須 惠器(壺, 蓋) 瓦 羽口	中世~	SI-99・118→本跡

表12 段切り遺構一覧表

番号	位置	方向	規模			壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時代	備考 (旧→新)
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)						
1	L19i0~M19e0	N-10°-E	20.80	5.60	34~52	外傾	平坦	自然	常滑 銅製品(鏡) 古銭(開元通寶)	中世	SI-205, UP-4~6・8, SK-461→本跡

表13 土坑一覽表

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (旧→新)
				長径(軸)×短径(軸)						
1	J15g7	N-15°-E	円形	0.82×0.79	13	垂直	平坦	不明	陶器片	
2	J15g8	N-18°-E	円形	1.18×1.11	45	垂直	平坦	人為	土師器片 須恵器片	
3	J15h9	N-60°-W	円形	0.87×0.82	30	外傾	凹凸	人為		
4	J15h7	N-70°-W	[円形]	[1.25]×1.21	59	垂直	平坦	自然		
5	J15c9	N-37°-E	[円形]	[1.06]×0.97	18	外傾	凹凸	不明		SI-2→本跡→SD-1
6	J15g8	N-70°-E	円形	1.05×1.12	61	外傾	平坦	自然		本跡→SD-1
7	J15g8	N-90°-E	[円形]	[1.05]×0.94	45	垂直	平坦	自然		本跡→SD-1
8	L17c7	N-80°-E	楕円形	1.42×1.09	16	外傾	平坦	人為		SI-100→本跡
9	L18b1	N-67°-E	隅丸長方形	1.50×1.12	17	緩斜	平坦	自然	須恵器(坏)	SI-99→本跡
10	L17b6	N-90°-E	楕円形	0.78×0.70	65	外傾	平坦	不明		本跡→SK-129
11	L16a6	N-72°-E	不整楕円形	[1.82]×[0.69]	36	外傾	皿状	不明		
12	L16a9	N-1°-W	不整楕円形	(1.12)×1.12	34	外傾	平坦	不明	土師器片 須恵器片	SI-122→本跡
13	J17i3	N-0°	楕円形	0.56×0.50	30	外傾	皿状	不明		SI-55と重複
14	L16b9	N-48°-W	円形	1.23×1.18	33	垂直	平坦	不明	土師器片 須恵器片	SI-123→本跡
19	J17g2	N-4°-W	[楕円形]	(1.37)×1.12	36	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片	
20	J17g1	N-39°-W	[楕円形]	1.80×1.26	50	外傾	平坦	不明	土師器片	
22	J16f9	N-25°-E	[円形]	1.32×(0.72)	36	外傾	凹凸	不明		
23	J16f9	N-23°-W	楕円形	0.76×0.65	18	緩斜	皿状	不明		SI-50→本跡
24	J17j6	N-90°-E	楕円形	1.48×1.30	155	外傾	皿状	自然		SK-164と重複
25	J17j6	N-78°-E	楕円形	2.21×1.40	52	緩斜	凹凸	自然		
26	L18i9	N-13°-E	楕円形	0.68×0.50	16	外傾	平坦	不明		SI-151・169→本跡
27	L18i0	N-82°-W	楕円形	0.86×0.54	48	外傾	平坦	不明		SI-151・169→本跡
28	K16e8	N-86°-W	長方形	6.62×0.38	25	緩斜	平坦	不明		SI-49と重複
29	K16d8	N-17°-E	長方形	0.63×0.43	27	緩斜	平坦	不明		SI-49と重複
30	J15i9	N-3°-E	不整楕円形	1.10×0.90	64	外傾	平坦	自然	土師器片 須恵器片	SI-7→本跡
32	L17e5	N-85°-E	長方形	1.00×0.56	47	外傾	平坦	人為		本跡→SI-132
33	L17e5	N-8°-W	長方形	0.74×0.55	26	外傾	平坦	自然		本跡→SI-132
34	K17h4	N-0°	隅丸長方形	0.74×0.70	15	外傾	皿状	不明		SI-91→本跡
35	K17g4	N-90°-E	[円形]	(0.79)×(0.75)	28	外傾	平坦	不明		本跡→SI-91
36	K17g5	N-0°	楕円形	1.07×0.97	17	外傾	平坦	人為		SI-91→本跡
37	L17d6	N-10°-E	円形	0.98×0.98	66	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片	SI-131・132・133→本跡
38	L17b3	N-78°-W	不定形	1.68×1.58	38	緩斜	皿状	不明		本跡→SI-126, SK-41と重複
39	L17b3	N-48°-W	楕円形	0.92×0.82	32	緩斜	皿状	不明		本跡→SI-126
40	L16a9	N-32°-W	円形	0.75×0.70	30	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片	SI-123→本跡
41	L17b4	N-65°-E	不定形	0.54×0.48	4	緩斜	平坦	不明		SI-126→本跡, SK-38と重複
42	L16b6	N-86°-E	円形	0.74×0.70	27	外傾	平坦	人為	土師器片	SI-94→本跡
44	L16b6	N-82°-E	長方形	1.10×0.82	59	外傾	平坦	人為	土師器片	本跡→SI-94
45	K16i0	N-90°-E	隅丸長方形	1.09×0.85	32	外傾	平坦	人為		SI-95→本跡
46	K16i0	N-90°-E	不整長方形	1.11×0.89	51	外傾	凹凸	不明		SI-95→本跡
47	K16b3	N-65°-W	楕円形	1.86×1.60	74	垂直	平坦	人為	土師器片 須恵器片	SI-36→本跡
49	J16f8	N-85°-E	円形	1.22×1.11	18	外傾	凹凸	不明		
50	K17a9	N-13°-E	不定形	0.96×0.77	85	外傾	平坦	不明	土師器片	SI-76→本跡
51	J16h2	N-53°-E	円形	1.12×1.03	39	外傾	平坦	人為	土師器片	
52	K16a6	N-0°	円形	1.62×1.52	34	外傾	平坦	人為	土師器片	
53	K18f1	N-20°-W	楕円形	0.68×0.60	40	垂直	平坦	人為	土師器片	本跡→SI-135

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (旧→新)
				長径(軸)×短径(軸)						
54	K16j0	N-0°	[円形]	[0.84] × 0.84	27	外傾	皿状	不明		SI-95→本跡
55	K17e8	N-75°-W	楕円形	0.87 × 0.71	62	外傾	平坦	人為		SI-80, SK-115→本跡
56	K17e7	N-20°-E	楕円形	0.80 × 0.91	60	外傾	平坦	人為		SI-80→本跡
58	J16h2	N-11°-E	楕円形	0.62 × 0.55	13	外傾	平坦	人為		SI-29→本跡
59	J16j0	N-0°	楕円形	0.86 × 0.66	18	外傾	平坦	不明	土師器片	SI-152→本跡
60	K17g0	N-20°-W	[長方形]	(1.32) × 0.53	80	垂直	平坦	自然		本跡→SI-88 縄文時代(陥し穴)
61	K18f1	N-30°-E	円形	0.56 × 0.53	40	外傾	平坦	人為	土師器(坏)	本跡→SI-135 8世紀前葉
62	K18f1	N-40°-W	円形	0.60 × 0.55	40	外傾	平坦	人為		本跡→SI-135
64	L17b6	N-10°-W	不定形	1.05 × 0.83	40	外傾	皿状	人為	土師器片	SI-118→本跡→SI-129
66	K16f0	N-0°	円形	0.57 × (0.56)	29	外傾	平坦	不明		SB-2→本跡→SI-66
68	L17e6	N-86°-W	円形	0.71 × 0.64	42	外傾	皿状	自然	土師器片 須恵器片	SI-120・122・133→本跡
69	L17c6	N-87°-W	円形	0.67 × 0.63	30	外傾	皿状	自然	土師器片 須恵器片	SI-133→本跡
72	K17f1	N-86°-E	長方形	1.53 × 0.95	40	外傾	平坦	人為	土師器(高台付椀)	SI-66→本跡 11世紀
73	J17j4	N-5°-W	隅丸長方形	1.38 × 1.06	23	緩斜	平坦	人為	土師器(高台付椀)	SI-61, SB-7→本跡 9後葉~10前半
77	L18f3	N-0°	隅丸方形	0.51 × 0.50	59	外傾	平坦	自然		SI-106・160, SB-18→本跡
78	L18f2	N-7°-W	長方形	1.64 × 1.06	120	垂直	平坦	自然		本跡→SI-106 縄文時代(陥し穴)
79	K17h0	N-0°	円形	0.80 × 0.75	61	外傾	平坦	人為		SI-89→本跡
80	K17g0	N-25°-E	楕円形	1.42 × 1.09	36	外傾	平坦	不明	土師器片 須恵器片	SI-89→本跡→SI-88
81	K15e0	N-90°-E	楕円形	1.10 × 0.87	24	緩斜	平坦	不明		SI-14→本跡
82	K16h1	N-87°-E	円形	1.50 × 1.40	88	外傾	皿状	人為	土師器片 須恵器片	
83	K16g1	N-90°-E	円形	1.25 × 1.15	25	外傾	平坦	人為		
84	K15h9	N-0°	楕円形	1.26 × 0.97	32	外傾	皿状	自然		SI-18・140→本跡
85	K15i0	N-62°-W	円形	1.14 × 1.09	27	緩斜	平坦	不明	土師器片 須恵器片	
86	K16i2	N-10°-E	円形	1.34 × 1.27	28	緩斜	皿状	人為	土師器片	
87	K16j1	N-4°-W	不整楕円形	0.82 × 0.70	45	垂直	平坦	人為	土師器片	SI-112と重複
88	K16j1	N-0°	円形	1.05 × 1.05	39	垂直	平坦	不明	土師器片 須恵器片	
89	K16i1	N-0°	円形	0.70 × 0.70	15	緩斜	凹凸	人為		
90	K16g1	N-50°-W	楕円形	1.46 × 1.03	46	外傾	平坦	人為		SK-91と重複
91	K16g1	N-20°-E	[楕円形]	1.60 × (0.78)	30	垂直	平坦	人為	須恵器片	SK-90と重複
92	K16f1	N-90°-E	楕円形	0.80 × 0.70	22	緩斜	平坦	人為	土師器片 土師質土器片	
93	K16f4	N-65°-W	円形	1.05 × 1.00	38	緩斜	皿状	人為	土師器片 須恵器片	SI-38→本跡
94	K15f0	N-60°-E	楕円形	0.70 × 0.58	55	外傾	凹凸	人為		SI-14→本跡
95	K16f1	N-2°-W	楕円形	0.45 × 0.40	32	外傾	皿状	人為	須恵器(高台付坏)	9世紀前葉
96	K16g2	N-30°-E	楕円形	1.96 × 1.44	100	外傾	皿状	人為	土師器(坏・高台付坏)	SK-97→本跡 11世紀前葉
97	K16g2	N-0°	[隅丸長方形]	[1.95] × [1.80]	41	外傾	平坦	人為	須恵器(蓋「新大領」)	本跡→SK-96 8世紀中葉
99	K16g2	N-36°-W	方形	1.54 × 1.49	95	外傾	平坦	人為	土師器(坏)	10世紀末~11世紀前半
100	J15b7	N-80°-E	楕円形	1.24 × 0.90	85	外傾	平坦	自然		縄文時代(陥し穴)
101	J15a8	N-48°-E	楕円形	1.30 × 1.20	95	外傾	平坦	自然		縄文時代(陥し穴)
102	J15b7	N-30°-W	楕円形	1.22 × 1.05	31	緩斜	皿状	人為		
103	K15f0	N-60°-W	円形	0.51 × 0.49	21	外傾	平坦	不明		SI-14→本跡
104	J15g9	N-22°-W	円形	1.12 × 1.08	54	垂直	平坦	人為		
105	J15g9	N-48°-W	楕円形	1.17 × 1.03	40	垂直	平坦	人為	須恵器(盤, 高盤)	9世紀前葉
106	J16g1	N-0°	円形	1.14 × 1.04	39	垂直	平坦	人為		
107	J16g1	N-0°	円形	0.94 × 0.91	24	垂直	平坦	人為		
108	K15a0	N-52°-W	不明	(0.92) × (0.23)	20.2	外傾	平坦	不明		SI-9と重複

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m)		深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (旧→新)
				長径(軸)×短径(軸)							
110	K15b9	N-70°-W	円形	0.96 × 0.92		20	外傾	平坦	人為	須恵器片	SI-10→本跡
111	J16c1	N-78°-W	長楕円形	2.53 × 1.36		120	外傾	平坦	自然		縄文時代(陥し穴)
112	K15b0	N-63°-W	円形	1.06 × 1.00		16	外傾	平坦	人為	土師器片	SI-10→本跡
113	K16f3	N-4°-W	楕円形	0.96 × 0.82		32	外傾	平坦	不明		SI-38→本跡
114	K16j1	N-5°-W	円形	0.46 × 0.44		35	垂直	皿状	人為		
115	K17e8	N-7°-E	楕円形	0.90 × 0.76		20	垂直	平坦	不明		SI-80→本跡→SK-55
116	K15c9	N-78°-E	楕円形	0.73 × 0.66		27	外傾	平坦	自然		SI-11→本跡
117	K15c9	N-6°-W	楕円形	0.69 × 0.51		32	外傾	平坦	人為	土師器片	SI-11→本跡
118	K16i0	N-2°-W	[長方形]	1.06 × (0.65)		42	垂直	平坦	不明	土師器片 須恵器片	SI-136→本跡, SK-132と重複
119	K16i7	N-29°-W	楕円形	3.73 × 2.68		20	垂直	平坦	人為	土師器片 須恵器片 尖頭器	
120	K16i4	N-0°	方形	1.12 × 1.07		55	垂直	凹凸	人為	土師器片 須恵器片	
121	J15a0	N-49°-W	不整楕円形	2.14 × 1.58		44	外傾	平坦	人為		SK-127と重複
122	K16e7	N-0°	[円形]	[0.92] × 0.91		50	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片	SI-47→本跡
123	K16d7	N-80°-E	隅丸長方形	1.19 × 0.75		60	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片	SI-47→本跡
124	K16h3	N-0°	楕円形	1.50 × 1.10		48	外傾	平坦	不明	土師器片 須恵器片	SI-40→本跡
125	K16h3	N-19°-W	楕円形	1.09 × 0.98		60	外傾	平坦	不明	土師器片 須恵器片	本跡→SI-134
126	K16g0	N-90°-E	不整楕円形	0.98 × 0.83		56	外傾	皿状	人為	土師器(高台付椀)	SI-137→本跡 10世紀後半
127	J15b0	N-49°-W	不定形	0.85 × 0.31		45	垂直	皿状	不明		SK-121と重複
129	K16i2	N-2°-W	長方形	3.37 × 1.88		59	外傾	平坦	不明	土師器片 須恵器片	SI-40→本跡
131	K16i0	N-8°-W	長方形	0.92 × 0.78		38	垂直	平坦	人為		本跡→SI-136
132	K16i0	N-27°-W	方形	0.98 × 0.95		38	垂直	平坦	人為	土師器(坏)	本跡→SI-136, SK-118と重複 9世紀後半
140	J16g4	N-53°-W	楕円形	1.26 × 1.11		68	外傾	平坦	不明		本跡→SI-27
141	K16a6	N-75°-E	不整楕円形	1.08 × 0.92		30	外傾	平坦	不明	土師器片 須恵器片	
142	K16j2	N-0°	円形	0.85 × 0.85		51	緩斜	平坦	不明	土師器(坏)	SI-41→本跡 10世紀後半
146	K17c1	N-13°-E	隅丸長方形	(1.90) × (1.42)		56	外傾	平坦	人為	土師器(坏)	SB-4・5→本跡 9世紀後半
147	K17c2	N-10°-W	長方形	1.42 × 1.10		48	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片	SB-4・5→本跡, SK-149と重複
149	K17c2	N-6°-E	楕円形	(0.96) × 1.06		20	外傾	平坦	人為	土師器片	SB-4・5, SK-147と重複
153	K16j6	N-13°-E	円形	0.60 × 0.55		53	外傾	皿状	人為	土師器片 須恵器片	
154	J17i4	N-64°-W	円形	0.69 × 0.65		41	垂直	平坦	人為	土師器片	
156	J17i4	N-39°-W	円形	0.70 × 0.68		79	垂直	皿状	自然	土師器片 須恵器片	本跡→SB-13
157	J17i4	N-3°-W	楕円形	0.53 × 0.44		38	垂直	皿状	人為		本跡→SB-13
158	J17i4	N-90°-E	楕円形	0.83 × 0.70		45	外傾	皿状	自然		
160	J17i5	N-81°-E	円形	0.36 × 0.33		30	外傾	平坦	不明		本跡→SB-7
161	J17i5	N-6°-E	長方形	0.98 × 0.66		24	外傾	平坦	人為	土師器片	本跡→SB-7, SK-162と重複
162	J17i5	N-29°-E	円形	0.50 × 0.46		48	垂直	平坦	不明	土師器片	SK-161と重複
163	K16i6	N-0°	円形	0.56 × 0.56		40	外傾	平坦	人為		
164	J17i5	N-19°-W	円形	0.83 × 0.76		78	外傾	平坦	人為		SK-24と重複
167	J16j4	N-0°	円形	2.10 × 2.09		49	外傾	平坦	人為		
169	L17d5	N-58°-W	楕円形	0.28 × 0.24		30	外傾	平坦	不明		SI-131→本跡
170	K16c7	N-0°	楕円形	0.55 × 0.66		47	外傾	平坦	人為		SI-48→本跡
171	K16c7	N-0°	楕円形	0.74 × 0.53		47	外傾	平坦	人為		SI-97→本跡
172	K16d9	N-87°-W	隅丸長方形	0.66 × 0.54		17	緩斜	平坦	人為		SI-97→本跡
173	J17i4	N-79°-E	楕円形	0.97 × 0.69		43	外傾	皿状	自然	土師器片 須恵器片	本跡→SB-13
174	J17h4	N-23°-W	円形	0.68 × 0.62		86	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片	
175	J17h4	N-7°-W	楕円形	0.42 × 0.38		31	外傾	平坦	人為	土師器片	

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (旧→新)
				長径(軸)×短径(軸)						
177	J16j3	N-46°-E	円形	0.68 × 0.64	36	緩斜	皿状	自然	土師器片 鉄滓	SI-57→本跡
178	K17h2	N-90°-E	円形	0.88 × 0.83	43	外傾	凹凸	人為	土師器片 須恵器片	SI-98→本跡
180	K15h0	N-8°-W	不整楕円形	1.53 × 1.36	15	外傾	凹凸	人為	須恵器(壺)	SI-140→本跡→SI-16・17・18 9世紀
181	K16i3	N-20°-E	円形	0.95 × 0.85	30	外傾	平坦	不明	土師器片 須恵器片	本跡→SI-40
183	K17b2	N-10°-E	隅丸方形	1.20 × 1.10	30	外傾	凹凸	人為	土師器(坏)	SB-4・5→本跡→SK-267 10世紀後半
188	K16c7	N-63°-W	円形	0.77 × 0.69	72	垂直	凹凸	自然	土師器片	SI-48→本跡
189	J16h9	N-7°-E	楕円形	0.74 × 0.64	21	緩斜	皿状	人為	土師器片	
190	J16h9	N-47°-W	不整楕円形	0.78 × 0.74	94	垂直	平坦	人為	土師器片	
191	J16h9	N-15°-W	楕円形	0.75 × 0.60	91	外傾	平坦	人為	土師器(坏)	7世紀中葉~
192	J16h0	N-9°-E	楕円形	0.69 × 0.60	74	外傾	平坦	自然	土師器片	
193	L17c6	N-14°-W	楕円形	1.57 × [1.07]	[5]	外傾	凹凸	不明	土師器(甕)	SI-130→本跡
194	J16g9	N-8°-W	楕円形	0.68 × 0.49	49	垂直	皿状	人為	土師器片	
195	K18e2	N-11°-W	円形	0.64 × 0.61	18	外傾	皿状	不明		
196	K18e3	N-16°-E	長方形	1.43 × 0.82	80	垂直	平坦	人為	土師器片 須恵器片	
197	K18e4	N-0°	楕円形	0.88 × 0.74	44	外傾	平坦	人為		
198	K18e2	N-37°-W	楕円形	1.66 × 0.79	75	外傾	平坦	自然		
200	K16c7	N-90°-E	円形	0.72 × 0.68	15	緩斜	平坦	自然	土師器片	SI-48→本跡
203	K17h1	N-86°-E	円形	1.01 × 0.95	54	外傾	平坦	人為		SI-121→本跡→SK-499
204	K17h2	N-62°-W	円形	0.87 × 0.82	10	外傾	平坦	自然		SI-121→本跡
205	K17i2	N-0°	長楕円形	2.00 × 0.90	90	外傾	平坦	自然		本跡→SI-121 縄文時代(陥し穴)
206	L18e1	N-65°-W	楕円形	(0.92) × (0.83)	20	外傾	平坦	自然	土師器(坏)	SI-111→本跡 11世紀
208	J16i4	N-87°-E	長方形	2.26 × 1.50	90	外傾	平坦	自然		本跡→SI-30 縄文時代(陥し穴)
210	K18e2	N-0°	円形	1.11 × 1.10	104	外傾	平坦	自然	土師器片 須恵器片	
211	K18d2	N-72°-W	円形	1.49 × 1.45	100	垂直	皿状	自然	土師器片 須恵器片	
213	L18e3	N-31°-W	楕円形	1.00 × 0.89	65	垂直	平坦	人為	土師器片	SI-107→本跡
214	K18g2	N-90°-E	楕円形	1.17 × 0.86	56	外傾	平坦	自然	土師器片 須恵器片	
215	L17f8	N-3°-W	円形	1.25 × 1.15	61	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片	
218	L17e7	N-64°-E	楕円形	1.94 × 1.35	55	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片	
219	L17c7	N-60°-E	長楕円形	2.20 × 1.20	100	外傾	平坦	自然		本跡→SI-101 縄文時代(陥し穴)
221	L18f1	N-5°-E	[長楕円形]	1.64 × 1.02	100	外傾	平坦	自然		本跡→SI-109・111 縄文時代(陥し穴)
222	L17c6	N-0°	長方形	0.71 × 0.61	62	外傾	皿状	人為		本跡→SI-129
223	L17c6	N-0°	円形	0.66 × 0.66	30	外傾	皿状	人為		本跡→SI-118・129
224	L17d7	N-70°-E	長方形	0.56 × 0.44	20	垂直	凹凸	不明	土師器片 須恵器片	本跡→SI-102・103
225	L17d7	N-20°-W	楕円形	0.70 × 0.62	35	外傾	凹凸	人為		本跡→SI-102・103
226	L17c5	N-64°-W	楕円形	0.86 × 0.62	27	外傾	凹凸	人為		本跡→SI-131
227	L17c5	N-0°	円形	0.88 × 0.90	50	外傾	平坦	人為	土師器(坏)	SI-131→本跡 10世紀末~11世紀
228	K17b2	N-6°-W	不整楕円形	1.15 × 0.92	10	外傾	平坦	自然		
229	K17b2	N-90°-E	楕円形	1.18 × 0.93	35	外傾	平坦	人為		
230	K17b2	N-38°-W	楕円形	1.12 × 1.00	28	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片	
231	K17b1	N-80°-W	楕円形	1.26 × 1.16	15	外傾	平坦	人為		
232	K16b0	N-16°-W	楕円形	1.47 × 1.42	60	垂直	平坦	人為	土師器片 須恵器片	
233	L17c7	N-70°-E	円形	0.86 × 0.80	23	外傾	凹凸	人為		
235	K17a1	N-49°-W	不整楕円形	1.94 × 1.45	35	緩斜	平坦	自然	土師器片 須恵器片	
236	L17d1	N-3°-W	[長方形]	(1.00) × 1.03	70	外傾	皿状	人為	土師器片	SI-128→本跡
237	K17d1	N-90°-E	円形	1.03 × 1.01	32	垂直	凹凸	人為		
241	J16i9	N-11°-E	楕円形	0.61 × 0.46	45	外傾	皿状	自然	土師器片	SI-52→本跡

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m)		深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (旧→新)
				長径(軸)×短径(軸)							
242	L18d2	N-85°-E	楕円形	0.92 × 0.81		35	緩斜	皿状	人為		
243	L17e0	N-58°-E	楕円形	0.66 × 0.81		87	外傾	皿状	人為	土師器片	
244	L17e0	N-4°-W	長楕円形	1.80 × 1.17		90	外傾	平坦	自然		縄文時代(陥し穴)
246	K16e9	N-54°-E	隅丸方形	1.72 × 1.62		40	垂直	平坦	人為	土師器(坏)	SI-93→本跡→SK-247 9後葉~10前半
247	K16f9	N-65°-E	隅丸長方形	1.24 × 1.05		21	外傾	平坦	不明	土師器片 須恵器片	SI-93,SK-246→本跡
248	K16f8	N-78°-E	隅丸長方形	1.68 × 1.28		31	外傾	平坦	不明		SI-93→本跡
249	K16g8	N-90°-E	楕円形	0.92 × 0.75		34	外傾	皿状	自然	土師器(高台付椀)	SI-93→本跡 10世紀後半
250	K17f3	N-0°	円形	1.16 × 1.11		38	緩斜	皿状	人為		SI-68→本跡
251	K17e3	N-49°-W	楕円形	1.27 × 1.04		16	緩斜	平坦	人為	土師器片	SI-68→本跡
259	L18d1	N-53°-W	楕円形	0.89 × 0.79		15	緩斜	皿状	自然	土師器片	
260	J16g8	N-0°	円形	0.44 × 0.44		21	緩斜	皿状	不明		
261	K17e1	N-6°-E	隅丸長方形	2.46 × 1.25		25	外傾	平坦	人為		
262	K17e8	N-0°	円形	1.47 × 1.42		61	垂直	平坦	人為		
267	K17d2	N-76°-W	楕円形	1.24 × 1.00		25	外傾	平坦	不明	土師器片 土師質土器片	SB-4, SK-183→本跡
275	K17a8	N-26°-E	楕円形	0.89 × 0.75	[33]		緩斜	皿状	不明	土師器片 須恵器片	SI-78→本跡
276	J17j3	N-0°	円形	1.08 × 1.07		14	緩斜	平坦	不明		SI-74→本跡
278	J17g2	N-61°-E	[楕円形]	0.62 × (0.44)		13	緩斜	平坦	不明		SB-11と重複
279	J17j1	N-3°-W	楕円形	0.68 × 0.55		11	緩斜	平坦	不明		本跡→SI-54
280	J17j2	N-33°-E	不整楕円形	0.90 × 0.70		22	緩斜	凹凸	不明		
281	L19e4	N-89°-E	長方形	1.02 × 0.79		13	緩斜	平坦	自然		SK-282と重複
282	L19e4	N-12°-W	楕円形	0.73 × 0.62		34	外傾	皿状	自然		SK-281と重複
284	K17c4	N-10°-E	楕円形	0.74 × 0.68		81	垂直	平坦	不明		SI-63→本跡→SD-3
290	L18f6	N-0°	楕円形	1.06 × 0.90		27	外傾	平坦	不明		SI-164→本跡
291	L18g9	N-17°-W	長方形	1.81 × 1.43		32~52	外傾	平坦	人為	土師器片	SI-171→本跡
292	L18g5	N-90°-E	不定形	1.89 × 1.61		120	外傾	平坦	自然		SK-310→本跡→SI-164 縄文時代(陥し穴)
293	L18g5	N-84°-E	正方形	1.17 × 1.09		45	緩斜	皿状	自然		SI-160→本跡
295	L18g4	N-81°-E	楕円形	1.38 × 1.04		82	外傾	平坦	人為	土師器(坏, 椀, 高坏)	SI-160→本跡 5世紀末~6世紀初
296	L18i8	N-75°-E	楕円形	1.11 × 0.82		35	外傾	平坦	人為		SI-168→本跡
300	L18h6	N-35°-E	円形	0.85 × 0.82		90	外傾	平坦	自然	土師器片	SI-167→本跡
301	L18g5	N-85°-E	楕円形	1.25 × 1.11		20	緩斜	平坦	自然	土師器片	SI-160→本跡
302	L18f4	N-6°-W	楕円形	1.33 × 1.11		22	緩斜	皿状	自然		SI-160→本跡
303	L19f1	N-9°-W	長方形	2.96 × 1.26		25	緩斜	凹凸	人為	土師器片 須恵器片	SI-172→本跡
305	L19f3	N-5°-W	[不整方形]	2.12 × 1.66		45	外傾	平坦	人為	須恵器(蓋)	SI-186→本跡→SK-500・501・513・517 8世紀中葉
306	L18i0	N-48°-E	(楕円形)	1.32 × (0.64)		22	緩斜	平坦	自然	土師器片	SI-178→本跡
307	L19f2	N-90°-E	長方形	2.43 × 1.83		35	垂直	平坦	人為	土師器片 須恵器片 鉄滓	SI-185→本跡→SK-308 中世以降
308	L19g2	N-90°-E	不整長方形	2.26 × 1.92		36	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片 鉄滓	SK-307→本跡 中世以降
309	L19g2	N-78°-E	長方形	2.00 × 1.70		72	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片 鉄滓	SI-184→本跡 中世以降
310	L18g5	N-24°-E	長方形	1.42 × 0.59		50	外傾	皿状	自然		本跡→SI-164, SK-292 縄文(陥し穴)
311	L20j3	N-74°-W	長方形	3.47 × 2.16		37	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片	
312	L20i5	N-0°	方形	1.86 × 1.84	[41]		垂直	平坦	人為	土師器片	
313	L20h6	N-0°	円形	1.00 × 1.00		44	緩斜	平坦	自然		SD-17→本跡
315	L19f2	N-76°-E	長方形	(2.23) × 1.55		34	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片	SI-185→本跡→SI-186
316	M20a5	N-76°-W	方形	1.88 × 1.80		38	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片	本跡→SK-317 中世
317	M20a5	N-72°-W	長方形	3.09 × 2.04		60	外傾	平坦	人為	陶器(皿)	SK-316→本跡 15世紀
320	I14g0	N-73°-E	楕円形	1.25 × 0.98		27	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片	

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (旧→新)
				長径(軸)×短径(軸)						
321	I14g0	N-27°-W	楕円形	1.20 × 1.02	37	外傾	平坦	人為	土師器片	
322	I15i2	N-0°	楕円形	1.78 × 1.22	32	緩斜	皿状	自然		
323	I15g3	N-0°	円形	0.90 × 0.87	32	外傾	皿状	自然	土師器片	
324	I15j4	N-90°-E	[方形]	[1.80] × 1.80	13	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片	
325	I15j4	N-5°-W	円形	0.69 × 0.65	34	垂直	平坦	不明		
326	I15i2	N-88°-E	[方形]	[1.85] × 1.80	5	緩斜	平坦	不明		
327	I15h4	N-85°-W	楕円形	1.30 × 0.98	36	緩斜	皿状	人為		
328	I15h3	N-90°-E	長方形	1.18 × 0.84	60	緩斜	皿状	人為	土師器片 須恵器片	
329	I15h3	N-0°	楕円形	1.20 × 1.07	52	緩斜	凹凸	人為	土師器片	
331	L19g2	N-82°-E	長方形	1.92 × 0.86	35	垂直	平坦	人為	土師器片	SI-184→本跡
332	M20d1	N-13°-E	(長方形)	(2.50) × 1.19	14	外傾	平坦	不明		SK-452と重複
333	M20c2	N-38°-W	不定形	1.00 × 0.90	18	緩斜	凹凸	不明		SK-364と重複
334	M20b1	N-53°-W	楕円形	0.51 × 0.40	52	外傾	凹凸	人為		Pg-3と重複
335	M20a1	N-0°	楕円形	0.54 × 0.45	94	外傾	皿状	人為		
336	M20a1	N-80°-E	楕円形	0.42 × 0.35	68	外傾	皿状	人為		
337	M20a1	N-55°-W	楕円形	0.52 × 0.29	26	外傾	皿状	人為		
338	M20a1	N-0°	円形	0.60 × 0.60	31	緩斜	凹凸	人為		
339	M20a1	N-0°	円形	0.55 × 0.55	65	外傾	皿状	人為		
340	M20b2	N-70°-W	楕円形	0.47 × 0.31	45	外傾	皿状	不明		
341	M20b2	N-38°-W	楕円形	0.78 × 0.63	55	外傾	皿状	自然		
342	M20b3	N-8°-W	不整円形	0.81 × 0.77	11	緩斜	平坦	不明		Pg-2と重複
343	M20b3	N-45°-W	不整楕円形	0.95 × 0.86	63	垂直	皿状	自然	土師器片 須恵器片	
344	M20b3	N-0°	長方形	1.01 × 0.73	27	外傾	平坦	自然		
345	M20b3	N-90°-E	長方形	1.58 × 0.86	20	外傾	平坦	人為	土師器片	Pg-2と重複
346	M20a2	N-66°-E	不定形	0.73 × 0.72	21	外傾	平坦	自然	土師器片 須恵器片 鉄鏃	本跡→SK-359
347	M20a2	N-9°-E	長方形	1.79 × 0.58	27	外傾	平坦	人為		SK-360と重複
348	L19h3	N-73°-E	円形	5.50 × 5.20	6	緩斜	皿状	不明	土師器片	SI-184→本跡
349	M20b4	N-63°-W	不整楕円形	0.61 × 0.41	73	外傾	皿状	不明		
350	M20b4	N-84°-E	[長方形]	1.47 × (0.45)	19	外傾	平坦	不明	土師器片 須恵器片	SK-351と重複
351	M20b4	N-80°-E	長方形	1.82 × 0.67	33	外傾	平坦	不明	土師器片 須恵器片	SK-350・370と重複
352	M20b5	N-51°-E	楕円形	1.27 × 1.14	25	緩斜	平坦	人為	土師器片	
353	L20j5	N-8°-E	長方形	1.80 × 0.76	[22]	垂直	平坦	自然		
354	L20j5	N-64°-W	不整楕円形	0.89 × 0.78	[34]	外傾	皿状	自然	土師器片	
355	L20j5	N-22°-E	楕円形	0.71 × 0.81	84	外傾	平坦	自然		第1号火葬施設→本跡
356	L19g4	N-68°-E	長方形	1.34 × 1.00	29	垂直	平坦	人為		SI-188→本跡
357	M20a5	N-90°-E	円形	0.27 × 0.25	52	垂直	皿状	不明	土師器片 須恵器片	SK-404→本跡
358	M20a6	N-30°-E	不整楕円形	0.95 × 0.71	15	緩斜	凹凸	自然	土師器片	
359	M20a2	N-66°-E	不整楕円形	0.76 × 0.68	26	緩斜	平坦	人為	土師器片	SK-346→本跡
360	M20a2	N-65°-E	楕円形	2.00 × 1.27	42	外傾	平坦	自然	土師器片 羽口片	SK-347と重複
361	M20b2	N-46°-W	不整楕円形	0.84 × 0.72	14	緩斜	凹凸	自然		
363	M20b1	N-0°	楕円形	0.92 × 0.48	76	外傾	皿状	人為	古銭(熙寧元寶)	中世
364	M20d2	N-48°-W	長方形	4.55 × 1.78	39	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片 鉄滓	SK-333・365・366と重複
365	M20c2	N-45°-E	(円形)	(1.18) × (0.42)	9	緩斜	平坦	不明		SK-364と重複
366	M20c2	N-46°-E	[長方形]	(0.76) × (0.68)	10	緩斜	平坦	不明		SK-364と重複
367	L20i5	N-40°-E	楕円形	1.37 × 1.22	42	外傾	凹凸	自然	土師器片	
368	L20j8	N-44°-W	不整楕円形	0.58 × 0.40	54	外傾	皿状	不明		

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (旧→新)
				長径(軸)×短径(軸)						
369	L20i8	N-62°-W	楕円形	0.66 × 0.54	35	外傾	皿状	不明		
370	M20b5	N-0°	円形	0.43 × 0.41	59	外傾	平坦	不明		SK-351と重複
371	M20b5	N-69°-W	楕円形	0.42 × 0.38	48	外傾	皿状	不明		
373	M20b3	N-90°-E	長方形	0.85 × 0.68	49	垂直	平坦	人為	土師器片	
374	M20b4	N-0°	不整楕円形	0.40 × 0.40	62	垂直	皿状	人為	土師器片	
375	M20a7	N-14°-E	不整円形	1.04 × 0.96	20	緩斜	皿状	自然		
377	M20a6	N-0°	楕円形	0.54 × 0.48	32	外傾	皿状	不明		SK-378と重複
378	M20a6	N-11°-W	楕円形	0.60 × 0.51	18	緩斜	皿状	不明	土師器片 鉄滓	SK-377と重複
379	M20a6	N-62°-W	楕円形	0.47 × 0.38	68	外傾	皿状	不明		
380	M20a6	N-84°-E	楕円形	0.29 × 0.19	29	外傾	皿状	不明		
381	M20a6	N-20°-W	不整楕円形	0.70 × 0.46	68	外傾	皿状	自然		SK-383と重複
382	M20a6	N-23°-W	楕円形	0.56 × 0.43	54	外傾	皿状	自然		
383	M20a6	N-0°	[楕円形]	0.41 × (0.32)	15	外傾	皿状	不明		SK-381と重複
384	M20b6	N-7°-E	長方形	1.84 × 0.69	24	外傾	平坦	自然		本跡→第2号火葬施設, Pg-1と重複
389	M20a6	N-50°-W	楕円形	0.39 × 0.31	27	外傾	皿状	自然		
390	M20a6	N-25°-W	円形	0.28 × 0.25	16	外傾	皿状	自然		
391	L19h3	N-78°-E	楕円形	0.84 × 0.54	71	外傾	皿状	人為	土師器片	SI-184→本跡
393	L19h3	N-54°-W	台形	0.52 × 0.37	12	緩斜	平坦	不明		SI-184→本跡
400	M20a6	N-70°-W	円形	0.39 × 0.37	35	外傾	皿状	不明	土師器片 須恵器片	SK-401と重複
401	M20a7	N-0°	不整楕円形	1.63 × 1.22	11	緩斜	平坦	不明	土師器片 須恵器片	SK-400と重複
402	M19b6	N-31°-E	楕円形	0.96 × 0.86	65	外傾	皿状	自然	土師器片	SI-200→本跡
403	M19b4	N-67°-E	(楕円形)	(1.03) × (0.43)	13	緩斜	平坦	不明		SI-198→本跡
404	M20a5	N-90°-E	長方形	2.45 × 1.13	16	緩斜	凹凸	人為	古銭(熙寧元寶)	SK-405→本跡→SK-357, SA-6・7, Pg-1と重複 中世
405	M20a6	N-41°-E	楕円形	0.51 × 0.36	29	外傾	平坦	人為	古銭(熙寧元寶)	本跡→SK-404 中世
406	M20a6	N-68°-E	楕円形	0.40 × 0.28	35	垂直	平坦	不明	土師器片	Pg-1と重複
407	L20j2	N-85°-E	長方形	3.60 × 1.00	56	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片	
408	M19a5	N-0°	長方形	1.78 × 0.94	52~70	垂直	平坦	不明		SI-200→本跡
409	M19b5	N-88°-E	[楕円形]	(0.81) × (0.68)	40	外傾	平坦	不明	土師器片 須恵器片	SI-198, SK-410→本跡
410	M19b5	N-36°-E	[長方形]	(1.59) × [0.94]	110	外傾	平坦	自然	土師器片	本跡→SI-198, SK-409 縄文(陥し穴)
411	M19a6	N-11°-E	楕円形	0.81 × 0.73	43	垂直	平坦	不明		SI-200→本跡
412	M19c0	N-90°-E	円形	0.86 × 0.80	45	緩斜	平坦	人為	土師器片 須恵器片	
413	L19i9	N-86°-E	楕円形	0.69 × 0.58	28	緩斜	平坦	自然	土師器片	
414	L19h5	N-90°-E	長方形	1.40 × 1.02	72	垂直	平坦	人為	土師器片 土製羽口 鉄滓	平安時代
416	L19g9	N-84°-E	楕円形	0.89 × 0.71	57	外傾	平坦	自然	土師器片 須恵器片	SI-204→本跡
418	L19i8	N-27°-W	長楕円形	2.01 × 1.36	100	外傾	皿状	自然		本跡→SB-17,SK-485 縄文時代(陥し穴)
419	M19a4	N-90°-E	円形	0.84 × 0.76	60	緩斜	平坦	自然	土師器片	
420	L19g4	N-87°-E	不定形	2.24 × 1.25	35	外傾	平坦	自然		
421	I15j2	N-26°-W	楕円形	0.76 × 0.56	11	緩斜	皿状	不明		
422	I15i2	N-33°-E	楕円形	1.72 × 0.87	24	緩斜	皿状	自然		SI-219→本跡
423	I15i1	N-10°-W	楕円形	0.97 × 0.85	32	緩斜	皿状	自然		
424	I15i3	N-18°-W	楕円形	1.36 × 0.82	23	外傾	平坦	自然		
425	I15h4	N-4°-W	[長方形]	2.21 × (0.90)	19	緩斜	平坦	不明	土師器片	
426	I15i3	N-0°	楕円形	0.42 × 0.42	48	垂直	平坦	不明		
427	I15i3	N-69°-W	楕円形	0.48 × 0.44	39	垂直	皿状	不明		

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (旧→新)
				長径(軸)×短径(軸)						
428	I15i4	N-86°-W	楕円形	0.44 × 0.40	46	垂直	平坦	不明		
429	L19h4	N-48°-W	楕円形	1.12 × 0.66	119	垂直	凹凸	不明		SI-184→本跡, UP-3と重複
430	L18c3	N-80°-E	[長方形]	(1.25) × 0.92	40	外傾	平坦	自然		本跡→SB-15 縄文時代(陥し穴)
431	L19f4	N-68°-E	長方形	1.15 × 0.92	43	垂直	平坦	人為	土師器片 須恵器片	
432	L19e3	N-13°-W	不整楕円形	1.65 × 1.43	40	外傾	平坦	人為	土師器片 土師質土器片	
433	L19j8	N-41°-E	楕円形	1.43 × 1.07	6	緩斜	平坦	不明	土師器片	
434	L19e4	N-38°-W	楕円形	1.01 × 0.60	27	外傾	平坦	自然	土師器片 須恵器片	
435	M19a5	N-28°-W	楕円形	0.73 × 0.63	41	垂直	平坦	不明	土師器片 須恵器片	SI-200→本跡
436	L19e4	N-0°	[長方形]	(0.61) × 0.47	21	外傾	平坦	人為	陶器(皿)	本跡→SK-437 15世紀
437	L19e4	N-88°-E	楕円形	1.99 × 0.74	52	外傾	平坦	人為		SK-436→本跡
438	M19b5	N-0°	円形	0.73 × 0.70	56	外傾	皿状	不明		SI-200→本跡
439	L19d4	N-33°-E	不整楕円形	0.83 × 0.56	15	外傾	平坦	不明	須恵器片	
440	L20i1	N-88°-W	長方形	2.40 × 0.96	22	緩斜	平坦	不明	土師器片 須恵器片	SK-449→本跡
441	L19i2	N-0°	円形	1.10 × 1.08	28	外傾	平坦	自然	土師器片 須恵器片	
442	M19a5	N-90°-E	楕円形	[0.93] × [0.76]	53	外傾	平坦	自然	土師器片 須恵器片 鉄滓	SI-199→本跡
445	L19e2	N-7°-E	長方形	1.26 × 0.84	18	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片	SI-183→本跡
446	L19i2	N-70°-E	長楕円形	2.21 × 1.11	100	外傾	皿状	自然		本跡→SI-176 縄文時代(陥し穴)
447	L20i2	N-90°-E	不整楕円形	2.17 × 2.08	15	外傾	平坦	不明		
448	L20j1	N-8°-E	長方形	1.64 × 0.77	42	外傾	平坦	自然		
449	L20i1	N-37°-E	隅丸長方形	2.20 × 1.10	80	外傾	皿状	自然		本跡→SK-440 縄文時代(陥し穴)
450	M20a2	N-27°-E	不整楕円形	[0.97] × 0.71	13	緩斜	平坦	人為	土師器(高坏)	5世紀中葉
451	M20a3	N-85°-W	長方形	2.22 × 1.00	14	緩斜	皿状	自然		
452	M20d1	N-40°-E	[長方形]	(2.05) × [1.12]	8	緩斜	平坦	不明	土師器片	SI-210→本跡, SK-332と重複
454	L19e2	N-74°-W	楕円形	0.85 × 0.69	44	外傾	皿状	人為	陶器(椀)	SI-183→本跡 中世末~近世
455	L19e2	N-10°-W	[楕円形]	0.40 × 0.38	38	外傾	皿状	不明	土師器片	
456	L19f2	N-90°-E	楕円形	1.00 × 0.66	20	外傾	皿状	自然		SI-183・185→本跡
461	M19c0	N-6°-E	長方形	3.10 × 1.16	37	緩斜	平坦	不明		
462	L19h7	N-0°	円形	0.60 × 0.60	27	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片 鉄滓	
463	L19h9	N-16°-W	楕円形	1.64 × 1.36	31	外傾	皿状	人為	土師器片 須恵器片 鉄製品	
465	L20h2	N-18°-W	楕円形	1.14 × 0.89	16	緩斜	平坦	自然		
466	L20h3	N-66°-W	楕円形	0.90 × 0.80	32	垂直	平坦	自然	土師器片	
467	L20h6	N-15°-E	不整楕円形	1.10 × 0.97	29	緩斜	平坦	不明	土師器片 土師質土器片	SD-17→本跡
468	L20h2	N-45°-E	不整楕円形	0.91 × 0.57	14	緩斜	平坦	不明		SK-469と重複
469	L20h2	N-40°-W	楕円形	0.45 × 0.35	30	外傾	皿状	不明		SK-468と重複
470	L18c3	N-0°	円形	1.03 × 1.04	20	外傾	平坦	人為		
471	L20h1	N-90°-E	楕円形	1.20 × 1.04	16	緩斜	平坦	自然	土師器片	
472	L20i3	N-48°-E	円形	0.68 × 0.62	41	緩斜	平坦	自然	土師器片	SK-473→本跡
473	L20h3	N-32°-W	長方形	1.91 × 0.94	44	緩斜	平坦	人為	土師器片	本跡→SK-472, SK-478と重複
474	L20i2	N-74°-E	楕円形	1.91 × 1.00	18	緩斜	平坦	不明	土師器片 鉄滓	SK-476・477・478と重複
476	L20i2	N-28°-E	長方形	1.57 × 0.78	47	外傾	平坦	不明		SK-474・477~479と重複
477	L20i2	N-28°-E	[楕円形]	0.52 × (0.20)	48	外傾	皿状	不明		SK-474・476・478と重複
478	L20i2	N-44°-E	[長方形]	[5.22] × [1.96]	14	緩斜	平坦	自然	土師器片 須恵器片	SK-473・474・476・477・479と重複
479	L20i2	N-34°-W	不整楕円形	0.31 × 0.23	36	垂直	皿状	不明		SK-476・478と重複

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m)		深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (旧→新)
				長径(軸)×短径(軸)							
480	L19h9	N-0°	長方形	0.72 × 0.63		25	外傾	平坦	人為		
483	K17f8	N-90°-E	方形	0.87 × 0.71		40	外傾	平坦	人為	土師器片	
484	K17e5	N-87°-E	楕円形	1.34 × 1.03		95	外傾	平坦	自然	土師器片	
485	L19h8	N-12°-W	楕円形	1.17 × 0.74		43	外傾	平坦	不明	土師器片 須恵器片	SK-418→本跡→SB-17
486	M19a7	N-84°-E	楕円形	0.91 × [0.80]		25	外傾	平坦	人為	土師器片	
487	M19a7	N-0°	[円形]	[0.87] × [0.82]		38	外傾	平坦	不明	土師器片	
490	M20b4	N-72°-W	不整楕円形	1.30 × 1.12		20	外傾	平坦	不明	土師器片 土師質土器片	
491	M19c7	N-9°-W	円形	0.73 × [0.69]		38	緩斜	皿状	人為	土師器片	SI-202→本跡
492	M19b5	N-90°-E	楕円形	0.84 × 0.48		80	垂直	皿状	不明	土師器片	
493	L19g1	N-55°-E	楕円形	1.76 × 0.94		90	外傾	平坦	自然		本跡→SI-173 縄文時代(陥し穴)
494	K17e7	N-62°-W	長方形	1.23 × 0.95		65	垂直	平坦	不明		
495	K17e7	N-16°-W	楕円形	1.12 × 0.80		32	外傾	平坦	不明		
498	L19h1	N-49°-E	不定形	1.20 × 1.17		32	緩斜	平坦	不明		SI-173・174→本跡
499	K17h1	N-24°-W	円形	0.95 × 0.91		31	外傾	平坦	自然		SI-121, SK-203→本跡
500	L19f4	N-81°-E	長方形	1.64 × 1.29		53	外傾	平坦	不明		SI-186・SK-305→本跡, SK-513・514と重複
501	L19f3	N-64°-E	円形	1.56 × 1.46		51	垂直	平坦	不明		SI-186, SK-305→本跡
502	K17h3	N-90°-E	不定形	1.28 × 1.14		65	外傾	平坦	不明		SI-98→本跡
503	M20a6	N-30°-W	楕円形	0.47 × 0.40		52	外傾	皿状	不明		
504	L19j9	N-90°-E	楕円形	0.78 × 0.57		45	外傾	平坦	不明		SI-204→本跡
506	L19h8	N-9°-W	楕円形	0.57 × 0.51		15	緩斜	平坦	不明		
507	K18f1	N-68°-E	長方形	2.00 × 1.14		161	垂直	平坦	不明		本跡→SI-87・135
508	M19a7	N-27°-E	[楕円形]	[1.13] × 0.99		30	外傾	皿状	不明		
509	L19e3	N-15°-W	長方形	1.30 × 0.62		62	垂直	皿状	不明		
510	J15i9	N-4°-E	楕円形	0.89 × 0.78		12	外傾	皿状	不明		SI-7→本跡
511	J16e2	N-3°-W	楕円形	0.66 × 0.64		8	外傾	皿状	不明		SI-21→本跡
512	L19e3	N-0°	円形	0.59 × (0.57)		73	外傾	平坦	不明		SI-186→本跡, SK-517と重複
513	L19f4	N-84°-E	長方形	1.26 × 1.15		35	外傾	平坦	不明		SI-186, SK-305→本跡
514	L19f4	N-50°-E	不整楕円形	0.43 × (0.32)		28	外傾	平坦	不明		SI-186→本跡, SK-500と重複
515	K17a5	N-12°-E	楕円形	1.46 × 1.32		24	外傾	平坦	不明		SI-62→本跡
516	K17b5	N-51°-W	円形	1.13 × 1.10		11	緩斜	平坦	不明		SI-62→本跡
517	L19e3	N-84°-E	[長方形]	1.18 × 0.86		43	外傾	平坦	不明		SI-186, SK-305→本跡, SK-512と重複
518	L20g5	N-74°-E	長方形	1.80 × 0.89		26	外傾	平坦	不明		

## 第4節 まとめ

### 1 はじめに

今回の調査によって、当遺跡は弥生時代後期、古墳時代中期から平安時代後期にかけての集落跡であることが明らかになった。また、中世から近世にかけては、一部墓域として使用されていたことも判明した。

ここでは確認された遺構・遺物をもとにして当向遺跡の概要をのべ、まとめとしたい。

#### (1)旧石器時代

旧石器時代の遺物としては、石槍・剥片が出土している。石器が集中している地点や地層は特定できず、遺物は表土および後世の遺構の覆土中から出土している。石材は頁岩、安山岩などである。

#### (2)縄文時代（第425図）

土坑18基を確認した。平面形は長方形または長楕円形を呈しているものが多く、深さは50～120cmほどである。このうち、第111・208・310・430号土坑の底面には、杭を立てたようなピットが検出されており、陥し穴として使用されたことが考えられる。その他の土坑もピットは確認されていないものの、規模や形状がこれらと類似していることから、同じく陥し穴として使用されたものであろう。平坦面の標高65m付近と、東斜面の標高61m付近に多く分布しており、軸方向が同一のものも見られる。出土遺物が見られないことから、構築時期を判断することは困難である。

第78号土坑と第221号土坑、第446号土坑と第493号土坑のように、軸方向をほぼ同じくする土坑が比較的隣接して位置していることから、捕獲対象となる動物の通り道に沿って数回にわたり構築された可能性がある<sup>1)</sup>。また石鏃が出土していることから、当遺跡周辺は狩猟の場となっていたと想定され、集落は別の場所に営まれていたと考えられる。

#### (3)弥生時代（第425図）

当遺跡で人々が生活を始めた時代であり、第93・146・161・169・202号住居跡の5軒が該当する。住居の密度は薄く、平坦部から東側の斜面に広がっており、調査区域の南側に分布していることから、調査区域外にもこの時期の集落が広がっている可能性がある。住居は長方形が基本で北側に炉が設けられており、第93・161号住居跡からは炉石が出土している（第23・25図）。

周辺では、当遺跡にほど近い大泉地区<sup>2)</sup>や松田古墳群の盛土内から弥生時代中期の土器が出土しており<sup>3)</sup>、中期の段階には弥生人がこの地で生活を始めたと確認できる。しかし、これに該当する時期の遺構は今のところ確認されておらず、その実態は明らかにはなっていない。東に位置する辰海道遺跡では後期前半に集落の造営が開始されており<sup>4)</sup>、当遺跡はこれに少し遅れて集落の形成が始まっている。

当遺跡から出土している弥生土器は、栃木県方面から県西部に分布が見られる二軒屋式土器が主体である。また破片資料であるものの、第161号住居跡出土のT P 8（第26図）のように十王台式土器の特徴を備えた土器片も存在し、那珂川方面の影響も見られる<sup>5)</sup>。これらの土器は後期後半に属する一群であるが、一部第169号住居跡T P 21（第27図）のように若干時期がさかのぼると考えられる土器もみられることから、調査区域外に当該時期の施設が営まれている可能性は高い。



#### (4)古墳時代（第426・427図）

古墳時代中期から7世紀後半頃にかけての竪穴住居跡44軒、土坑4基を調査した。弥生時代後期に集落が営まれたものの、人々の居住は前期に一旦断絶する。当遺跡に隣接する金谷遺跡の状況を見ると、古墳時代前期にさかのぼる住居跡が確認されていることから<sup>6)</sup>、この時期になり集落が東へ移動したことが考えられる。

これらの遺構は、7期に分けることができる。

##### 1期（5世紀中葉）

集落が再び営まれる時期である。第178・184号住居跡の2軒がこの時期に該当する。重複により全形は明らかではないが、平面形はやや横長の長方形で地床炉が主流であったと考えられる。住居は東斜面に隣接して造られており、主軸が異なっていることから、時期が細分される可能性がある。

第184号住居跡の土器が本期を代表するものである（第87図）。高坏は坏部下端に稜があり口縁部が外傾して立ち上がるものと、坏部下端に稜を残して口縁部が内湾しながら立ち上がるものの2種が見られる。後者は椀に脚を付けた形態である。共に脚部は直線状に広がって裾部は強く外反し、坏部の径が脚の径より大きいことで共通している。甕は頸部が強く屈曲し、胴部は球形を呈している。壺と埴の全容は不明であるが、埴の胴部は算盤玉状で、下半部にヘラ削りが施されている。埴を模倣した小型土器が出土している。

##### 2期（5世紀後葉）

第170・172・200・207・214号住居跡の5軒がこの時期に該当する。これらの住居跡は調査区域の東部を中心に分布し、前代よりも数が若干増加し、集落規模がわずかながら拡大する傾向がうかがえる。住居の平面形は、前段階に引き続き横長の長方形のプランが主流である。内部の構造は同じく地床炉を北側に設置しているものが主流を占めている。その一方で第172号住居跡の北壁から、煙道部の掘り込みはほとんど見られない初源的な構造の竈が確認されている<sup>7)</sup>。また第212号住居跡の北壁からも竈が確認されている。後世の遺構によって煙道部付近が破壊されているが、これも同様の構造を持っていたと想定される。

第170号住居跡から出土した一群が、本期を代表する土器である（第76・77図）。高坏は前代とほぼ同じ器形を呈しているが、脚の径が坏部の径に接近している。甕は頸部の屈曲が若干弱くなり、口縁の立ち上がりも短くなる。胴部は縦方向に延びる傾向が見られる。甌は鉢形で、単孔である。坏は口縁部を外反してつまみあげたものと、内湾しているものがある。底部は丸底に近い。椀は坏よりも器高が高く、底部は平底のままである。1期に引き続いてミニチュアの土器が存在し、第170号住居跡からは甌を模倣した土器が出土している。

##### 3期（5世紀末～6世紀前葉）

第20・109・160・167・192号住居跡の5軒がこの時期に該当する。集落はほぼ2期の規模を維持している。これまで集落は東側の斜面を中心に展開していたが、第20号住居跡が尾根上の平坦部に営まれており、居住域を拡大している。住居のプランは方形に近くなり、一辺4～5mと同じく6m前後の規模のものが見られる。竈はほとんどの住居で採用されていたが、この中で第109号住居跡だけは地床炉を引き続き採用している。それまでの炉の多くは、住居の北側に設けられていたが、本例だけは西壁の壁際に設置されている。また、第160・167号住居跡では、竈に高坏を伏せた状態で廃棄した形跡が認められた。高坏には火熱を受けた形跡がないことから、支脚として転用されたものではなく竈が役割を終えた段階での行為であることがわかる。



第426図 1～4期住居跡の変遷

第109・160・167住居跡から出土した土器が本期を代表する一群である（第63・70・73図）。高坏は坏部下端の稜が目立たなくなり、口縁部は直線的に立ち上がるものが見られる。脚部は短い筒状を呈し、裾部は外反しているが、全体的に器高は低く、低脚化の傾向が進んでいる。坏類の底部は丸底となり、口縁部が内湾するものと、外反して立ち上がるものが存在する。これらは2期以前の器形を継承する一群であるが、この時期になると須恵器の坏を模倣した一群が出現し、以後主流を占めるようになる。壺は本期には数が少なくなり、鉢形の甑も見られなくなる。甕は口径と胴部の最大径がほぼ等しく、胴部が長くなる傾向がある。

#### 4期（6世紀中葉）

第25・30・36・50・128・176号住居跡の6軒が本期に該当する。集落は東斜面と平坦面に展開し、調査区域の外側にも広がっている可能性がある。3期に尾根上の平坦面に住居が進出し、本期になって居住空間としての利用が本格化している。これまで住居が営まれてきた東斜面には第176号住居跡が見られるだけである。住居は第25・30・36号住居跡が3軒で一つのグループを形成しており、残りの3軒についてもそれぞれ調査区域外にグループを構成する住居が存在するものと考えられる。

第30・36・176号住居跡の土器が本期を代表する一群である（第35・37・82図）。土師器の坏は、これまでの伝統を引きく器形も存在するが、須恵器を模倣した形態が一般化する。模倣坏は口径が15cm前後で統一され、口縁部が外反するものとほぼ直立するものの2種が見られる。内面に黒色処理を施されているものも存在し、さらに細分化される可能性を残している。甕は胴部の径が口径より若干大きく、胴部外面の調整はヘラ削りあるいはナデが主流で、ミガキを施すものも出現する。甑は大型化し、口縁部に最大径がある。高坏は、須恵器模倣坏に脚部を付けた形態が出現している。また、少量ではあるが須恵器が土器組成の中に加わってくる。特殊な遺物としては、第36号住居跡から小型の椀形土器と土製勾玉が出土している。

#### 5期（6世紀後葉～7世紀初頭）

第52・62・81・90・111・168・174・175・197・198・201号住居跡の11軒が該当する。古墳時代において最も集落が発展した時期である。4期に引き続き、斜面部と平坦部の2群に分かれて集落が展開しており、平坦部では4軒がほぼ等間隔で並んでいる。斜面部では7軒の住居が営まれているが、6.5m×5.7mとやや大型の第111号住居跡と、第168号住居跡を中心とする4軒、第198・201号住居跡の2軒からなる3グループに分かれている。住居の形態は、主軸方向がほぼ北を向き、北壁に竈を設置するものが一般化している。

第62・168・201号住居跡の土器が本期を代表する一群である（第53・74・96図）。土師器坏は須恵器模倣のものと、口縁部下端の稜がなく全体的に丸みを持つものが見られる。口径からは3種に分類が可能で、容量による規格が存在していたと考えられる。中型（口径13cm前後）が大半を占め、大型（径15cmを超えるもの）と小型（口径10cm前後）の比率は少ない。坏は器高が低くなり、4期より扁平化する傾向が認められる。小型のものは内面に黒色処理が施されている。小型の高坏も存在し、第111号住居跡から出土している（第65図237・238）。剣形の石製模造品も伴っていることから、祭祀に関わる遺物と考えられる。甕は全体の形状がわかる資料は少ないが、胴部に最大径を持ち、縦方向のヘラ削りやミガキが施されている。甑は5期の器形を引き継ぐが、口径と底径の差は小さくなる。

須恵器は第81号住居跡から無蓋の長脚二段の高坏が出土しており、二方透かしであることから、おおむね6世紀末から7世紀初頭の時期と考えられる<sup>8)</sup>。



#### 6期（7世紀前葉）

第37・43A・43B・215号住居跡が本期に該当する。この時期の集落は一転して縮小傾向を示し、住居数が減少する。住居は平坦部に限定されるようである。第37号住居跡と第43A号住居跡の主軸はほぼ同じ方向を向いており、グループを構成する可能性がある。また、これまで住居が見られなかった平坦部西側には、第215号住居跡が単独で営まれている。第43A号住居跡は事実報告で述べたように、第43B号住居跡を拡張したと想定され、当遺跡では全ての時代を通じて最も規模の大きい住居である。先行する第43B号住居跡の平面形をほぼ踏襲しており、二つの住居の間には居住者の継続性を認めることができる。第43B号住居の柱穴から出土した銅釧や、第43A号住居跡の規模を考えると、その居住者は有力な階層に属すると考えられる。

第37・43A号住居跡から出土した土器が本期を代表する一群である（第40・41・44図）。土師器は、模倣坏が全体的に器高が低くなり、口縁部下端の稜が目立たなくなる。また稜がなく底部が丸みを帯びた坏も相変わらず存在しているが、新たに畿内の影響を受けたと思われる扁平な器形が出現している。坏は小型（口径11cm前後）のものと同型（12～13cm）のものとの2種があり、それぞれ5期の小型と中型の規格を受け継ぐものである。甕は口径と胴部最大径がほぼ等しいか、口径が若干大きいものが見られる。長胴化する傾向はこの時期にも続き、胴部下半にミガキを施しているものも存在する。須恵器は坏・坏蓋と壺と思われる破片資料が出土している（第44図48・49）。

#### 7期（7世紀中葉～後葉）

第53・84・98・162・183・185号住居跡の6軒が本期に該当する。住居数は増加に転じ、6期に見られた集落の減少傾向に歯止めがかかるようである。住居形態は方形で、規模は一辺約6mのものと同型の一辺3.5～4mのものに分化しており、竈を北側に設置しているものが主流である。集落は再び平坦面から斜面部にかけて展開し、斜面部に位置している4軒はそれぞれ2軒ごとのグループを形成しているようである。

第53号住居跡から出土した土器が本期を代表する一群である（第50・51図）。土器群の様相は明確ではないものの、土師器の模倣坏は口縁部下端の稜がさらに目立たなくなり、口径も縮小し、11cm前後となる。甕は大中小と3種の規格が見られ、大型のものは長胴化が進み体部下半分にミガキを施している。口縁部の形状は単口縁であるが、若干つまみあげているものも存在する。また、ミニチュアと考えられる土器が依然として製作されている（第50図57・58・64）。須恵器の様相は明らかではない。

#### (5)奈良・平安時代（第428～430図）

前半には古墳時代に引き続き数軒の規模で推移しているが、後半には集落の規模が拡大する時期である。この時代、総柱の掘立柱建物や長大な建築物が出現している。古代にはこの地域は新治郡の領域であり、遺跡周辺は坂戸郷に属していたと考えられる。遺構は竪穴住居跡147軒、掘立柱建物跡18棟、溝跡2条、柵跡3条、土坑19基が確認され、これらは9期（8～16期）に分けることができる。

#### 8期（8世紀前葉）

第6・10・23・125・186号住居跡の5軒が本期に該当する。平面形は、第125号住居跡が長方形を呈しているが、その他は方形で北壁に竈を持つプランの住居である。第6・10・23号住居跡の3軒は平坦部の西側を中心に分布しており、第125号住居跡は調査区域の南側に、186号住居跡は斜面部にそれぞれ単独で営まれている。平坦部の東側から斜面部にかけては本期の竪穴住居が見られない空白域となっており、この付近は掘立柱建物



第428図 8～10期住居跡の変遷

のエリアとなっていた可能性がある。

第10・23号住居跡から出土した土器が本期を代表する一群である（第123・142・143図）。土師器は坏・甕で構成され、須恵器模倣坏は姿を消している。坏は出土量が少なく、浅い皿状のものとやや器高が高く、底部に丸みを帯びるものの2種類が見られる。甕は小型で単口縁のものと、これより大型で口縁部がつまみあげられているものが存在し、後者は胴部下半にミガキが施されている。

須恵器は坏・坏蓋・高台付坏・盤などが出現し、土器に占める割合も高くなる。坏は大中小の3種があり、小型は口径10cm前後、中型は同じく12cm前後、大型は同じく15cm前後で、容量による器形の分化が見られる。体部下端に調整が施されているものは回転ヘラ削りで、底部はヘラで切り離した後、丁寧に削られている。口径と底径の差は小さく、断面箱形の器形を呈している。高台付坏は出土量が少ないものの、坏と同じように容量によって分化していたと想定される。坏蓋は口径13cm前後と同じく15cm前後のものがあり、それぞれ坏の中型・大型に対応する器種と考えられる。つまみは擬宝珠状で、一部環状つまみも見られる（第142図323・324）。第23号住居跡出土の325（第142図）は大型の坏につまみを付けた形状で、箱形の断面を呈している。

#### 9期（8世紀中葉）

第40・78・99・114・163・166号住居跡の6軒がこの期に該当する。集落は8期とほぼ同じ規模で推移しており、住居は調査区域内に点在している。また、平坦面を中心に掘立柱建物が本格的に建てられた時期でもある。

竪穴住居は一辺約7mの大型のものと、一辺約3.5～5mの小型の2種が見られる。大型住居のうち第78号住居跡は竈が確認されず、南壁の一部が張り出した特異なプランを持っている。この住居には埋没の過程で大量の須恵器が投棄されており、堀ノ内古窯跡群産を含め、新治窯跡群産<sup>9)</sup>や益子窯跡群産<sup>10)</sup>の製品が出土している。中には明らかに不良品と見られる歪みが生じた製品が含まれている。当遺跡が須恵器の産地に近いため、不良品が集落に持ち込まれたものと思われるが、他の住居からはそのような製品は出土していない。また、第78号住居跡とほぼ同じ規模を持つ第99号住居跡の床面付近からは、琥珀製棗玉が出土しており、この2軒の住居跡は特別な性格を持っていた住居と考えられる。

8期に続いて平坦面には竪穴住居の空白域があり、掘立柱建物跡のエリアと考えられるが、その空間は8期よりも狭くなっている。掘立柱建物を建てる位置がほぼ固定化したと考えられ、同じ場所での立て替えが行われており、また建物の配置にも規則性を見いだすことができる。第2・8号掘立柱建物跡のグループが本期を中心に出現し、建物数も一番多くなると想定される。第8号掘立柱建物跡は5間×2間の規模を持っており、柱の掘り方も大きいことから、中心的な建物と考えられる。その後第8号掘立柱建物跡の位置には、10期にかけての時期に桁行きの方向を変えて第14号掘立柱建物跡が現れている。また、第5・15号掘立柱建物跡のグループも、第2・8号掘立柱建物跡のグループに後続する一群で、第14号掘立柱建物跡との関係は不明であるが、本期から10期にかけて出現した建物であろう。

本期の遺構と考えられる第97号土坑からは、事実報告で述べたように「新大領」のヘラ書きを持った須恵器蓋が出土している。この文字は新治郡の大領に帰属する土器に刻まれたもので、本来は厨などで使用されていたことが考えられる。堀ノ内古窯跡群から出土した「新大領」・「□大領」のヘラ書きを持つ土器の一群と比較すると、両者は胎土・焼成の状況がや使用された筆記具や書体に類似性が認められる<sup>11)</sup>。このことから当遺跡出土の「新大領」の須恵器は、同地で生産された可能性が極めて高い。堀ノ内窯跡群からは他に「新厨」のヘラ書きを持つ土器が出土していることから、これらの土器は新治郡衙で使用することを目的にセットで製作

されたものであろう。

第78号住居跡から出土した土器一群が、本期を代表する土器である（第206～209図）。須恵器は、堀ノ内古窯跡群が操業を始め<sup>12)</sup>、前述したように複数の産地から製品がもたらされたこともあり出土量が増加している。土師器は坏と甕からなる。8期で出現した器形を受け継いでいるが、内部に放射状のミガキを施した一群が現れている。体部から底部にかけて手持ちヘラ削りが施され、口径から3種に分類できる。これは8期での須恵器の容量の分化に対応したものであろう。大型は口径15cm前後の一群で、器形に丸みを帯び口縁部内側に沈線を施しているものがある。中型は口径14cm前後で、器形に丸みを帯びるものと、若干の断面を持つ2種に細分される。後者には内部のミガキがなく、前代の土師器坏の器形を踏襲したと思われる。大型は口径18cm前後で、器高が低く全体的に扁平な器形を呈しており、口縁部付近にやや弱い稜を持っている。

須恵器は坏、坏蓋、高台付坏、捏ね鉢などで構成されている。坏は前段階に出現した断面箱形の器形をほぼ継承し、3種の分化が継続している。大型は口縁部が外反しながら立ち上がるものと、直線的に立ち上がるものに細分される。中型は大型に準じ、底部下端に回転ヘラ削りを施しているものが見られる。小型は口縁部が若干開き気味に立ち上がり、体部下端は未調整か手持ちヘラ削りが施されている。

高台付坏は口径から2種に分類される。小型の坏に対応するものが欠け、中型に該当するものも少なく、大半が大型に属している。高台は短く直立またはハの字に開き、端部は面をなしている。高台の取り付け位置は底径より内側に付けられたものと、底径いっぱいにつけられたものが存在する。外面はロクロ目を丁寧に消したのが見られ、栃木県産か、あるいはその技術的な影響を受けたものである。坏蓋の口径は15～17cmに集中し、これらは坏・高台付坏の大型の製品に伴うものと考えられる。蓋内部に返りを持つものは極く少数で、つまみは扁平な擬宝珠状か逆台形である。ヘラ記号を持つものや、ロクロ目を消した製品も存在する。

#### 10期（8世紀後葉）

第19・32・113・140・171・173・188・204・205号住居跡の9軒がこの期に該当する。本期の住居は横長のプランのものも見られるが、方形のプランで北竈を持つものが主流を占めている。9期に見られた大型の住居は本期にも引き続き存在し、第113号住居跡が該当する。大きく平坦部西側と斜面部に分布しており、斜面部では第171号住居跡を中心とする3軒と、第204・205号住居跡の2軒からなるグループに分かれている。平坦部東側では、第8・14号掘立柱建物跡に続いて3間×2間の第12号掘立柱建物跡が建てられており、調査区域北側に位置している第13号掘立柱建物跡も本期に属する建物と想定される。第3・6号掘立柱建物跡は、この2棟に遅れて本期から11期にかけて建てられたグループと考えられる。この期も掘立柱建物が建てられたスペースに同時期の竪穴住居は見られない。

第140・188号住居跡から出土した土器が、本期を代表する一群である（第282・302図）。土器の出土量は減少しており、様相は明確ではない。土師器は甕が出土しているに過ぎず、しかも全体の形状が分かる資料は少ない。大型の甕は口縁部のつまみ上げがやや目立ってくるようである。小型の甕は2例あり（第151図349、第296図590）、体部下半にミガキを施しているものと、同じ部位にナデ調整を施しているものである。

須恵器坏は小型のものは確認されず、大型・中型のものが見られる。全体的に断面箱形の器形であるが、口径と底径の差がやや大きくなる傾向にある。体部下端の調整が判明したものは手持ちヘラ削りであり、本期に境に調整の方法に変化が生じている。また9期同様にロクロ目を丁寧に消し、体部と底部の境界が丸みを帯びているものが存在する。新たな器種としては高盤が出現している（第138図314）。高台付坏は器形が分かる資料は確認されなかった。須恵器の様相が不明確になるのは、この頃に堀ノ内古窯跡群の操業が中断することと

何らかの関係があるものと思われる<sup>13)</sup>。

#### 11期（9世紀前葉）

第2・16・21・126号住居跡の4軒がこの期に該当し、集落の規模は縮小している。住居は小型化し、大型の竪穴住居は見られなくなるが、8世紀後半から9世紀前半と考えられる第89号住居跡が本期に属するものであれば、比較的大型の部類に入る。また、それとは別に長大な住居が建てられている。第126号住居跡は当該期の竪穴住居の2～3軒分の長さを持つ住居で、長方形竪穴遺構<sup>14)</sup>とされるものの可能性がある。竈には第16号住居跡のように瓦を構築材として使用しているものが見られ、これは寺院や官衙からの搬入品と思われるが<sup>15)・16)</sup>、至近に存在している本郷瓦塚遺跡との関係も考えられる。おおむね調査区域の平坦部から縁辺部にかけて竪穴住居跡が存在しており、住居跡の配置には10期とあまり変化が見られない。本期あるいはそれ以前と思われる第206号住居跡は1軒だけ東に離れているが、羽口片が出土しているので鍛冶工房跡と想定され、火災の危険から一般住居と離れた位置に置かれたと考えられる。

土器の様相は10期同様不明な点が多い。第2・16号住居跡の出土土器が本期を代表する一群である（第112・133図）。出土した土器はほぼ須恵器に限定されている。坏は前段階と同様に大型と中型を中心に構成されている。前段階より器高が若干高くなり、口径と底径の差が広がる。第2号住居跡から出土した坏（第112図254）はロクロ目が消され、体部と底部との境界に丸みを帯びていることから益子窯跡群産の可能性が高い。中には底部にヘラ切りの位置を決めるため、予め凹部を作った痕跡を持つ坏も存在する（第133図298）。高台付坏は出土量が少ないが、坏と同じように容量分化していたと想定される。高台はハの字に開き、端部は若干丸みを持っている。坏蓋は器高が低いのも存在する。口径から2種に分類され、8期において中型と大型の坏に対応するとしたものと規格が類似しており、基本的には8期以降この規格の坏蓋が生産されていたものと想定される。つまみが確認できるものは擬宝珠状で、丁寧な作りである。盤は類例が少ないが、高台付坏と同じく高台の端部に若干丸みがあり、口縁部は外反して立ち上がっている。土師器の様相は明らかではない。

#### 12期（9世紀中葉）

第34・88・116号住居跡の3軒がこの期に該当する。集落は11期と同じ規模に留まり、停滞している時期である。竪穴住居の規模は若干小型化し、北竈を基本とするプランである。第145号住居跡は後世の遺構によって大半を掘り込まれているが、本期に属する遺構であれば、唯一の大型住居となる可能性がある。また従来掘立柱建物跡が建てられていた空間に第88号住居跡が営まれており、再び竪穴住居が進出し始めている。この点8～11期までとは集落の様相に変化が見られる。

第34・88号住居跡出土の土器が、本期を代表する一群である（第155・219図）。土師器では内部にミガキと黒色処理を施した坏の比率が高くなり、新たに高台付椀や口径約12cmの高台付皿が出現しているようで、土師器の器種構成に変化が見られる。須恵器坏は口径と底径の差がさらに広がり、断面が箱形のもの減少する。体部下端の調整も手持ちヘラ削りにはほぼ限定され、底部の切り離し後の整形も切り離しの痕跡を残し、以前に比べて粗雑化している。規格は口径12～13cmの中型のものにほぼ統一されている。須恵器の生産は減少傾向にあるようである。



第429図 11~13期住居の変遷

### 13期（9世紀後葉）

第61・63・64・68・85・100・108・121・136号住居跡の9軒がこの期に該当する。この時期は集落規模の拡大期に当たる。住居の規模は若干縮小し、北竈を基本とするプランであるが、東竈の割合も一定量見られる。住居は平坦面を中心に分布しており、第61号住居跡から6軒の住居が南北に並んでおり、西側に第108号住居跡が単独で営まれているという配置が見られる。第61号住居跡はその後16期に至るまで3軒の住居が重複しながら営まれており、建て替えによるものと考えられる。また、本期以降に調査区域中央部の北側に第7号掘立柱建物跡が構築されており、調査区域外にも掘立柱建物が広がっている可能性が考えられる。

第63・100・121号住居跡出土の土器が本期を代表する一群である（第183・184・235・236・259図）。須恵器の生産が衰退し、土師器の椀・坏類が土器の構成の主流を占めている。土師器は椀・坏類と甕類で構成され、坏は前段階に出現した内面に黒色処理とミガキを施したものが一般化する。底部の状況が分かるものは少ないが、回転ヘラ切りの後、簡単な底部調整を施している。甕は口縁部をつまみあげ、胴部の調整はミガキが見られず、横位のヘラ削りを施しているものが一般的である。第68号住居跡からは羽釜の破片が出土している（第192図445・446）。

須恵器は底径が縮小する傾向にあり、底部の切り離し後の調整も雑である。坏蓋、高台付坏は確認されておらず、消失したようである。新たに高台付皿が出現している。

### 14期（10世紀前半）

第1・11・17・22・38・44・45・46・66・94・137・138・142・195・219号住居跡の15軒がこの期に該当する。13期に引き続き集落は拡大傾向にある。平坦面を中心に集落が展開しており、第1・38・66住居跡の各住居を中心とするそれぞれ2～3軒のグループが見られ、重複する形で住居の建て替えを行っているものも認められる。住居の規模はほぼ画一化している。また、住居のプランは若干縦長の長方形をとり、北竈と東竈の割合がほぼ等しく見られる。北側に竈を持つものの中には、コーナー部に竈を設置しているものが存在する。

第22・38・66号住居跡から出土した土器が本期を代表する一群である（第140・157・189図）。土師器は椀と新たに高台付椀、皿が出現している。椀は断面の形状が箱形に近いものと、若干丸みをもつものがある。口径には大型（径15cm）、中型（径13～14cm）、小型（径11cm）の3種の規格が見られるが、大型および小型は出土量が少なく、中型のものではほぼ統一されているようである。内面に黒色処理とミガキを施したものがあり、底部の切り離しが判明したものは回転糸切りで、調整は省略されている。高台付椀は口径の分かるものが少なく、口径14～15cmと若干大きいか、大型の椀とほぼ同じ口径を持っているようである。高台は底径いっばいに付けられ、ハの字に開いている。一部に高台が高くなり始めたものも見られる。皿は口径約10cmで、口縁部は直線的に立ち上がるものと若干外反して立ち上がるものが存在する。内面に黒色処理とミガキが施されているものが見られ、底部の切り離しは回転ヘラ切りによるもので、調整は省略されている。皿と高台付椀が椀の大型・小型に代わる役割を持つと考えられる。煮沸具は甕と甌がある。甕は口縁部をつまみ上げが弱くなり、単口縁化している。胴部の調整はミガキが見られず、斜位または縦位のヘラ削りとなっている。

須恵器は、甕の胴部片を転用した硯（第174図402）などが出土しているに過ぎず、極めて客体的なあり方を示しており、本期までには生産を終了しているようである。新たに灰釉陶器も出現するが、高台付皿（第227図496）と瓶（第157図364）がそれぞれ1点出土しているだけである。高台付皿は器形や施釉の特徴などから、黒笹90号窯式あるいはそれに続く折戸53号様式に平行する時期と考えられる。



第430図 14~16期住居跡の変遷

#### 15期（10世紀後半）

第9・12・14・18・31・35・39・48・51・55・57・59・77・95・104・110・130・133・134・139・216・217号住居跡の22軒がこの期に該当する。住居の軒数が最大に達し、集落が一番発展した時期である。斜面部には当該期の遺構は少なく、集落は平坦面を中心に展開している。14期と同じく、住居の規模に明確な差はなく、ほぼ等質的なあり方を示している。住居のプランは縦長の長方形が主流となり、竈を東壁に設置している割合が高くなる。住居は第31号住居跡、第59号住居跡、第14号住居跡、第131号住居跡を中心とする4つのグループに分かれ、さらに調査区域東部にも第193号住居跡を中心とするグループが存在している可能性がある。

第14・95号住居跡出土の土器が本期を代表する一群である（第129・228・229図）。土師器は椀、高台付椀、皿、甕と新たに高台付皿と高台付小椀が出現している。椀は8期～10期に見られた坏と形態的に類似しているものが見られるが、調整はやや粗雑である（第173図399）。椀の主体となるのは、丸みを帯びた器形と考えられる。口径は約13cm程度で、前段階の中型とした規格を受け継いでいる。底部は回転糸切りが主流で、ヘラ切りも認められる。数的には減少傾向にある器形である。高台付椀は口径にばらつきが見られ、器形は断面箱形のものと同丸みを持つものが見られる。高台は若干高脚化するものがあり、また従来よりも底径の内側につくものが現れる（第129図287、第240図522、第271図560など）。内面には黒色処理とミガキが施されている。新たに出現した高台付小椀は口径10cmほどで、高台付椀を小さくした形体で、内部の調整は丁寧に黒色処理とミガキが施されている。皿は口縁部が若干開いて立ち上がるものと口縁部が浅い角度で立ち上がるものが見られ、前者がやや減少傾向にある。内面に丁寧に調整が施されるものは姿を消し、全体的に調整は粗雑でロクロ整形に限定され、底部は回転糸切りと回転ヘラ切りである。甕は全形が分かるものは少ないが、単口縁で胴部下半に縦位または横位のヘラ削りを施している。灰釉陶器は14期と同じく出土量は極めて少なく、高台付皿（第170図397）と瓶の小片が出土しているに過ぎない。高台付皿は折戸53号窯式平行のものと推定される。

#### 16期（11世紀前半）

第5・41・47・58・76・80・102・129・132号住居跡の9軒がこの時期に該当する。集落の規模は、本期になると急速に縮小傾向に向っている。13期以降途絶えていた掘立柱建物も調査区域内に再び建てられるようになる。掘立柱建物の配置はこれまでの尾根の平坦面を中心としたものから、東斜面を中心としたものに大きく変わるようで、調査区域の南東に広がっている可能性がある。集落は住居数がかなり減少し、本期を持って堅穴住居を中心とした集落は終了するようである。第102・129・132号住居跡の3軒が近接していることを除くと、平坦面に各住居が距離をおいて点在しており、15期に見られた住居のグループは解消に向かうようである。住居の規模は前段階とあまり変わらず、長方形のプランをとるが横長の形態を持つようになる。

第41号住居跡から出土した土器が本期を代表する一群である（第161図）。土器の出土量は全体的に少なくなる。土師器は椀の割合が少なくなる。高台付椀は高台が低いものと、高脚化したものの2種が存在する。前者は丁寧に整形されているが、後者は内・外面ともロクロによる調整だけで、整形は省略され粗雑な作りが目立っている。15期に出現した高台付小椀は本期も引き続いて存続しており、前期の口径を維持するかまたは若干縮小する方向にある（第211図465・466）。皿は口径8～9cmの範囲に集中し、小型化が進んでいる。それと比例して底径が縮小しており、15期まで見られた口縁部が若干開いて立ち上がるものは姿を消している。高台付皿は、高台が高脚化したものがみられる（第177図405）。

奈良・平安時代の当遺跡は、8期ないし9期以降、計画的な配置を持つ掘立柱建物が建てられており、一般

的な集落とは異なる様相を見せている。9期に属する第97号土坑から「新大領」のヘラ書きを持つ須恵器が出土していることは、他地域の地方官衙とされる遺跡から官位に関する文字資料が出土している<sup>17)</sup> ことと考え合わせて、郡衙またはそれに準じる集落と見ることができる。一方で官位や曹司に関わる文字資料は「新大領」以外には見られず、巡方などの威信財や硯など官衙に伴うと思われる遺物も少ないため、積極的に官衙遺跡とすることは困難である<sup>18)</sup>。現状では、一般集落よりも官衙的な色彩を持つ遺構が存在する集落と考えたい。

#### (7)中・近世

中世から近世にかけての当向遺跡の状況は、若干不明確な点がある。古代の集落は16期をもって終了し、第1号掘立柱建物跡と第119号住居跡が確認されるだけで、現状では人々が居住していたかどうか明確ではない。

中世において当遺跡の周辺には小栗御厨や中郡庄が置かれ、辰海道遺跡では庄の存在を示す遺物が出土しているが、当遺跡ではそのような遺物・遺構は確認されなかった。このころ各地の豪族が荘官として、あるいは地頭として居館を拠点に地域の支配に当たっている。岩瀬地方では鎌倉期に中郡氏の活動が知られているが、活動のよりどころとなった館跡は明らかになっていない。おそらく用水の便が良い、周辺に水田を望む地形に居館は築かれていたと考えられる。しかし、時代が変わり激しい戦闘が行われるようになると、防御に便利な山上に城館が形成されるようになる。当遺跡の東に位置する坂戸城跡は、そのような戦闘の変化に対応するために築かれた城である。南側に位置する金谷遺跡では城跡に伴うと考えられる堀が平地から確認されていることから、平時の居館または根小屋的な性格の施設が置かれていた可能性が高い。当遺跡では、城館に関する施設は確認されていないものの、広い意味で坂戸城跡の領域に含まれていたと考えられる。

この時代、東側の斜面、すなわち坂戸城跡側に地下式壙が築かれ、その後地業が行われて平坦な面が造成されている。この平坦面は先行する地下式壙を掘り込んで作られており、地下式壙を作った人々とは異なる勢力の人たちによって行われたものであろう。その時期は、造成された面の遺構から北宋銭が出土しており、鎌倉期ないしは遅くとも室町期と考えられる。造成された平坦面には土坑や柵跡、井戸などが存在し、火葬施設も確認されていることから墓域との関わりが深い空間と位置づけられる。

近世においても遺跡の一面が墓地として使用されていたことが、土坑から寛永通寶が人骨と共に出土していることから理解できる。

## 2 金属生産について

当向遺跡では遺構内から鉄滓が出土し、また工房跡と想定される遺構が確認されており、このため、鉄などの金属の生産・加工が行われていた可能性が高いと考えられる。以下、その概要について簡単に記述する。

#### (1)古墳時代

16軒の住居跡から鉄滓が出土している。第176・212号住居跡からは比較的多くの鉄滓が出土しており、出土状況から混入の可能性は低いと考えられる。第207号住居跡は内部に焼土が堆積し、羽口片が出土しており、第210号住居跡は長方形のプランで炉が複数あり、同じく羽口片が出土していることから、それぞれ工房跡の可能性が想定される。辰海道遺跡では4世紀代から鍛冶が確認されており、当遺跡においても鉄器の製作・加工が2期以降の早い段階に行われていたことをうかがわせる。



## (2)奈良・平安時代

47軒の住居跡から鉄滓が出土している。第44・99・129・164・193・206号住居跡から比較的多数の鉄滓が認められ、第41・205・206号住居跡から羽口片が、また第173号住居跡から鉄滓と共に窯壁の破片と思われる遺物が、第414号土坑からは鉄滓3.1kg、羽口片5点が出土している。これらの遺構は奈良・平安時代のほぼ各期にわたり、特に13期から15期にかけて多く見られる。住居跡内から砥石や石材が出土しているものがあり、間接的に製鉄に関わる遺物の可能性が考えられる。

第164号住居跡は、長辺と短辺の比が2：1とかなり横長のプランであり、竈はなく炉が2か所確認され、プラン等が他の遺跡から確認された鍛冶工房跡と類似し<sup>19)</sup>、その可能性が高い遺構である。第206号住居跡は、後世の攪乱が著しいことから積極的に工房跡と認めることは困難であるが、羽口片や窯壁と考えられる破片が出土していることから、本跡またはその付近で鉄製品の生産が行われていた可能性は高く、調査区域外に未発見の工房跡が存在する可能性も十分に考えられる。第414号土坑からは多量の鉄滓出土しているが、鍛冶に伴うと考えられるものがほとんどである。これは当集落内では鍛冶を中心とした作業が主であり、素材となる鉄の精錬は他の場所で行っていたことを示すものであろう。

## (3)中・近世

第2・5・15号溝跡、第307・308・309号土坑などから鉄滓が出土し、引き続き中世においても鉄に関連した生産活動が行われていたことがうかがえる。それに加えて小仏像の鋳型が出土している。周辺では古代から銅製品を製作した遺構が確認されているが<sup>20)</sup>、その後遺構としては確認されていない。本跡出土の鋳型は、犬田神社前遺跡出土の銅造観世音菩薩立像と光背の取り付け位置が異なるものの、ほぼ同じ大きさの仏像を鋳造したものである。そのほか出土した銅製品には段切り遺構から出土した和鏡片があり、蛍光X線分析を行った。その結果を他の例と比較すると、平安時代とされるつくば市島名熊の山遺跡出土の天部立像とは、構成する成分の含有量が異なり<sup>21)</sup>、中世とされる取手市下高井向原遺跡出土の瑞花双鳳五花鏡<sup>22)</sup>とは、天部立像ほどではないがそれでも鉛の含有量が少ない値を示している。さらに犬田神社前遺跡出土の銅造観世音菩薩立像と分銅でも含有物が異なった値を示し、当遺跡の和鏡との類似性を見いだすことはできなかった。年代的または地域的な状況を見るためには、より多くの資料が必要であり、現状において当遺跡出土の和鏡片の製作地や、岩瀬地方での製銅の状況については不明な点が多い。しかしながら岩瀬地方では古くから仏教の活動が盛んであり、文献の上には現れないものの、仏像・仏具の製作が行われていた可能性は高いと言える。

当遺跡の北側には金山の地名が残ることや金谷遺跡の状況から城山の南麓一帯では、古くから鉄の生産が行われ、一時期銅の生産または加工が行われていたことは明らかである。当遺跡周辺は北関東から太平洋へ抜ける道と筑波山麓を通過して下野・那須方面へ向かう道が交差する地域であるが、当地域を支配した勢力は、この交通路を掌握すると共に、鉄・銅の生産と工人組織を支配し経済的な基盤としていたと考えられる。

### 註

- (1) 今村啓爾 「陥穴（おとし坑）」『縄文文化の研究2 生業』雄山閣出版 1994年8月
- (2) 茨城県史編集会 『茨城県史料 考古資料編 弥生時代』 茨城県 1991年3月
- (3) 横倉要次 「松田古墳群 北関東自動車道（友部～協和）建設事業地内埋蔵文化財報告書V」  
『茨城県教育財団文化財調査報告』第226集 2004年3月刊行予定
- (4) 仲村浩一郎・他 「辰海道遺跡1 北関東自動車道（協和～友部）建設事業地内埋蔵文化財調査報告書I」  
『茨城県教育財団文化財調査報告』第222集 2003年3月
- (5) 鈴木素行 「武田石高遺跡 旧石器・縄文・弥生時代編」『（財）ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査

報告』第15集 1998年1月

- (6) 茨城県教育財団 「金谷遺跡」『年報』22 2003年6月
- (7) 矢ノ倉正男・寺門千勝 「阿見東部工業団地造成工事地内埋蔵文化財調査報告書 星合遺跡・中ノ台遺跡」  
『茨城県教育財団文化財調査報告』第137集 1997年9月
- (8) 田辺昭三 『須恵器大成』角川書店 1981年7月
- (9) 当向遺跡においては、新治窯跡群産の須恵器は極めて少ない。
- (10) 篠倉窯跡研究会 「益子町篠倉窯跡採集の須恵器と瓦について－附 倉見沢窯跡出土遺物の検討－」  
『栃木県考古学会誌』17 栃木県考古学会 1995年
- (11) 辰馬考古資料館にて実見。
- (12) 甲陽史学会 『常陸国新治郡上代遺跡の研究Ⅱ』1988年1月
- (13) 前掲註(12)
- (14) 栃木県上神主・茂原遺跡では、短辺と長辺の比が1:1.5を超える竪穴状の遺構があり、「長方形竪穴遺構」として報告されている。掘立柱建物との関連性が指摘されている。  
安永真一 「上神主・茂原 茂原向原 北原東 北関東自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査Ⅴ」  
『栃木県埋蔵文化財調査報告』第256集 2001年3月
- (15) 高井悌三郎 『常陸国新治郡上代遺跡の研究』1944年10月
- (16) 茨城県立歴史館 「茨城県における古代瓦の研究」『学術調査報告書4』1994年3月
- (17) 藤枝市御子ヶ谷遺跡で「志大領」・「志少領」、久留米市道蔵遺跡で「三万大領」の出土例がある。  
石毛彩子 「駿河国志太郡衙・益頭郡衙と墨書土器」『古代官衙・集落と墨書土器－墨書土器の機能と性格をめぐって－』独立行政法人 奈良文化財研究所 2003年3月
- (18) 山中敏史 『地方官衙の研究』塙書房 1994年2月
- (19) 規模は異なるものの、第164号住居跡平面プランは石岡市鹿の子C遺跡、鹿嶋市春内遺跡の例に類似している。  
佐藤正好・川井正一 「常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書5 鹿の子C遺跡」  
『茨城県教育財団文化財調査報告』第20集 1983年3月  
風間和秀・宮崎美和子 「春内遺跡 一般国道124号線バイパス建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」  
『鹿島町の文化財』第89集 1995年3月
- (20) 協和町教育委員会 『新治廃寺－久地楽長町窯跡予備調査報告書－』1984年3月  
報告によると銅精錬炉跡1号は新治廃寺跡の創建瓦が使用されており、古代に属するものである。
- (21) 平尾良光・榎本淳子・早川泰弘 「熊の山遺跡出土の天部立像および耳環に関する自然科学的調査」  
〔(仮称) 島名・福田坪地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ熊の山遺跡〕  
『茨城県教育財団文化財調査報告』第149集 1999年3月
- (22) 平尾良光・小林直子 「茨城県取手市で出土した銅製品の蛍光X線分析」  
「取手都市計画事業下高井特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 甚五郎崎遺跡・下高井向原Ⅰ遺跡・下高井向原Ⅱ遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第107集 1996年3月

#### 参考文献

- 赤井博之 「律令制変質期の須恵器の系譜－茨城県－」『東国の土器－関東地方における歴史時代須恵器の系譜－』  
古代生産史研究会'97年シンポジウム 1997年3月
- 浅井哲也 「茨城県内における奈良・平安時代の土器(Ⅰ)」研究ノート創刊号 茨城県教育財団 1991年
- 浅井哲也 「茨城県内における奈良・平安時代の土器(Ⅱ)」研究ノート2号 茨城県教育財団 1992年
- 稲田義弘 「熊の山遺跡出土の平安時代の土器様相－土師器を中心として－」  
『領域の研究－阿久津久先生還暦記念論集－』阿久津久先生還暦記念事業実行委員会 2003年3月
- 岩瀬町史編さん委員会 『岩瀬町史 通史編』岩瀬町 1987年3月
- 内山敏行 「律令制成立期の須恵器の系譜－栃木県－」『東国の土器－関東地方における歴史時代須恵器の系譜－』  
古代生産史研究会'97年シンポジウム 1997年3月
- 樫村宣行・土生朗治・白石真理 「茨城県における5世紀の動向」『東国土器研究第5号』東国土器研究会 1999年5月
- 山口耕一 「律令制変質期の須恵器の系譜－栃木県－」『東国の土器－関東地方における歴史時代須恵器の系譜－』  
古代生産史研究会'97年シンポジウム 1997年3月

## 茨城県当向遺跡出土金属製遺物の成分分析結果

(株)吉田生物研究所

## 1 はじめに

茨城県に所在する当向遺跡から出土した金属製遺物について、以下の通り成分分析を行ったのでその結果を報告する。

## 2 資料

調査した資料は表1に示す金属製遺物2点である。No.1は古墳時代、No.2は中世の遺物である。

表1 調査資料一覧

No.	保存処理No.	遺物名
1	1	銅釦
2	2	和鏡

## 3 方法

理学電機工業(株)製の全自動蛍光X線分析装置3270E（検出元素範囲B～U）によって資料本体に蛍光X線を照射して分析した。

## 4 分析結果

具体的な成分分析のデータを付す（別紙参照のこと）。

また表2に成分分析の結果を示すが、今回の調査では資料本体に蛍光X線を照射したので、資料表面の分析結果である。よって土壌成分も含まれており、この表の数値が資料本来の組成を反映してはいないので、あくまで参考資料である。

No.1銅釦はCuから、No.2和鏡はCu,Sn,Pbから成る。

参考資料 表2 成分分析結果表

元素名	含有率 (%)	
	No. 1	No. 2
Si	—	6.7
Cu	100	61
Sn	—	14
Pb	—	17

図1 銅釧の蛍光X線スペクトル

T# ショアコート 試料名 B# 元素コード  
 4 STP テイエイ 2-1 イハラキ 43 HV00

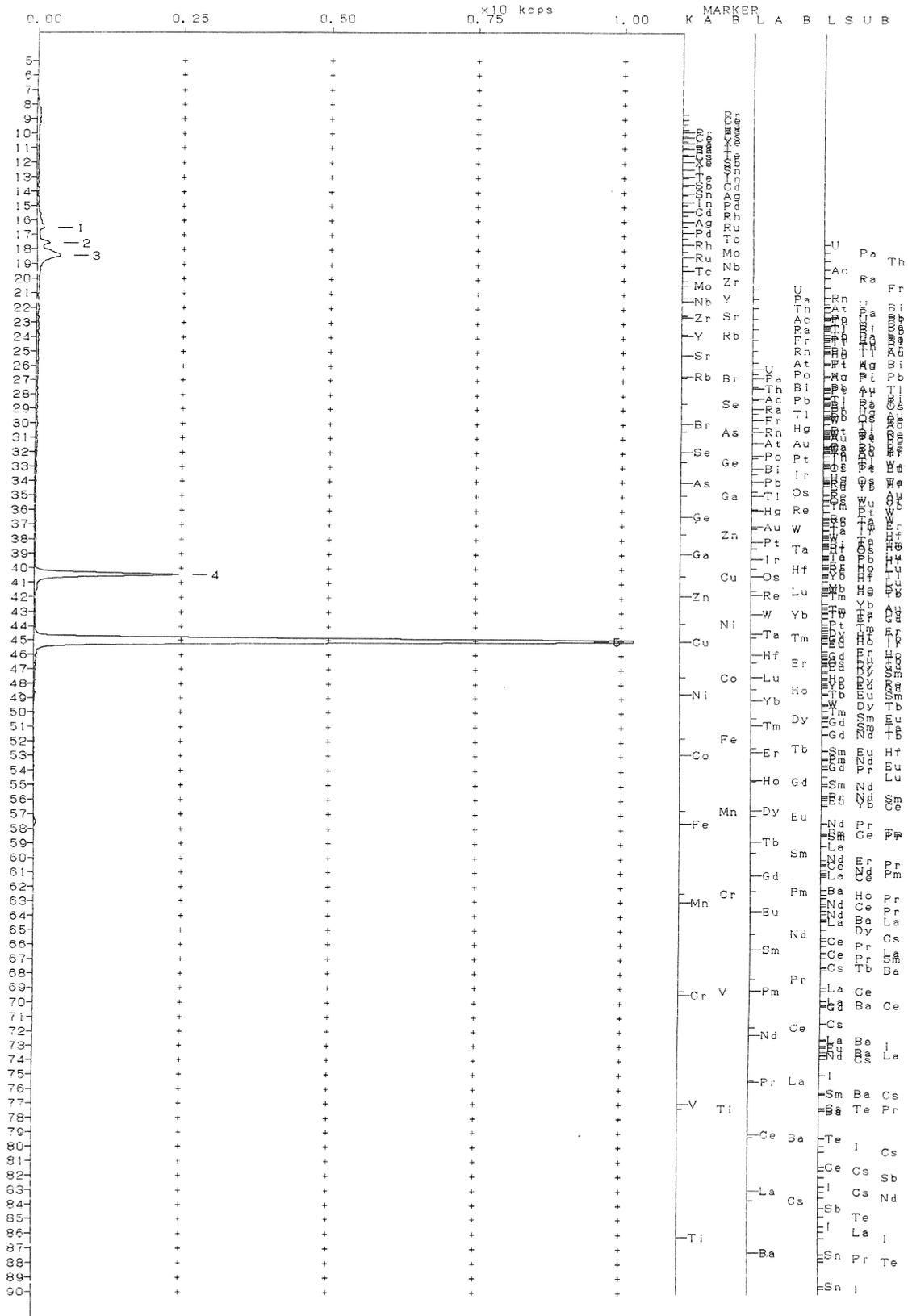
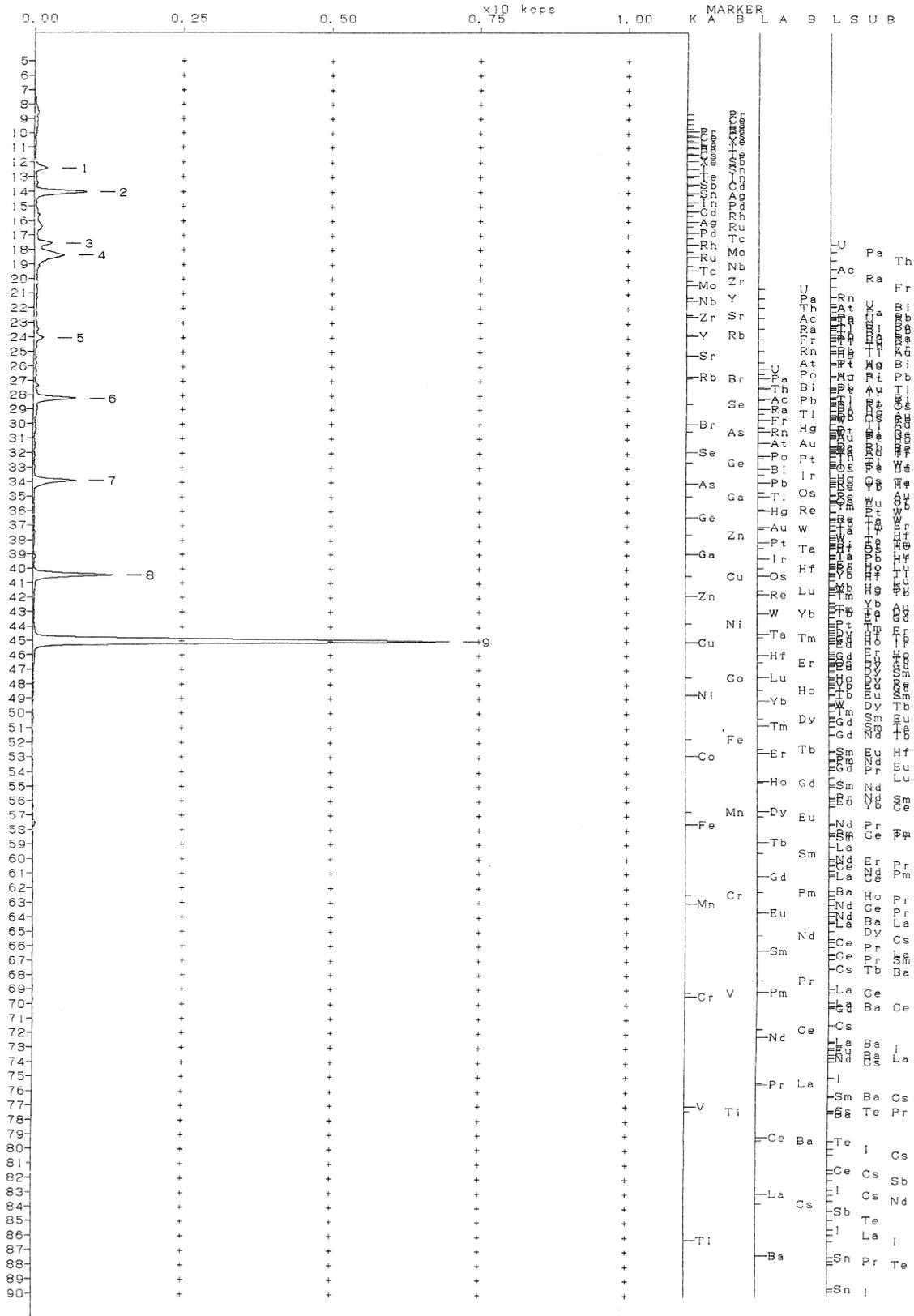


図2 和鏡の蛍光X線スペクトル

T# ショフコト 試料名 B# 元素コード  
 5 STP デイセイ 2-2 イハラキ 44 Hv00



# 写真図版

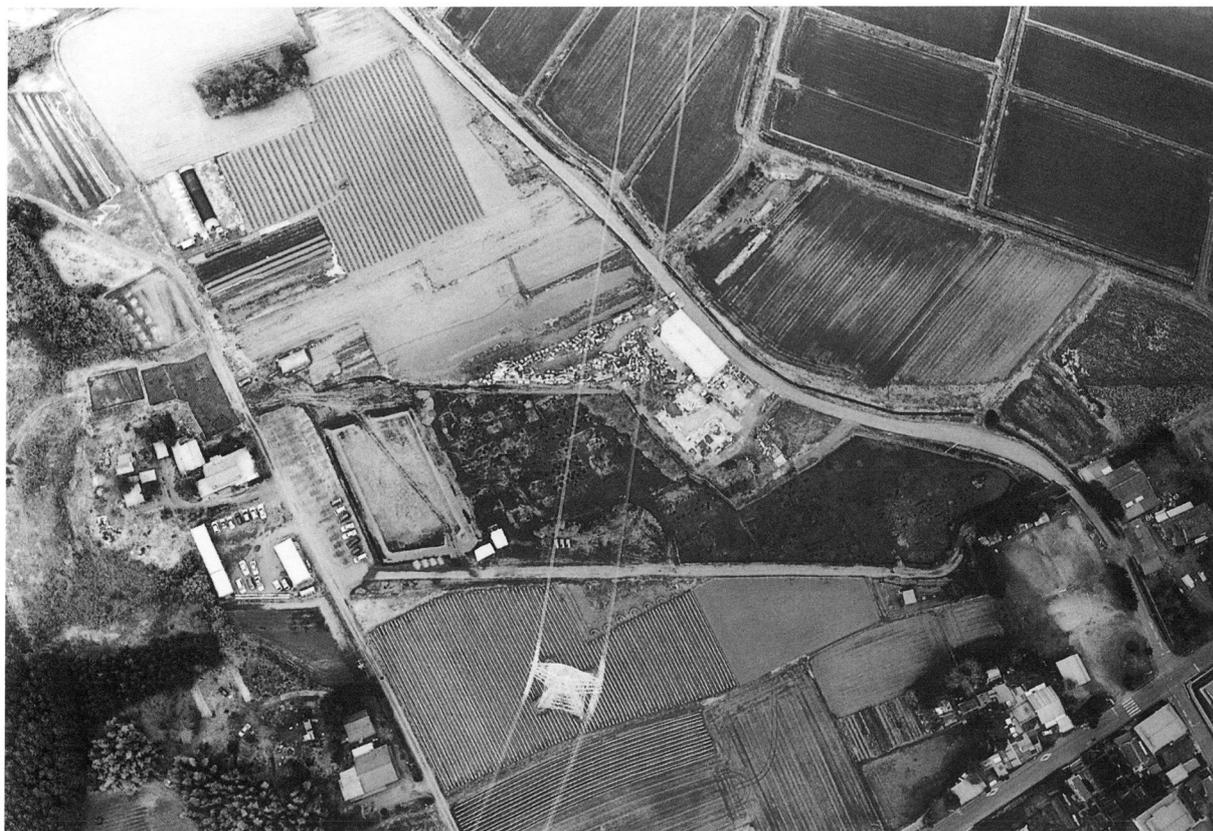


遺跡遠景（東から）



遺跡遠景（西から）

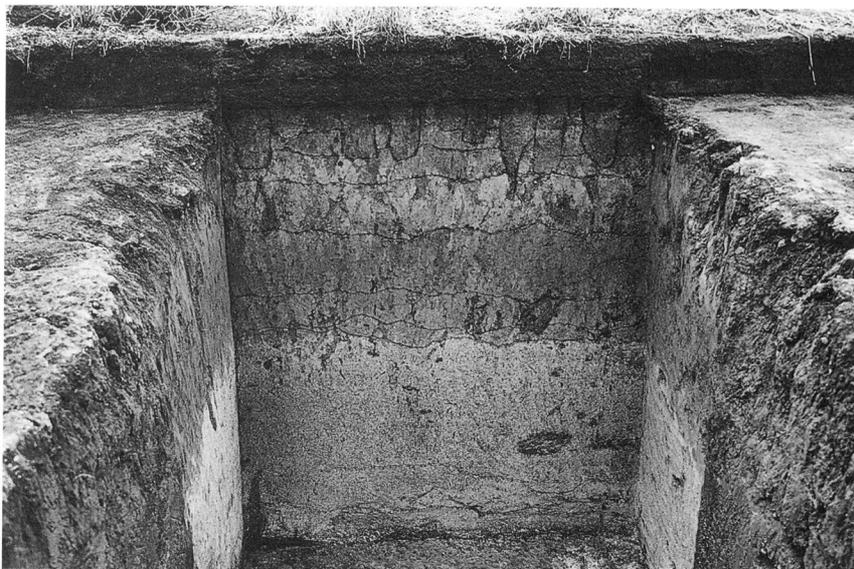
PL2



遺跡全景



遺跡全景 (西から)



テストピット

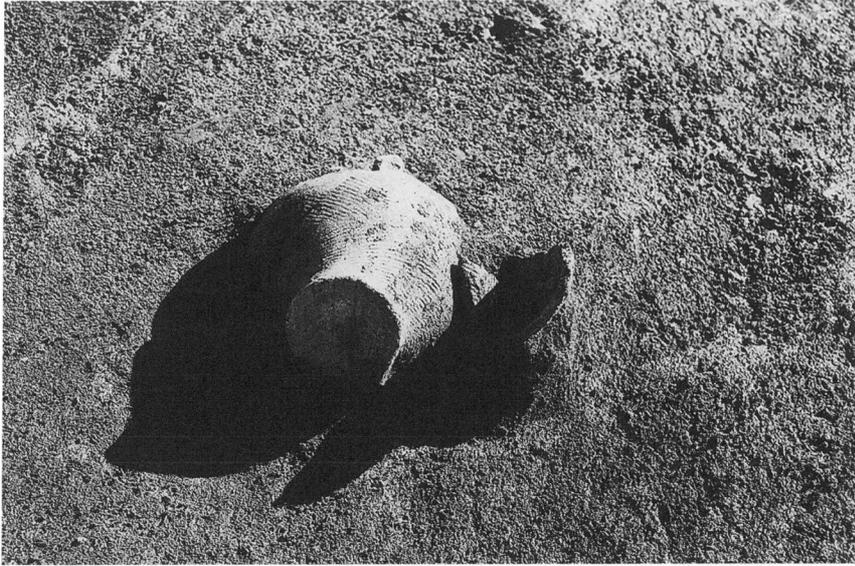


第93・138号住居跡  
完掘状況

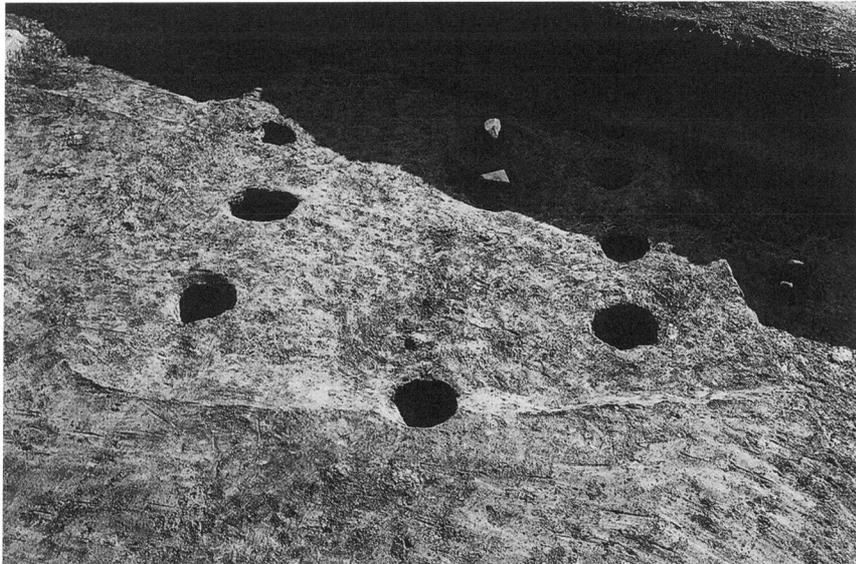


第146号住居跡  
完掘状況

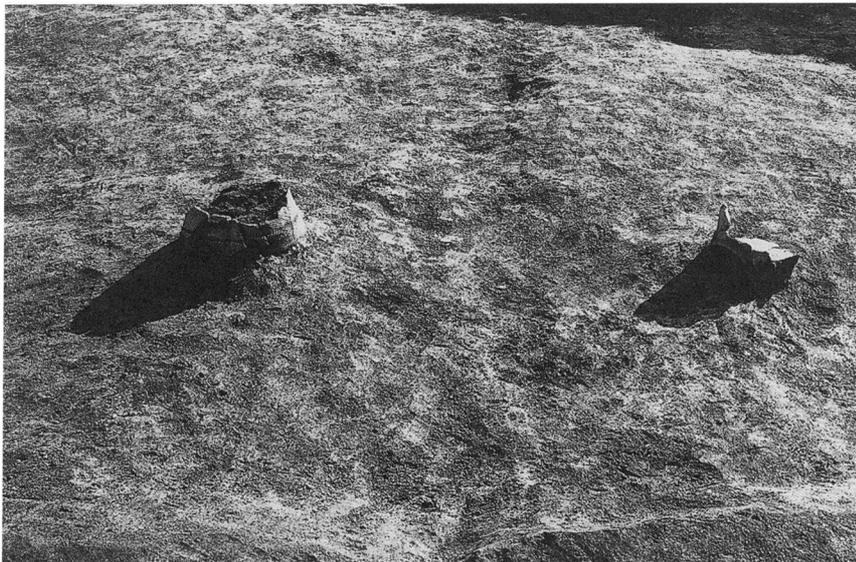
PL4



第146号住居跡  
遺物出土状況



第161号住居跡  
完掘状況



第161号住居跡  
遺物出土状況



第20号住居跡  
完掘状況

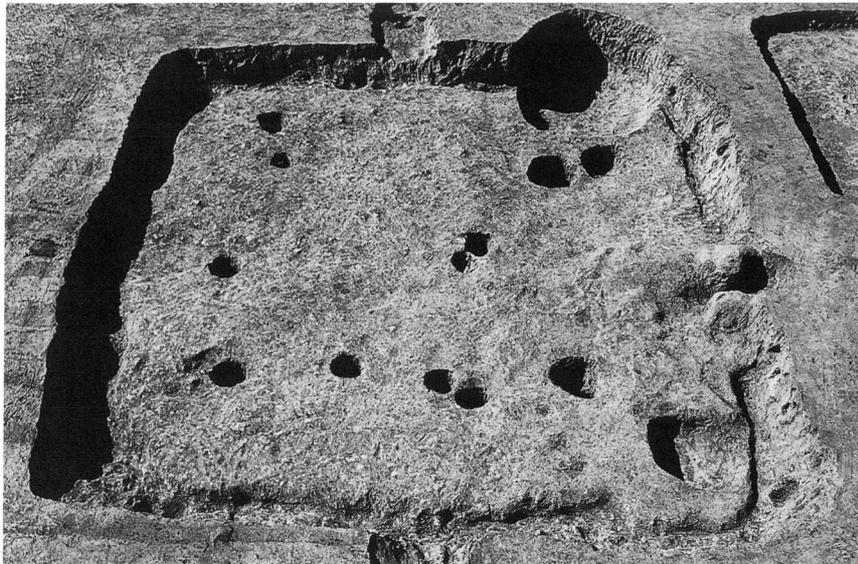


第25号住居跡  
完掘状況



第30号住居跡  
遺物出土状況

PL6



第36号住居跡  
完掘状況



第36号住居跡  
遺物出土状況



第36号住居跡  
甕 遺物出土状況



第37号住居跡  
完掘狀況

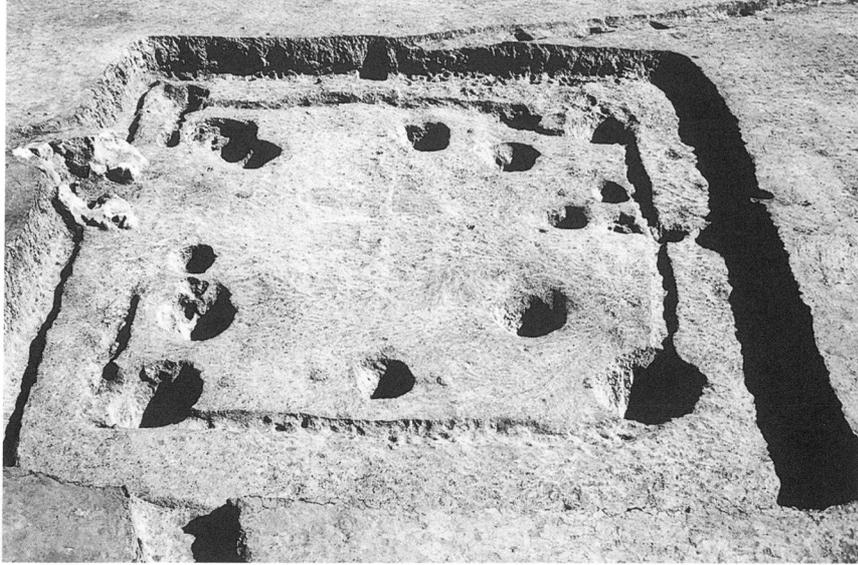


第37号住居跡  
遺物出土狀況



第37号住居跡  
竈 遺物出土狀況

PL8



第43A・B号住居跡  
完掘状況



第43A号住居跡  
遺物出土状況



第43B号住居跡  
銅釧出土状況



第50号住居跡  
完掘状況



第53号住居跡  
完掘状況

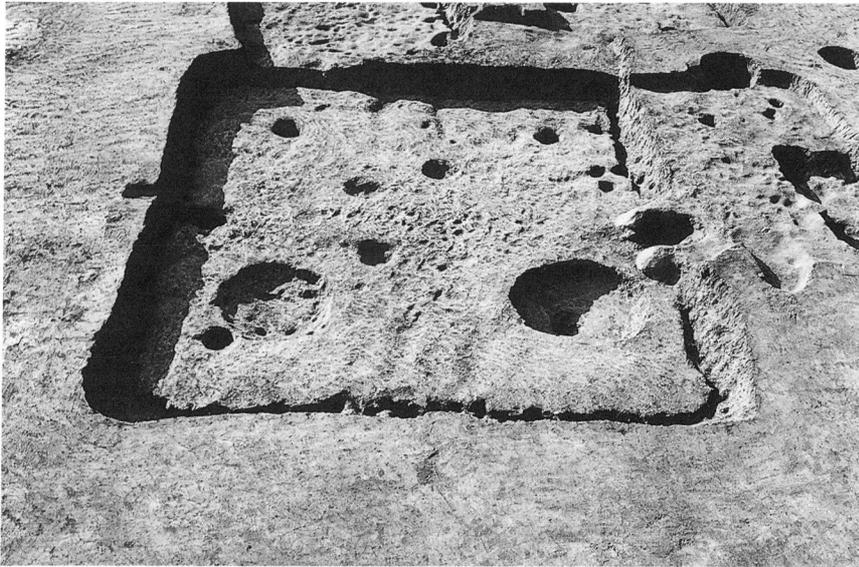


第53号住居跡  
遺物出土状況

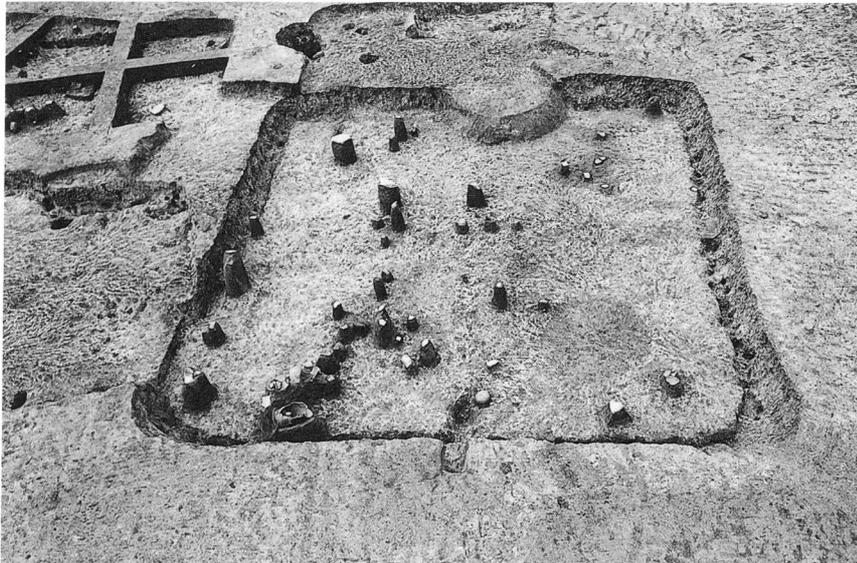
PL10



第53号住居跡  
遺物出土状況



第62号住居跡  
完掘状況



第62号住居跡  
遺物出土状況



第81号住居跡  
完掘状況



第81号住居跡  
竈 完掘状況



第84号住居跡  
遺物出土状況

PL12



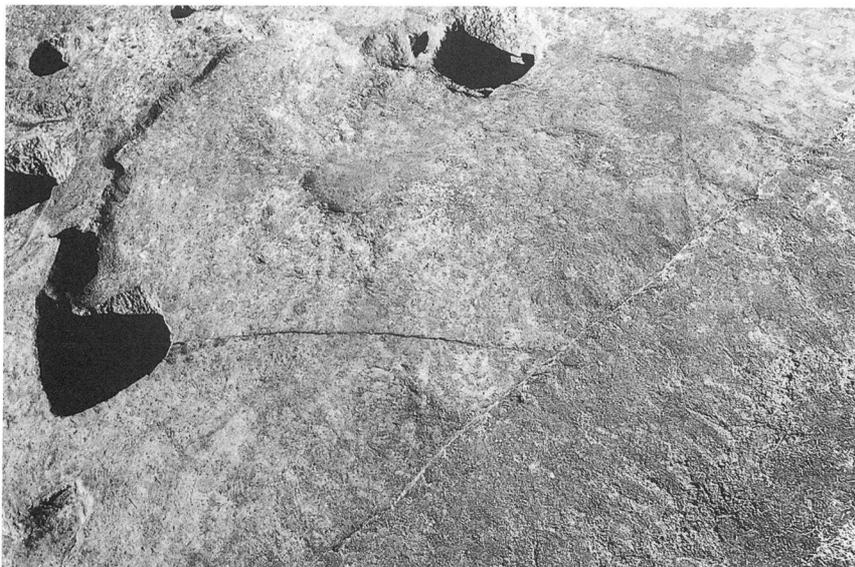
第84号住居跡  
遺物出土状況



第90号住居跡  
遺物出土状況



第98号住居跡  
完掘状況



第107号住居跡  
完掘状況



第107号住居跡  
遺物出土状況



第109号住居跡  
完掘状況

PL14



第111号住居跡  
遺物出土状況



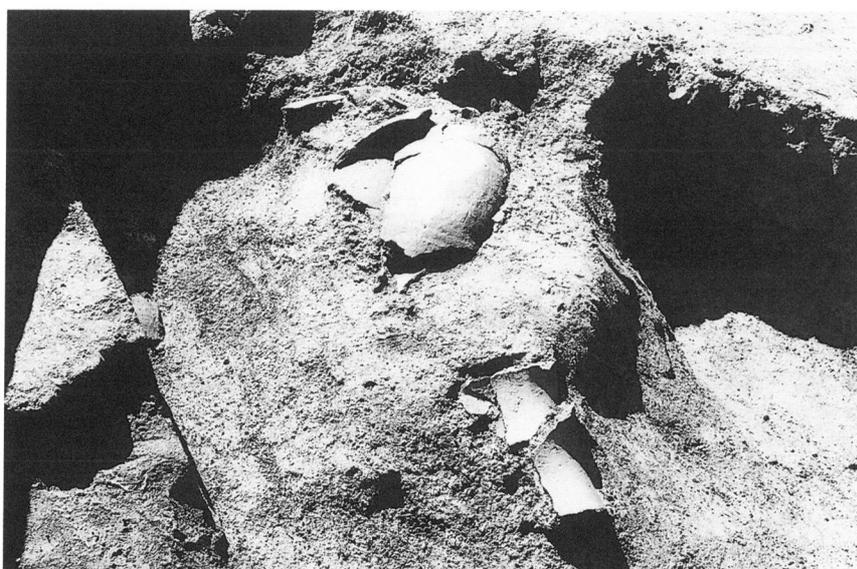
第111号住居跡  
遺物出土状況



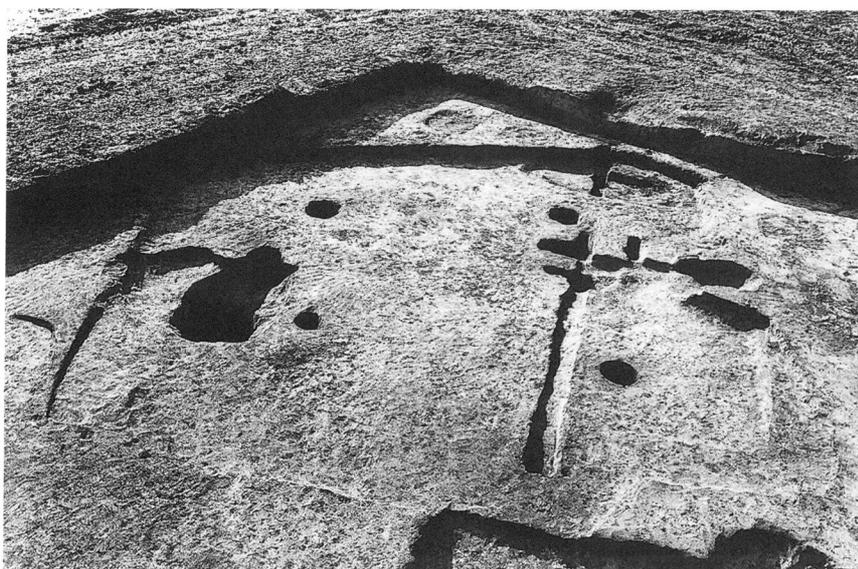
第128号住居跡  
完掘状況



第128号住居跡  
遺物出土状況



第128号住居跡  
遺物出土状況

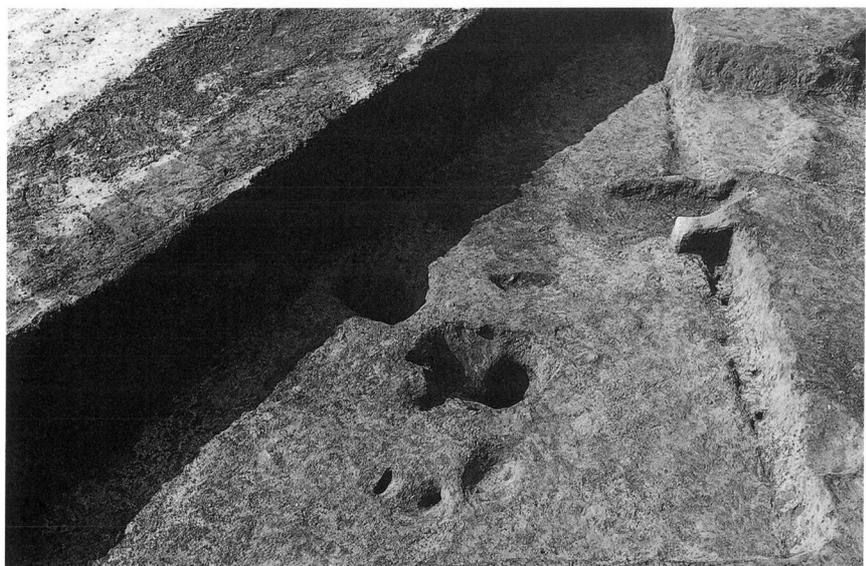


第160号住居跡  
完掘状況

PL16



第160号住居跡  
竈 遺物出土状況



第167号住居跡  
完掘状況



第167号住居跡  
竈 遺物出土状況



第170号住居跡  
完掘状況



第170号住居跡  
遺物出土状況



第172号住居跡  
完掘状況

PL18



第172号住居跡  
貯藏穴 遺物出土状況



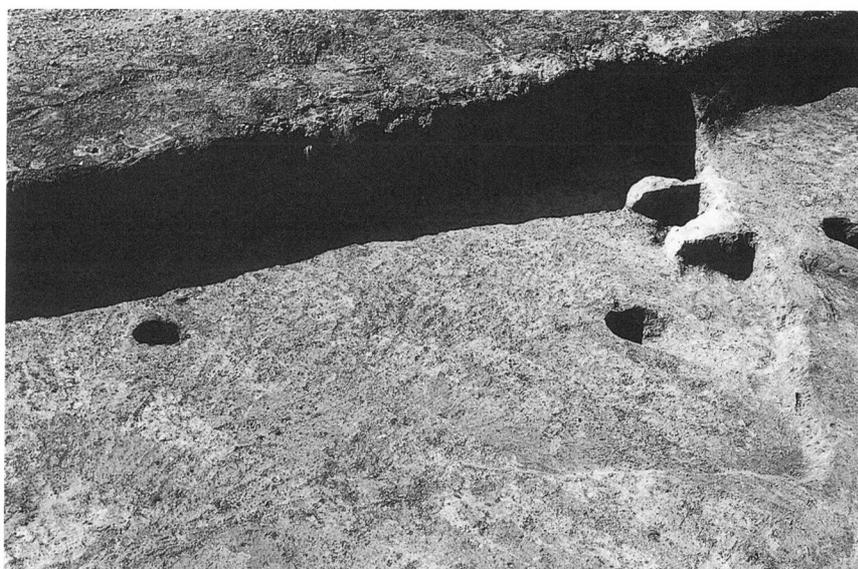
第176・178号住居跡  
完掘状況



第184号住居跡  
完掘状況



第184号住居跡  
遺物出土状況



第197号住居跡  
完掘状況



第197号住居跡  
竈 遺物出土状況

PL20



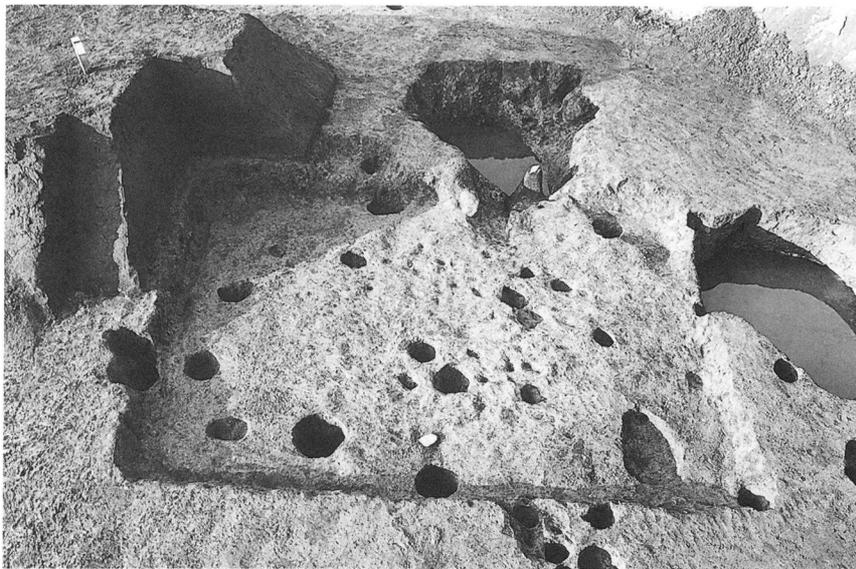
第201号住居跡  
完掘状況



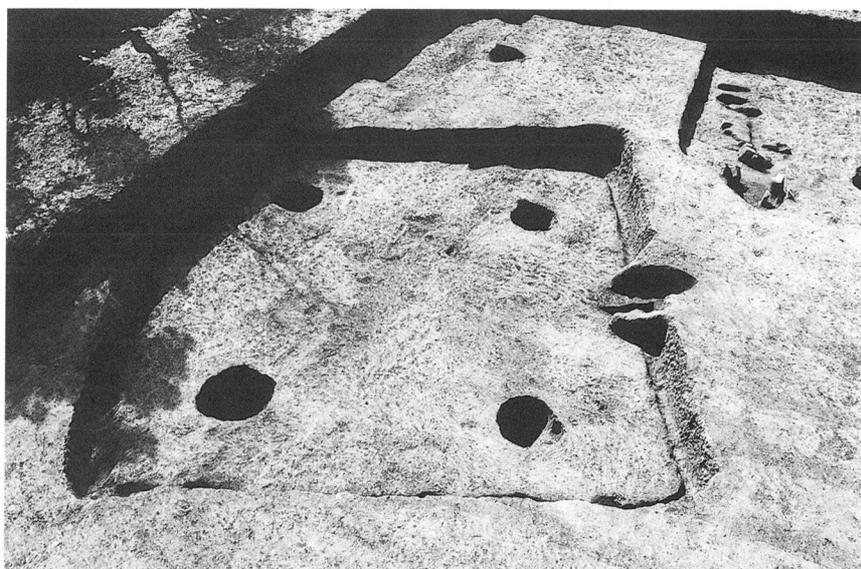
第201号住居跡  
遺物出土状況



第210号住居跡  
完掘状況



第214号住居跡, 第1・2井戸跡  
完 掘 状 況

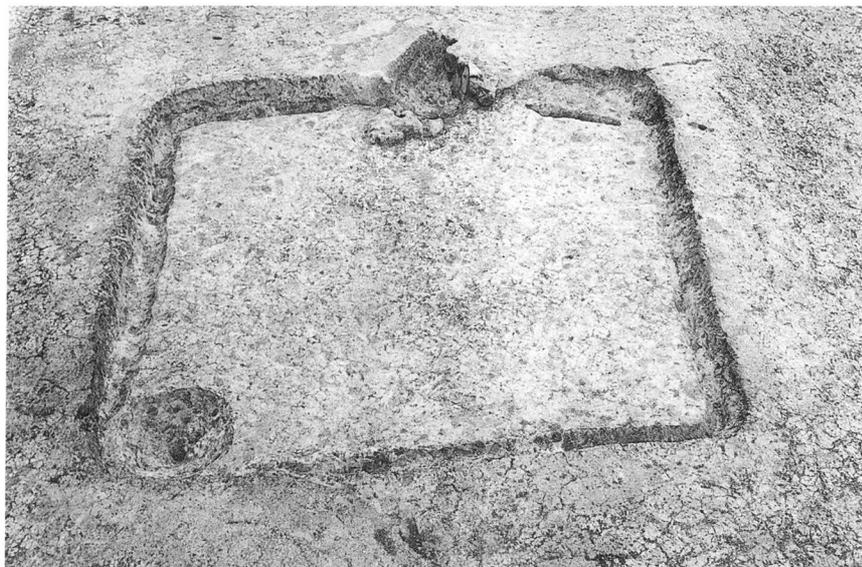


第215号住居跡  
完 掘 状 況



第215号住居跡  
竈 完 掘 状 況

PL22



第1号住居跡  
完掘状況



第1号住居跡  
竈遺物出土状況



第2号住居跡  
完掘状況

第2号住居跡  
竈 完掘状況



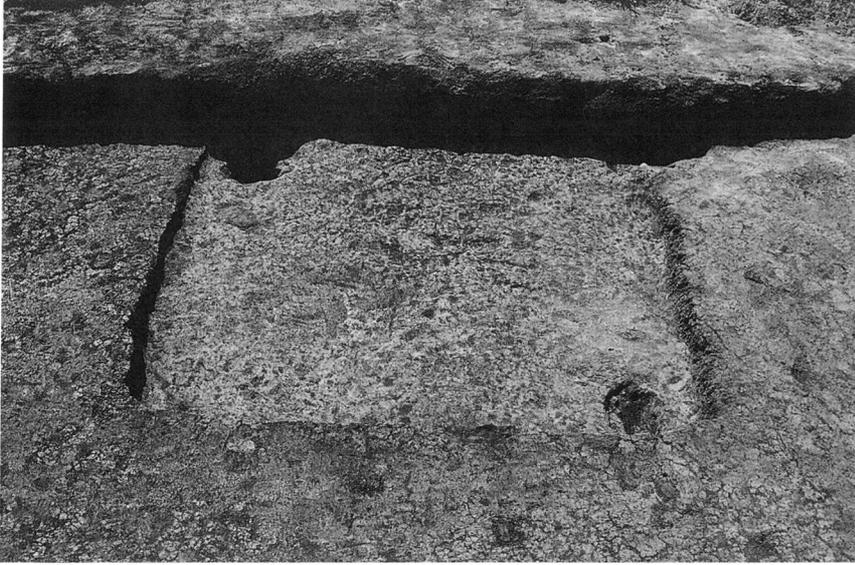
第3号住居跡  
完掘状況



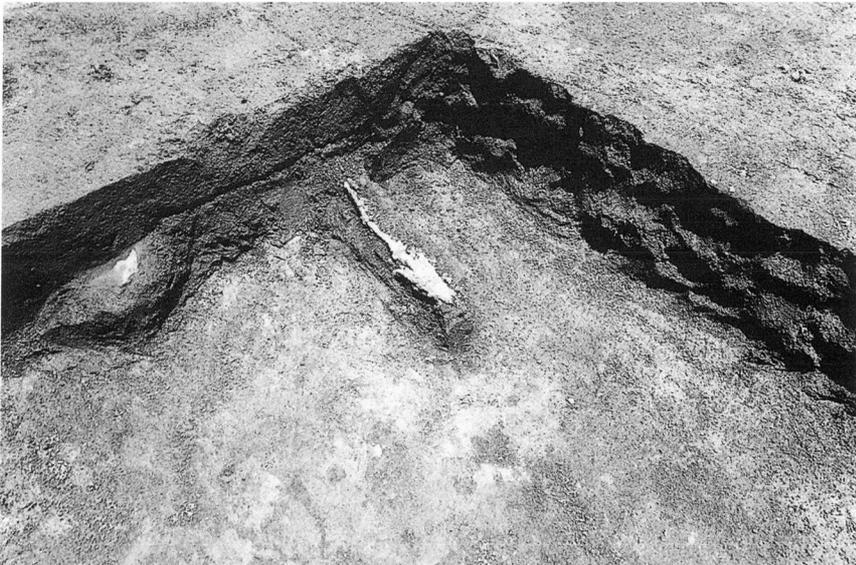
第3号住居跡  
竈 完掘状況



PL24



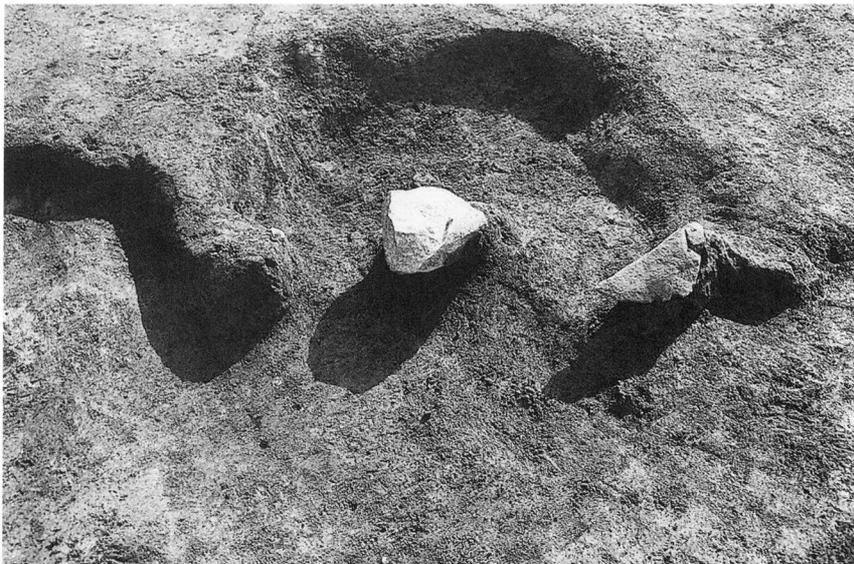
第4号住居跡  
完掘状況



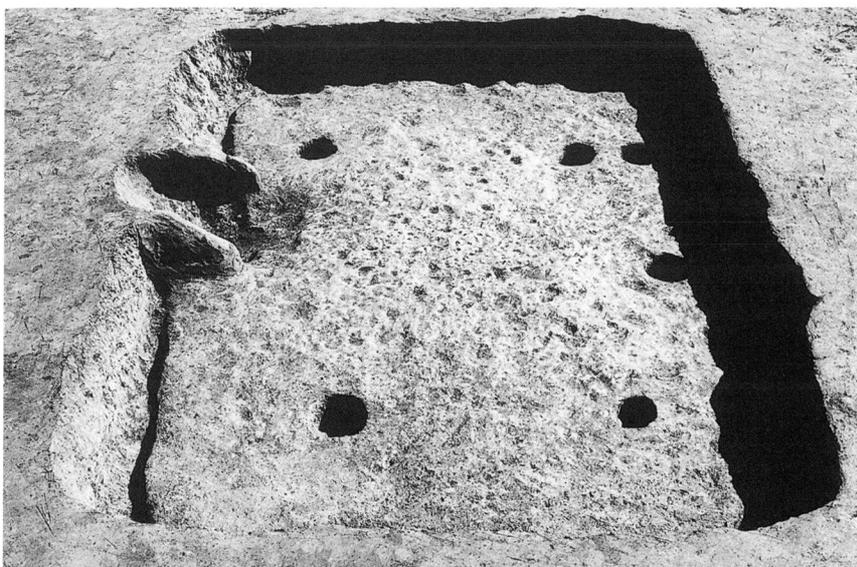
第4号住居跡  
遺物出土状況



第5号住居跡  
完掘状況



第 5 号住居跡  
竈 完掘状況

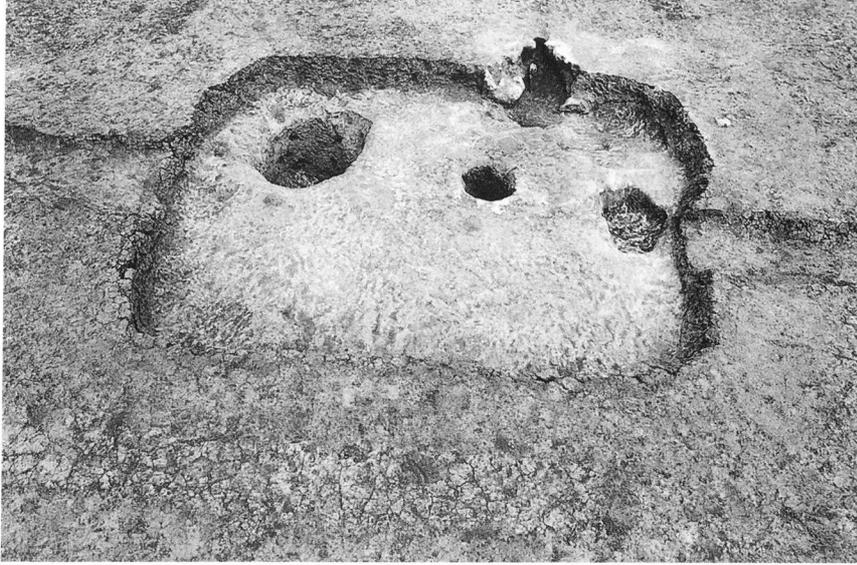


第 6 号住居跡  
完掘状況



第 6 号住居跡  
竈 完掘状況

PL26



第7号住居跡  
完掘状況



第7号住居跡  
竈 遺物出土状況



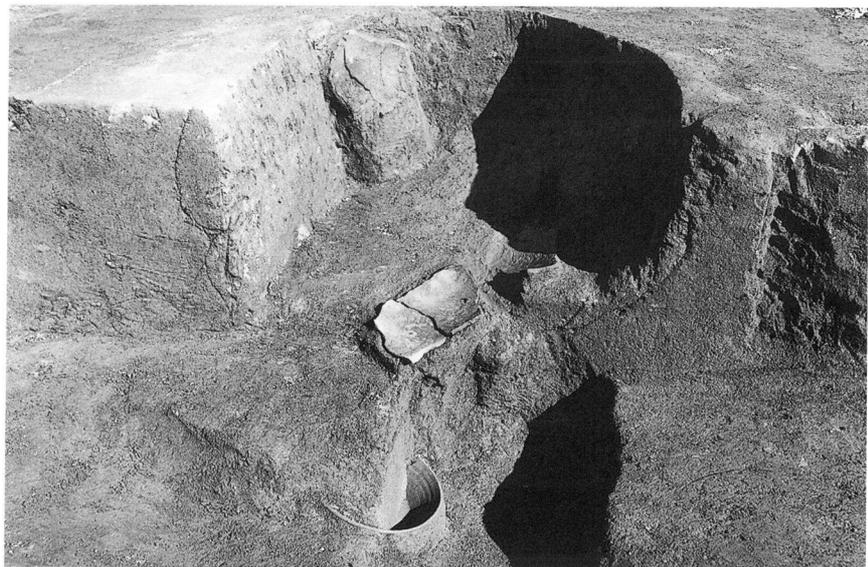
第7号住居跡  
P2 遺物出土状況



第 8 号住居跡  
完 掘 状 況

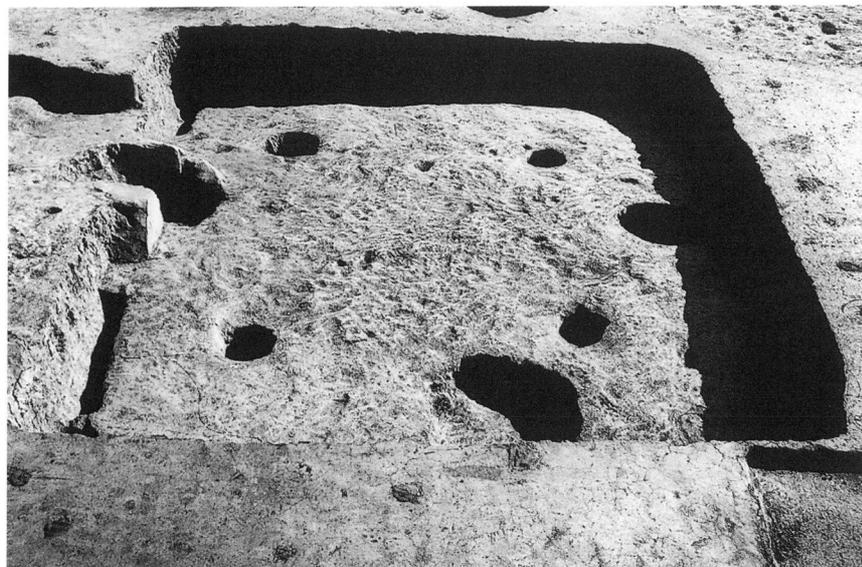


第 9 号住居跡  
遺物出土狀況

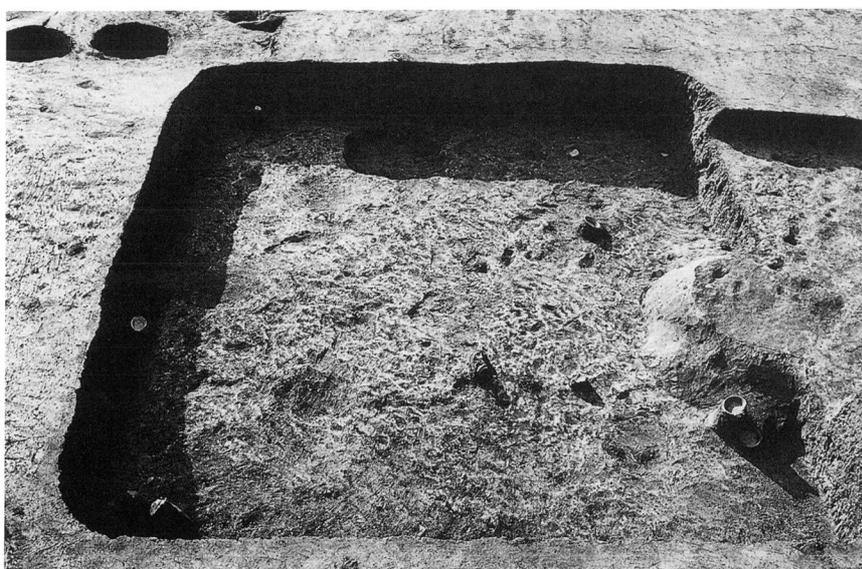


第 9 号住居跡  
竈 遺物出土狀況

PL28



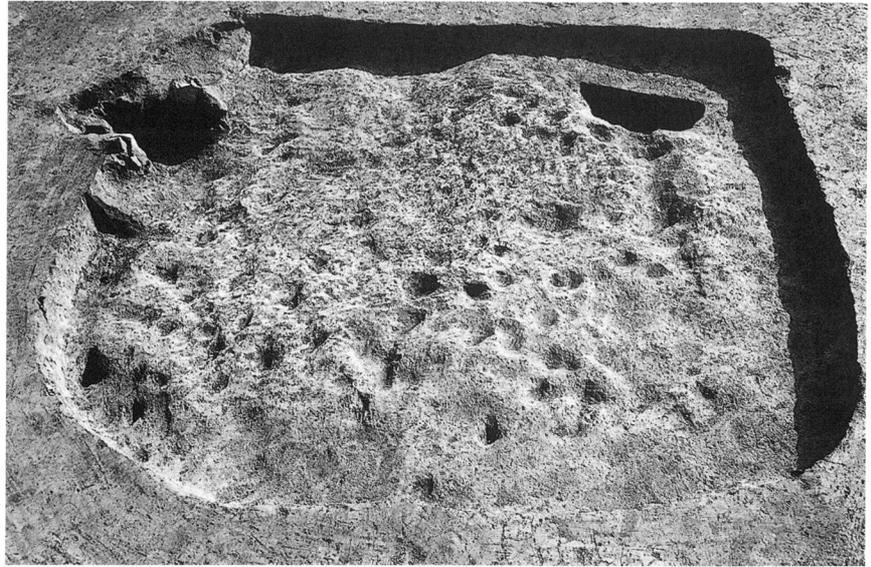
第10号住居跡  
完掘状況



第10号住居跡  
遺物出土状況



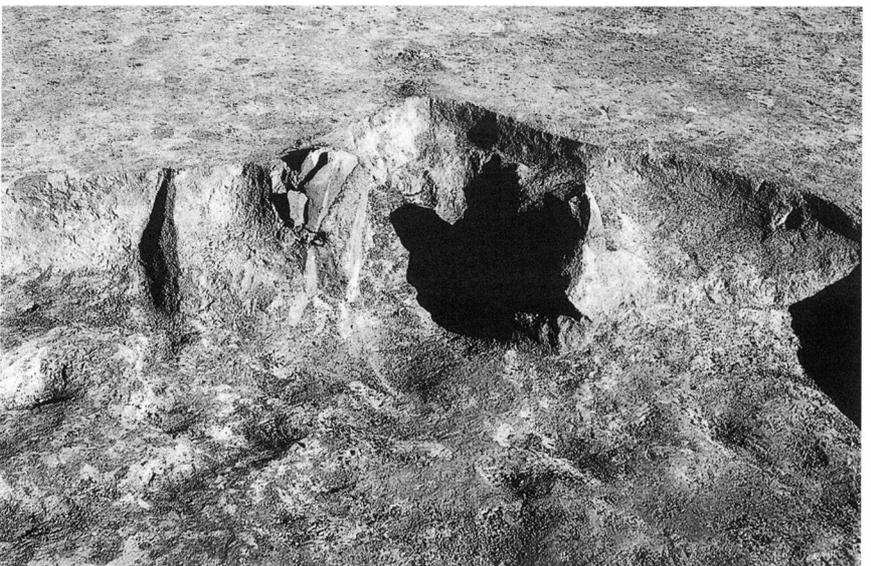
第11号住居跡  
完掘状況



第12号住居跡  
完掘状況



第12号住居跡  
遺物出土状況

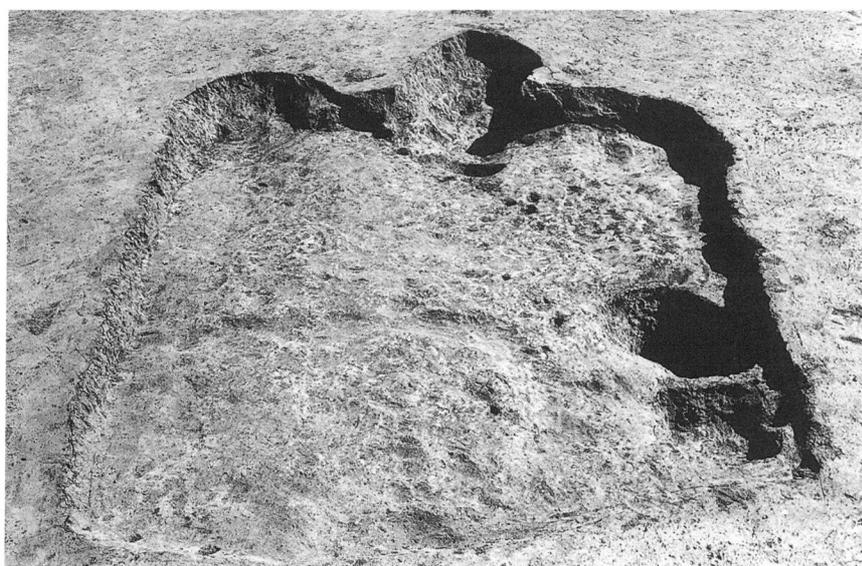


第12号住居跡  
竈 完掘状況

PL30



第13号住居跡  
完掘状況

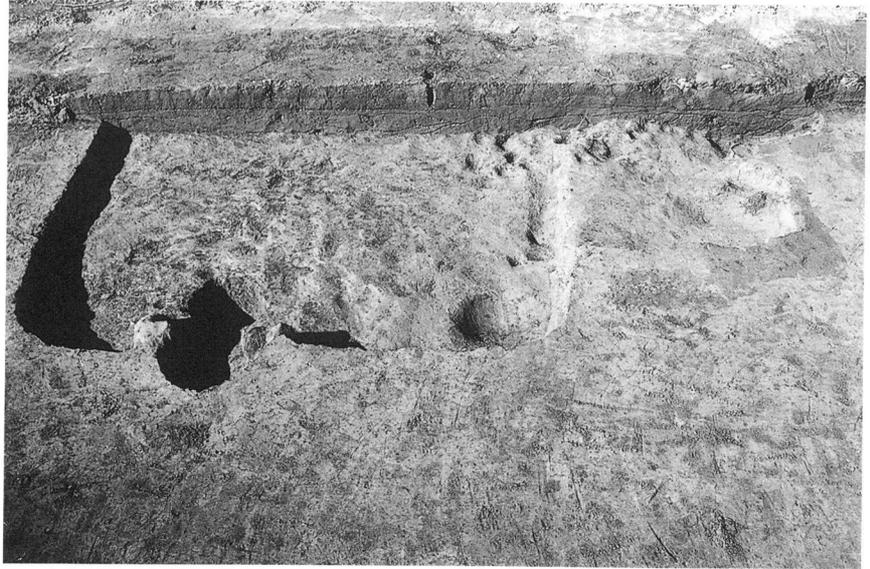


第14号住居跡  
完掘状況

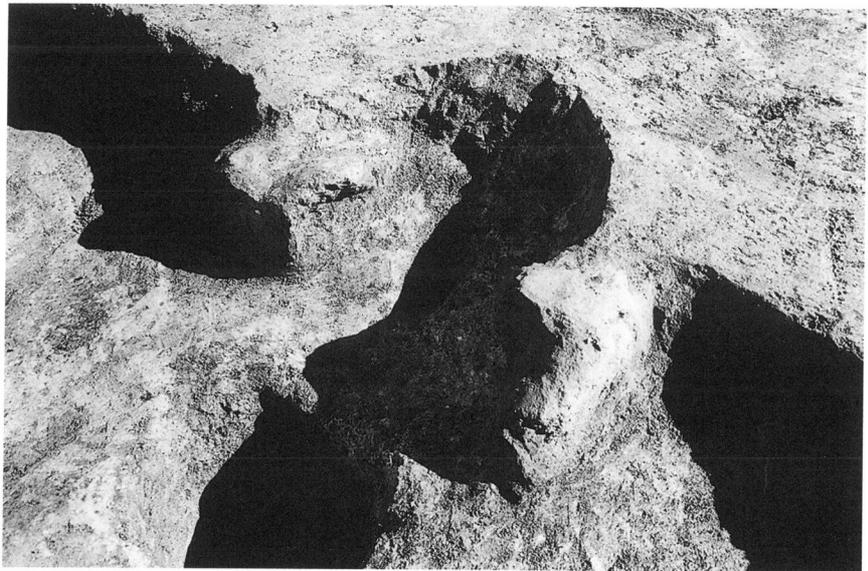


第14号住居跡  
竈 完掘状況

第15・108号住居跡  
完掘状況



第15号住居跡  
竈完掘状況



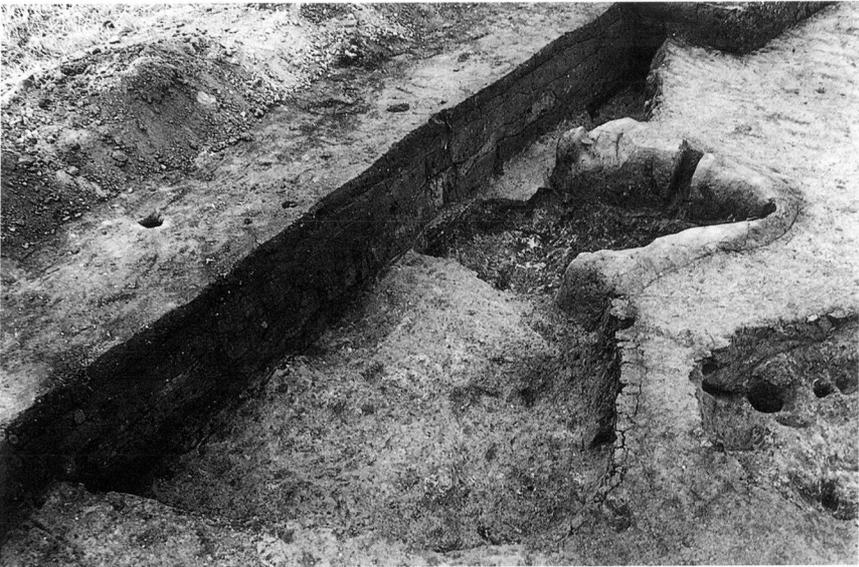
第16・17・18号住居跡  
完掘状況



PL32



第16号住居跡  
遺物出土状況



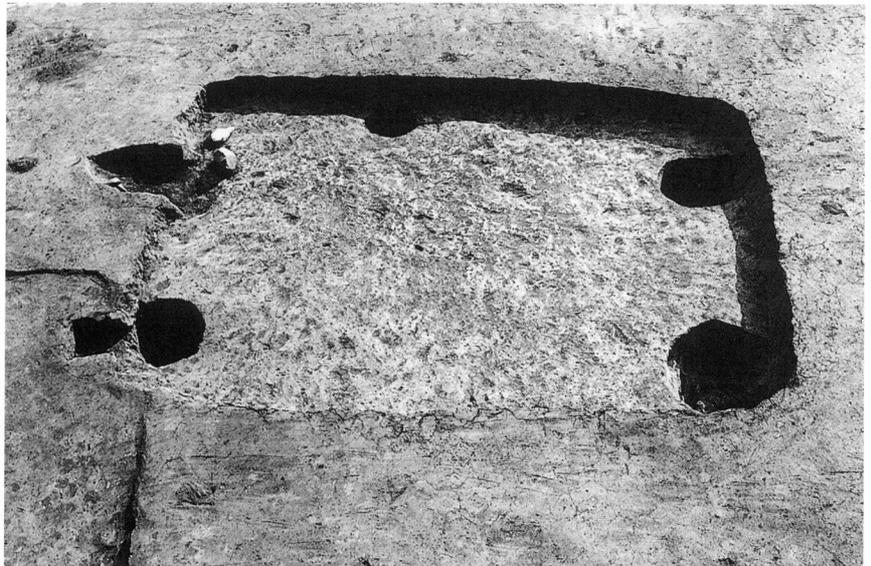
第19号住居跡  
完掘状況



第19号住居跡  
遺物出土状況



第19号住居跡  
竈 完掘状況

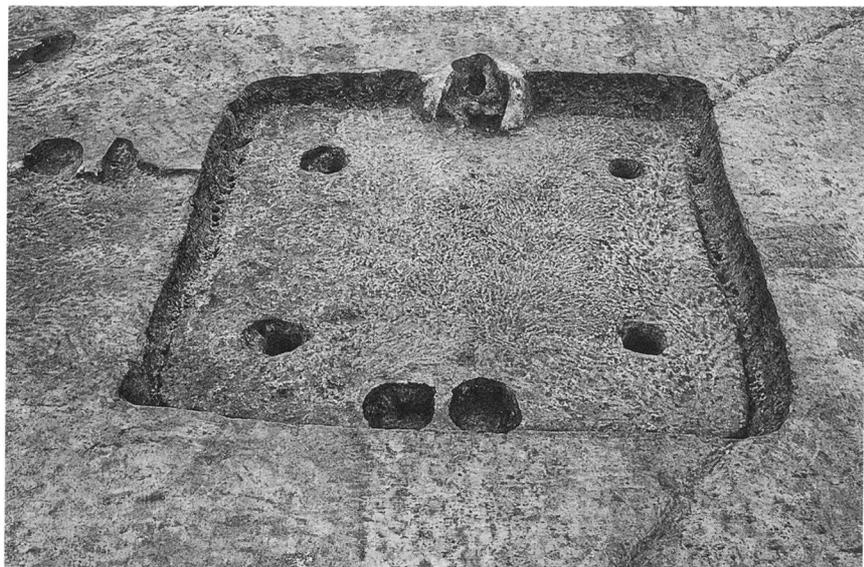


第22号住居跡  
完掘状況



第22号住居跡  
竈 遺物出土状況

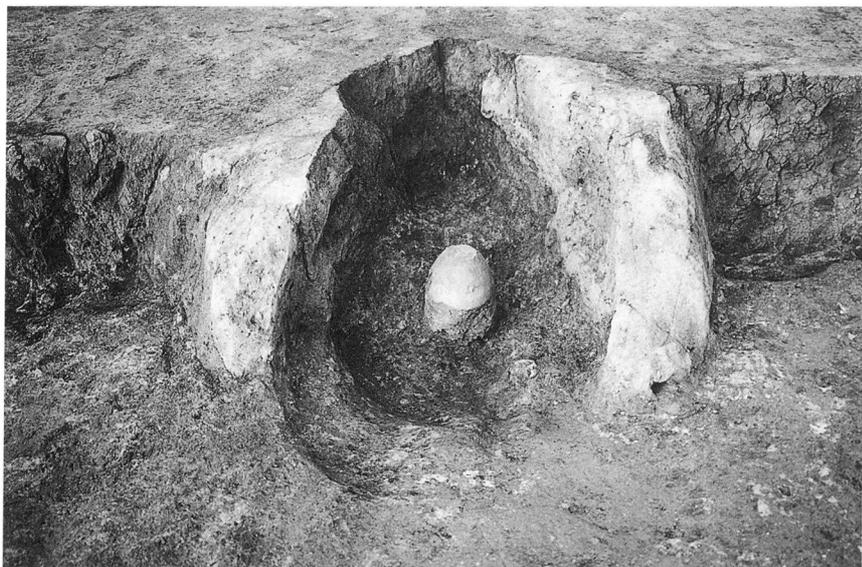
PL34



第23号住居跡  
完掘状況



第23・139号住居跡  
遺物出土状況



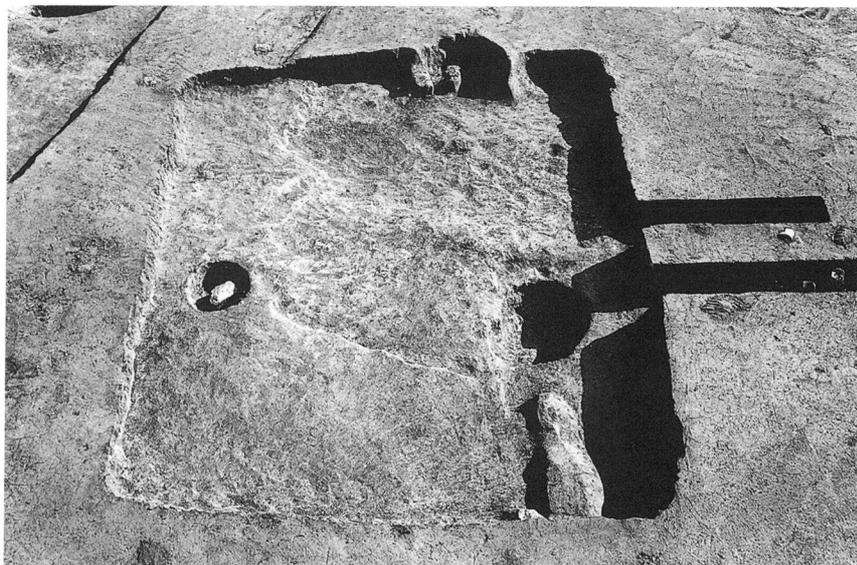
第23号住居跡  
竈 遺物出土状況



第27号住居跡  
完掘状況



第27号住居跡  
竈 完掘状況

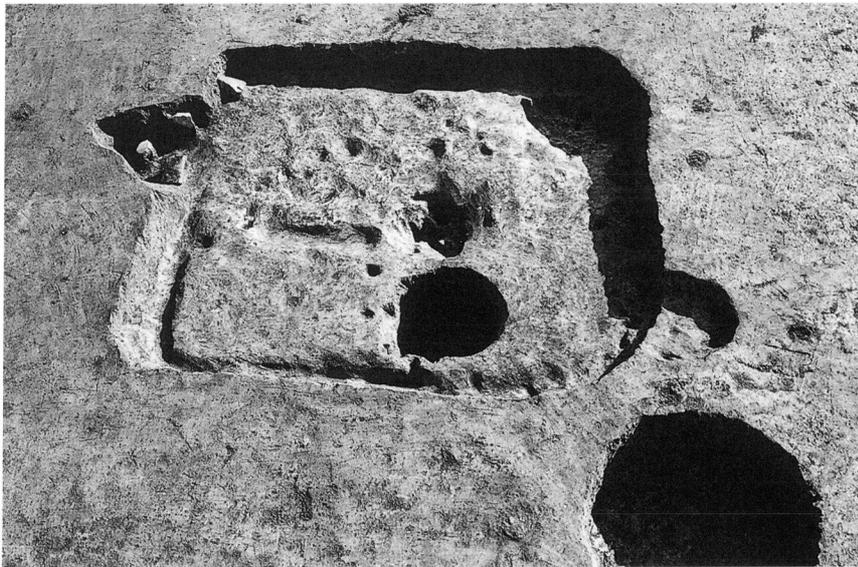


第28号住居跡  
完掘状況

PL36



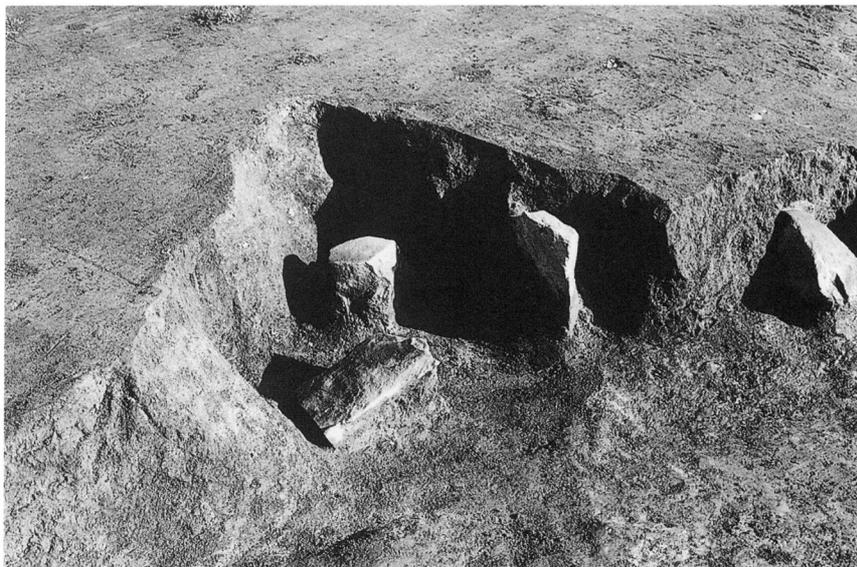
第28号住居跡  
竈 完掘状況



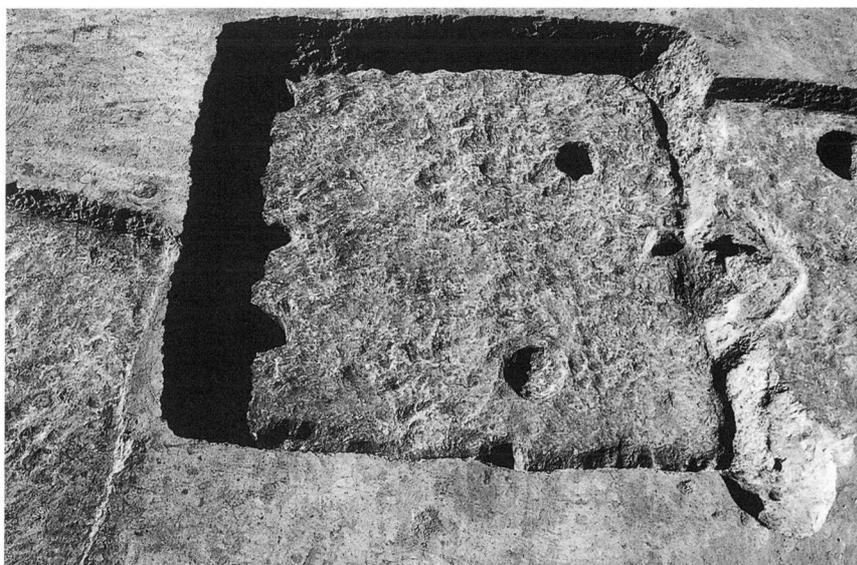
第29号住居跡  
完掘状況



第29号住居跡  
遺物出土状況



第29号住居跡  
竈 完掘状況

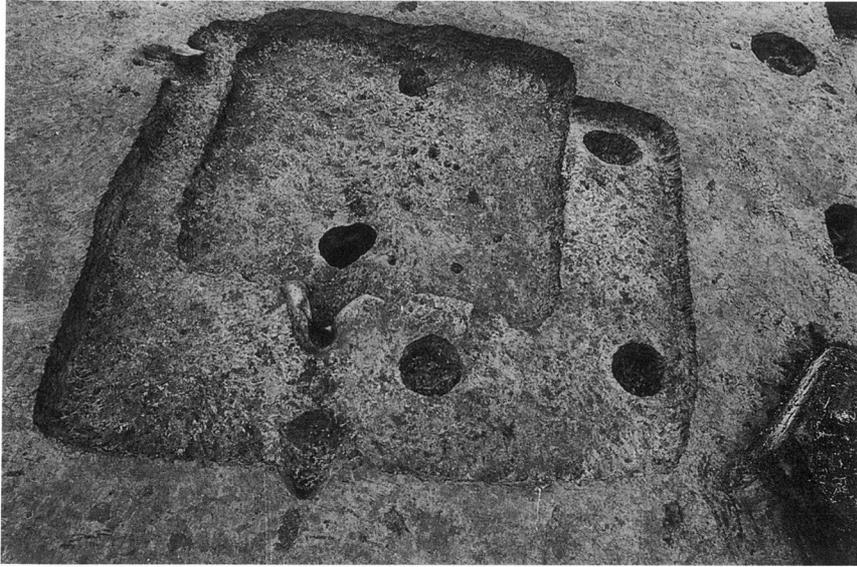


第32号住居跡  
完掘状況



第33・79号住居跡  
完掘状況

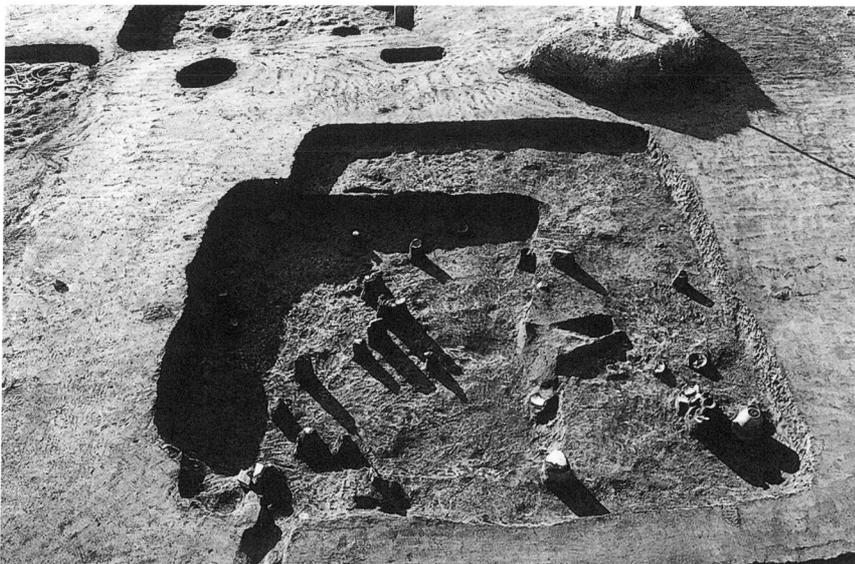
PL38



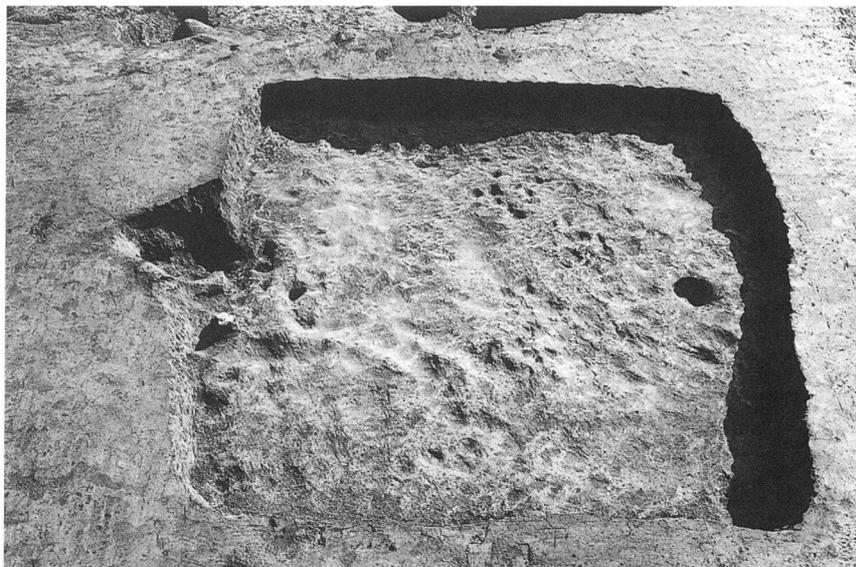
第33・34・79・90号住居跡  
完掘状況



第79号住居跡  
竈完掘状況



第34・90号住居跡  
遺物出土状況



第35号住居跡  
完掘状況



第39号住居跡  
完掘状況



第40・134号住居跡  
完掘状況

PL40



第41号住居跡  
完掘状況



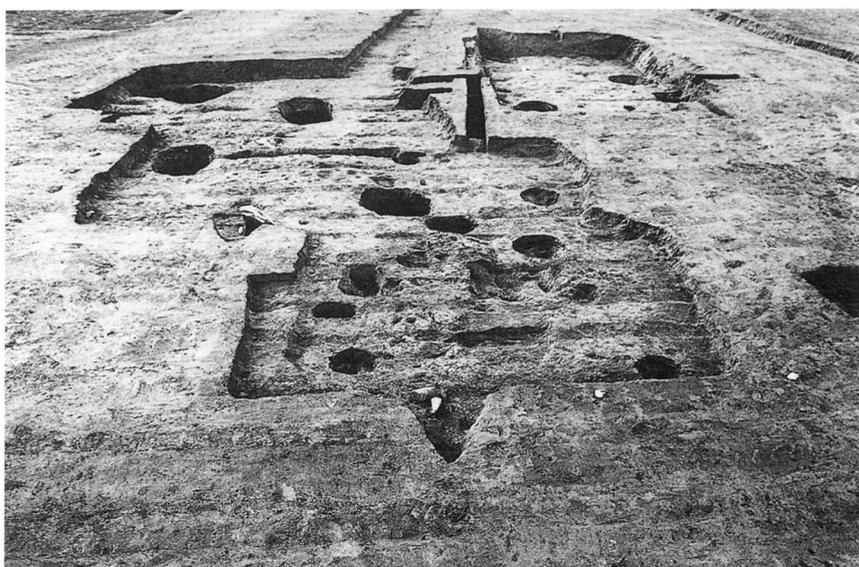
第41号住居跡  
遺物出土状況



第41号住居跡  
完掘状況



第42号住居跡  
完掘状況



第44・97・148号住居跡  
完掘状況



第46号住居跡  
竈遺物出土状況

PL42



第48号住居跡  
完掘狀況



第48号住居跡  
竈 遺物出土狀況



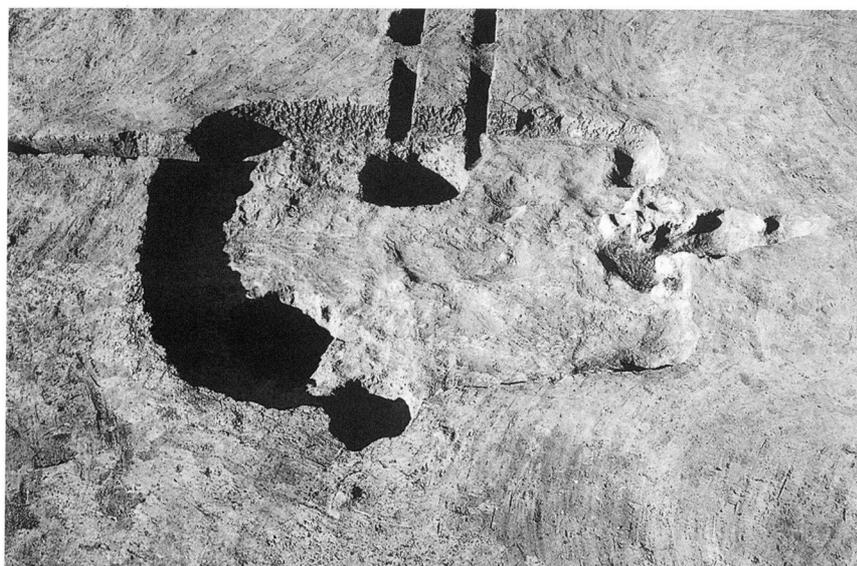
第49号住居跡  
遺物出土狀況



第51・52号住居跡  
完掘状況



第51・52・152号住居跡  
遺物出土状況



第55号住居跡  
完掘状況



第55号住居跡  
竈 完掘状況



第55号住居跡  
竈 遺物出土状況



第56号住居跡  
完掘状況



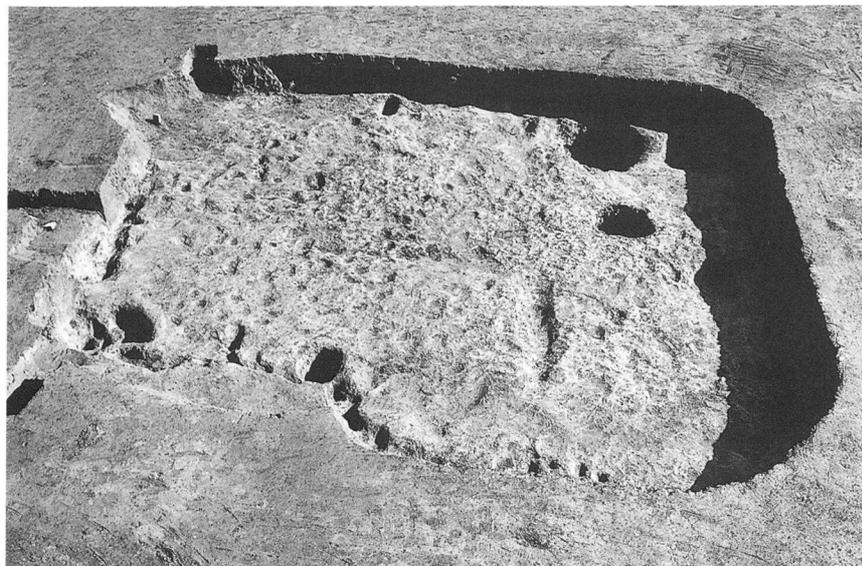
第57・74号住居跡  
完掘状況



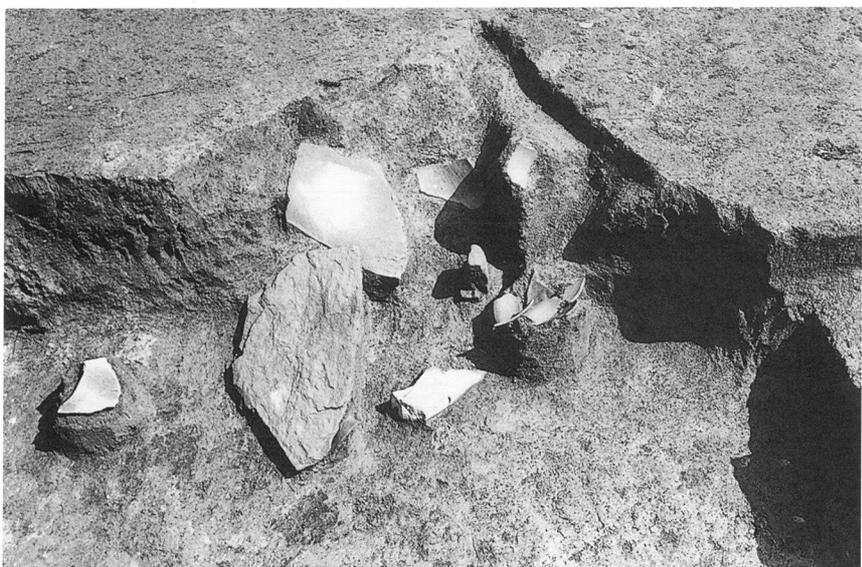
第58号住居跡  
完掘状況



第58号住居跡  
竈遺物出土状況



第58・59号住居跡  
完掘状況



第59号住居跡  
竈 遺物出土状況



第60号住居跡  
完掘状況



第60号住居跡  
竈 完掘状況



第61号住居跡  
完掘状況

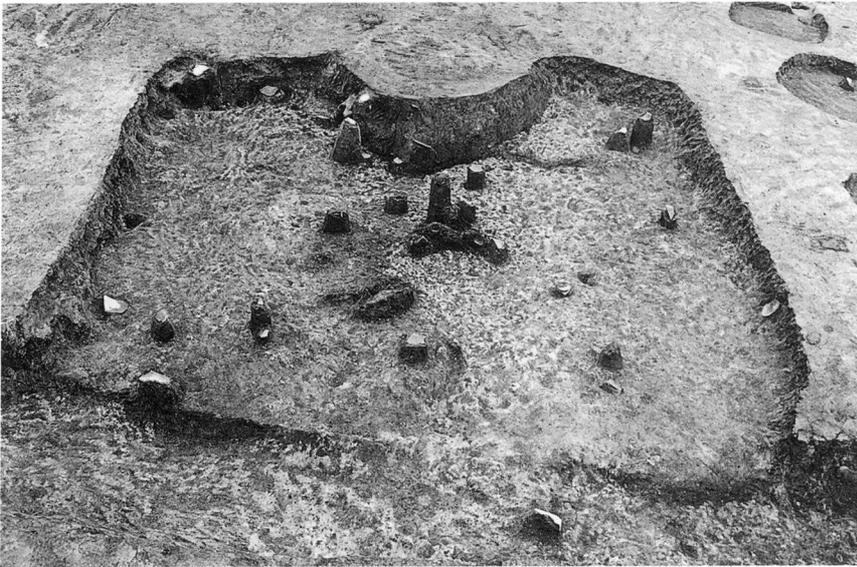


第61号住居跡  
遺物出土状況

PL48



第63号住居跡  
完掘状況



第63号住居跡  
遺物出土状況



第63号住居跡  
竈 遺物出土状況